

ニ官舎貸渡規則別紙ノ通相設候條從來ノ官舎或ハ官廳
 附屬ノ家屋等貸渡候向ハ本年一月一日ヨリ宿代取立大
 藏省へ可相納元金建坪等取調ノ儀院省〔使〕ハ大藏省
 廳府縣ハ内務省へ可申出此旨相達候事
 但借地料ノ儀ハ明治八年七月第十四號布告官有地第
 二種但書ノ通可相心得事

(別紙)

官舎貸渡規則

第一條 官舎貸渡ス時ハ毎月宿代取立ツヘシ
 但獄舎〔懲役場〕倉庫定番見張番等並ニ鐵道各驛長各
 所燈明番等ハ此限ニアラス其他公務ノ都合ヲ以テ官
 舎貸渡ス者ト雖モ宿代取立ルハ勿論ナレトモ該官舎
 ノ内公用私用ニ供スル間席ヲ區劃シタル向ハ其私用
 ニ供スル間席ノミ宿代取立ツヘシ
 第二條 宿代ハ元金ノ八分ヨリ一割迄ヲ制限トシ適宜
 斟酌シテ取立ツヘシ〔右取立高ノ内七分ハ上納三分
 ハ其應ニ備置修繕費ニ充ツヘシ〕
 第三條 官舎新營ノ分ハ其建築費ノ總額古家作ノ分ハ
 買上直段或ハ當時買買スヘキ直段ヲ以テ滿三年間ノ
 元金ト定メ爾後滿三年毎ニ一旦評價セシメテ元金ヲ
 改メヘシ日今新營或ハ買上ノ年度ヨリ既ニ滿三年ヲ

過ルモノハ此節一旦評價セシメテ元金ヲ改メヘシ
 但新營ノ分元金ハ石礎入費ヨリ計算スヘシ且貸渡
 ノ節修繕ノ分ハ其費額ヲ元金ニ加ヘ爾後修繕ノ費
 額ハ加ヘサルヘシ

第四條 宿代ハ年ヲ以テ計算スヘシト雖モ取立方ハ月
 割タルヘシ
 但十六日以後ニ貸渡タル時又ハ十五日以前ニ返却
 シタル時ハ半月分取立ルヘシ

第五條 〔宿代上納方ハ三箇月毎ニ取調修繕費遣拂ノ
 分ハ毎年六月迄ニ精算帳差出シ殘金アラハ後日ノ費
 用ニ充置ヘシ〕

第六條 官舎外廻リ雨漏又ハ臨時大破ノ外一切ノ修繕
 ハ自費タルヘシ

第七條 拜借人自費建増等願出ル時ハ實地検査ノ上差
 支無之分ハ允許スヘシ

第八條 拜借人交換ノ節ハ篤ト検査ヲ遂ケ若シ毀損ス
 ル所アルカ又ハ附屬品等不足スルトキハ辨償セシム
 ヘシ
 但自費建増等ノ存廢ハ新舊拜借人ノ示談ニ任スヘシ

二 官舎貸渡内規

(明治二十一年十二月 司法大臣 內閣總理大臣通達)

明治九年太政官第五十三號達官舎貸渡規則ノ不完全ナ
 ルニヨリ管理上不都合不少ニ付今般別紙ノ通内規ヲ定
 メ其足ラサル所ヲ補ヒ明治二十二年一月一日以降之ヲ
 施行ス依テ此意ヲ諒セラルヘシ

(別紙)

官舎貸渡内規

第一條 別紙ニ掲クル所ノ官吏ハ官舎ニ居住スルモノ
 トス

但シ公務上差支ナキ者ハ所屬長官ノ意見ニ由リ又
 ハ其認許ヲ經テ官舎ニ居住セサルモ妨ケナシ

第二條 官舎相當ノ建具疊敷物窓掛燈爐通信器點火器
 及對客室必要ノ椅子卓ニ限リ官費ヲ以テ設クルモノ
 トス

但大臣ノ官舎ニ限リ以上物品ノ外接客用飲食器接
 客室ニ備フル所ノ花瓶書棚物置臺時計ハ官費ヲ以
 テ之ヲ設ク且公用室客室及館外ノ點火竝ニ公用室
 及客室ノ石炭ハ官費給與スルコトヲ得

第三條 官舎及官舎附屬ノ建物物品等ノ保存上必要ナ
 ル手入ハ一切居住人ノ自費トス

天災若クハ自然ノ腐朽ニ由リ修繕ヲ加フルコトヲ必
 要トスルトキハ官費ヲ以テ支辨ス

第四條 官舎居住人不注意ニ因リ官舎及其附屬物ヲ毀
 損シタルトキハ自費ヲ以テ支辨セシム

第五條 各廳ノ便宜ニ由リ其長官ニ於テ別表外ノ官吏
 官舎ニ居住セシムル時ハ總テ官舎貸渡規則ニ據ル
 ヘキモノトス

(別表)「抜抄」

各省大臣

大臣秘書官

〔集治監〕廳、府縣司獄官吏ノ内職務ニ由リ特ニ官舎ニ
 居住ヲ命スル者

司法省〔各始審裁判所〕豫審判事及上席檢事
 司法大臣ニ於テ指定スル島嶼ニ在動スル判事檢事及裁
 判所書記其他各廳ノ技術官ニシテ必要アルトキ各廳長
 官ニ於テ大藏大臣ト協議ノ上官舎居住ヲ命スル者
 (司法省管外ニ係ルモノハ略ス)

三 官舎貸渡規程

(明治四十二年七月 司法省 會檢甲第一〇號)

官舎貸渡規程別冊ノ通相定ム

第一條 官舎ヲ分ツテ義務官舎、普通官舎ノ二種トス
第二條 官舎貸渡内規第一條ニ定メタル者ノ居住ニ供スル官舎ヲ義務官舎トシ其他ノ者ノ居住ニ供スル官舎ヲ普通官舎トス

第三條 疊建具其他ノ附屬物ハ建物ノ構造ニ應シテ之ヲ設備シ備付品ニ付テハ第二章以下ノ規定ニ依ル

第四條 官舎外廻、雨漏、臨時大破其他自然ノ腐朽ニ因リ修繕ヲ要スルトキハ官費ヲ以テ支辨ス

第五條 紙張障子ノ張替、敷地内ノ草取掃除、點火料、燃料其他建物、物品等ノ保存上ニ要スル手入ハ居住者ノ自辨トス但官舎貸渡内規第二條但書ノ場合ハ此限ニ在ラス

第六條 居住者自費ヲ以テ官舎ノ建増ヲ爲サントスルトキハ「官有財產」保管者ニ申出ヘシ

第七條 前條ニ依リ建増ヲ爲シタル居住者官舎ヲ立退グトキハ之ヲ原形ニ復スヘシ但新舊居住者協議ノ上其儘之ヲ据置クコトヲ得
前項但書ノ場合ニ於テハ新舊居住者連署ヲ以テ「官

有財產」保管者ニ其旨ヲ届出ヘシ

第八條 居住者ノ故障怠慢ニ因リ建物又ハ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ
一 建物及附屬物ノ亡失毀損ニ係ルトキハ「官有財產」保管者之ヲ調査シ辨償ノ責アリト認メタルトキハ司法大臣ニ伺出ヘシ但居住者ニ於テ之ヲ填補シタルトキハ此限ニ在ラス

二 備付品ノ亡失毀損ニ係ルトキハ「物品出納順序第十六條」又ハ「監獄會計處務規程第三百八十八條」ニ依ル

第九條 義務官舎ヲ普通官舎ニ變更シ又ハ普通官舎ヲ義務官舎ニ變更セントスルトキハ「官有財產」保管者ハ司法大臣ニ伺出ヘシ

第二章 義務官舎
第十條 義務官舎ハ其構造ニ應シ絨氈又ハリノリユームノ類ヲ敷込コトヲ得但疊敷ノ間席ハ此限ニ在ラス

疊ハ二箇年ヲ經過スルニアラサレハ表替ヲ爲スコトヲ得ス
第十一條 接客室ハ其室ニ應シ左ノ物品ヲ備付クルコトヲ得

一 窓 掛

一 煖爐又ハ火鉢

一 通信器

一 點火器

一 椅子

一 卓子

一 卓 掛

檢事正及典獄ノ官舎ニ限リ司法大臣ノ認可ヲ經テ前項以外ノ物品ヲ備付クルコトヲ得

第十二條 大臣官舎ノ物品ニ付テハ官舎貸渡内規第二條ニ依ル

第三章 普通官舎

第十三條 院長、檢事總長、檢事長及所長ノ居住ニ供スル官舎ハ總建坪ノ凡三分ノ一以内ヲ限リ區劃シテ公用間席ヲ設クルコトヲ得

第十四條 居住者ハ官舎貸渡規則第一條及第四條ニ依リ宿代ヲ納ムルモノトス

第十五條 宿代ヲ定メ又ハ其改定ヲ要スル場合ニ於テ

ハ「官有財產」保管者ハ第十六條乃至第十八條ノ手續ヲ爲シ司法大臣ニ伺出ヘシ

第十六條 宿代ハ官舎貸渡規則第二條及第三條ニ依リ算定スルモノトス但北海道ニ限リ元金ノ百分ノ五トス

公用間席ノ區劃アルモノニ付テハ更ニ其部分ニ對スル元金ヲ算定シ之ヲ控除スヘシ

第十七條 大修繕ヲ施シタル場合ニ於テハ官舎貸渡規則第三條ノ期間内ト雖モ更ニ官舎全體ノ評價ヲ爲シ元金ヲ改ムヘシ

第十八條 前二條ノ場合ニ於テ評價ヲ要スルトキハ評價人三名以上ヲシテ各別ニ之ヲ爲サシムヘシ

第四章 附 則

第十九條 本令ハ明治四十二年八月一日ヨリ施行ス

第二十條 從來公用間席ノ設ケナキモノ又ハ既ニ設ケタル公用間席ニシテ第十三條ノ規定ニ適合セサルモノハ次期ノ宿代改正ノ日マテ其儘据置クモノトス

第二十一條 明治二十二年司法省會檢甲第一三二號訓令ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

四 官舎居住ヲ爲シ得ヘキ刑務官吏

指定ノ件

明治三十三年十月
司法省
會甲第一二九三號

改正
明治三十四年第一二九一號、三十八年第一三
三七號、大正二年會甲第六三九號、一年一
第一五四〇號、一四年行甲第九四六號、

明治二十一年十二月達官舎貸渡内規別表中「内務省司
獄官吏」ヲ「集治監、廳府縣、司獄官吏」ニ改メ「北海
道廳及沖繩縣神奈川縣司獄官吏及」ヲ削除セラレタル
ニ付該内規ニ由リ官舎居住ヲ爲シ得ヘキ官吏ヲ左ノ通
指定ス

一 典獄

一 典獄補、看守長、通譯、保健技師、保健技手、
教誨師、教師、作業技師、作業技手、看守女監
取締ノ中特ニ典獄ヨリ官舎居住ヲ命シタル者

五 工手官舎居住ノ件

明治三十四年七月
司法省
會甲第一二五四號

監獄建築ニ直接關係スル職員ハ可成建築場附近ニ居住

セシメ朝夕工事ノ監督ヲ嚴重ナラシムル必要有之候處
當監獄建築場ハ僻陋ノ土地ニシテ其ノ附近ニハ住居ト
スヘキ貸家ナク多數ノ者ハ止ムヲ得ス比較的遠地ヨリ
通勤スルノ實況ニ有之公務上不便不勝候建築中ニ限リ
工手ニ對シ官舎居住ヲ相命シ度差支無之候哉

明治四十四年二月
司法省
會甲第一三六號

工手ノ官舎居住ハ宿代ヲ取立テ有賃トシテ命スヘキモ
ノニ有之候得共建築中番人ヲ命シ宿泊セシメラルルハ
官舎貸渡規程ニ依ラス貴官限リ御取扱相成差支無之

六 官舎水道給水料官費支辨ノ件

明治三十四年七月
司法省
會甲第一二五四號

監獄附屬官舎水道給水料ノ儀ハ自今官費ヲ以テ支辨ス
ルコトニ決定相成候條配付豫算定額内ニ於テ流用支辨
相成度

追テ支出科目ノ儀ハ「雜給雜費」ノ項雜費ノ目中道路
疏水等手當ノ節ニテ整理相成度

七 官舎并戸釣瓶、釣瓶繩處辨ノ件

昭和二年十月
司法省
會甲第一二六八號

標記物品ハ官費ヲ以テ處辨スヘキモノト思料セラレ候
ヘ共一面官舎居住者ヨリ處辨スルモノトノ説有之聊カ
疑義相生シ候條何分ノ御教示相煩度

昭和二年十一月
司法省
會甲第一四六九號

官費備付相成可然

八 無賃官舎障子張替ノ件

明治四十年九月
司法省
會甲第一二九三號

義務官舎ノ障子ハ居住人交替ノ場合ニハ官費ニテ張替
得ルヤ

明治四十年九月
司法省
會甲第一二九三號

官費支辨ノ限ニアラス

九 竈、風呂桶設備ノ件

明治二十七年十月
司法省
會甲第一二四九號

當廳檢事正及豫審判事ノ居住ニ宛タル官舎中備付品ノ
儀ニ付テハ兼テ訓令ノ趣モ有之候處自今竈並風呂桶等
ノ据付ヲ請求スル輩モ有之右等ハ如何ナル振合ニ候ヤ
果シテ設備スルモノト假定スルニ於テハ爾來修繕ニ至
ルマテ官費ヲ以テ支辨セサルヲ得サル儀ナルヤ

明治二十七年十一月
司法省
會甲第一八五號

各自私費ヲ以テ据付クヘキ部分ニ屬シ官費支辨ノ限ニ
無之

一〇 廢舎官舎消毒費用ノ件

大正六年五月
司法省
會甲第一四八號

當廳廢舎事務室並官舎屋内消毒ノ必要有之當區衛生組
合ニ交渉ノ上消毒爲致候處該費用ハ單ニ廢舎若ハ官舎
消毒費用ト掲記シ「雜給及雜費」ノ項雜費ノ目「諸謝金

ノ節相當ナラムカ) ヨリ支出シ可然哉又ハ該費用ヲ内
 譯區分セシメ藥品(フオールマリン)代ハ(應費及
 修繕費)ノ項消耗品ノ目消毒器具借料ハ(雜給及雜
 費)ノ項雜費ノ目消毒ノ爲使用シタル入夫賃ハ同上備
 入料ノ目ヨリ支出スヘキモノニ有之候哉右消毒藥品ハ
 衛生組合ヨリ持來リ必要ニ應シ使用スルモノナルヲ以
 テ物品トシテ受拂ヲ爲スヘキモノニアラサル様思考セ
 ラレ疑議有之候間何分ノ御回示相煩度

(大正六年六月
 司法大臣官房會計課長回答
 會甲第一六五六號)

定期清潔法執行ノ爲又ハ臨時病者發生ノ爲要スル消毒
 ナルニ於テハ應舎ノ分ハ官費支辨スヘキモノナルモ官
 舎ノ分ハ居住者ニ於テ負擔スヘキ義ト存候尤居住者交
 替ノ際特ニ消毒ノ必要アリテ後住者ノ居住以前之ヲ行
 フ場合ナルニ於テハ官費ヲ以テ支辨スルモ差支無之ト
 存候而シテ右官費支辨ニ屬スル費用支出方ノ儀消毒費
 用トシテ取廻メ仕拂フ場合ハ前段貴見ノ通又費用ノ内
 譯區分シタル場合ハ後段貴見ノ通ニテ可然其ノ費用ヲ
 區分スルト否トハ實際上ノ便宜ニ基キ御取計相成可然
 ト存候

一一 民設會社ノ電氣燈瓦斯燈ヲ使
 用スル場合認可ヲ要スル件

(明治三十八年一月
 監獄局長 齋藤長通
 會甲第七號)

監獄ノ事務所監房等家屋内又ハ構内外ニ於ケル點燈ニ
 民設會社ノ電氣燈或ハ瓦斯燈ヲ使用スルニ當リ單ニ使
 用料ノミヲ支出シ之レカ設備ニ關スル經費ヲ要セサル
 場合ハ從來典獄限リ之ヲ決行セラルル向モ有之候處右
 ハ取締上及經濟ニ影響ヲ及ホスコト抄カラサル義ニ付
 自今新設又ハ増設ヲ要スル場合ハ點燈及電線電柱等ノ
 配置使用料支辨ニ關スル意見ヲ詳悉シ特ニ大臣ノ認可
 ナ受クル様御取計相成度

一二 電燈増設ニ關スル件

(昭和二年五月
 司法大臣官房會計課長依命通達
 會甲第一八八三號)

電燈増設ノ場合特ニ新營費ノ支出ヲ要スルコトナク且
 ツ其ノ使用料等ハ配賦豫算ノ範圍内ニ於テ支辨シ得ヘ
 キモノハ自今經伺ヲ要セス直ニ施行シ得ルコトニ相成
 候

第二十三章 物品

第二十三章 物品

物品

一 物品會計規則

(明治二十二年六月
勅令第八十四號)

改正 明治二十四年第七七號、三三年第三一八
號、大正一年第四八號、

第一條 此規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器
具器械、備品消耗品、動物其ノ他一切ノ動産ヲ云フ
但シ陸海軍ノ兵備ニ關スルモノハ各其ノ規則ニ依ル
政府ノ保管ニ屬スル物品ニシテ各省大臣ニ於テ特ニ
指定スルモノハ本規則ニ準用ス此場合ニ於テハ各省
大臣ヨリ會計検査院ヘ通知スヘシ

第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月
一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一
年度トス

第三條 物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ

以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官
吏トス

第五條 總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ

第六條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據
リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ
得ス

第七條 物品會計官吏ハ其ノ故意怠慢ニ依リ保管ノ物
品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第八條 各省大臣ノ定メタル規程ニ依リ各官吏以下ノ
使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官
吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免
ルコトヲ得

第九條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ
所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

物品會計官吏ノ代理官ハ其代理セル所爲ニ就テハ物
品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得

第十條 物品會計官吏ハ物品ノ出納帳簿ヲ備ヘ其ノ出
納ノ事實ヲ登記スヘシ

物品ノ消耗賣拂亡失毀損生産ノ爲ノ消費及其ノ他物
品會計官吏ノ保管ヲ離ルルヲ出トシ買入生産及其ノ

他ノ保管ニ屬スルヲ納トス
 第十條ノ二 各省大臣ハ検査ノ官吏ヲ命シ四年以内ヲ以テ一期トシ物品會計官吏ノ保管スル物品ノ全部ヲ精細ニ検査セシメ其調査ヲ作ラシムヘシ但屬費ニ屬スル物品ハ各省大臣適宜ニ検査ノ方法ヲ設クヘシ
 第十一條 常時出納ヲナササル倉庫若ハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シ目録ト現在品ノ照合ヲナサシメ其ノ調査ヲ作ラシムヘシ
 第十二條 在外各處其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ニアル物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ實況ヲ調査セシメ其ノ調査ヲ作ラシムヘシ
 第十三條 第十條ノ二第十一條第十二條ノ調査ニハ検査官吏及検査ヲ受タル物品會計官吏若ハ特ニ命セラレタル立會人之ニ署名スヘシ
 第十四條 (削除)
 第十五條 物品會計官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲物品出納計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ差出スヘシ
 物品會計官吏交替ヲナシタルトキハ前任官吏ハ前項

ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但シ前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ
 第十六條 前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シタルモノト同一ニ看做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲナスヘシ
 第十七條 (削除)
 第十八條 常時出納ヲナササル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各處其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調査ヲ以テ第十五條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計検査院ニ求ムルコト
 第十八條ノ二 會計検査院法第十六條ニ依リ委託検査ニ付シタル物品ニ對シテハ帳簿ヲ以テ出納ヲ證明セシメ第十五條ノ計算書ヲ省略スルコトヲ得
 第十九條 會計規則第七十五條第百二十五條第百二十六條第百三十二條乃至第百三十五條及第百四十四條ハ物品會計官吏ニ準用ス
 第二十條 物品ノ保管出納ニ關スル規定及帳簿ノ様式

ハ各省大臣之ヲ定メ發付前會計検査院ヘ通知スヘシ
 第二十一條 官吏ノ職務上必要ナル物品ノ交付及其ノ交付ヲ受タル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ヲ規定スヘシ
 第二十二條 此規則ハ明治二十二年十月二日ヨリ施行スルニ付
 二 收寄者食料用米麥購入取扱手續

明治三十六年五月
 司馬 監獄局長官通達
 監甲第五二九號

在監人食用ノ米麥購入ノ場合ニハ自今左ノ手續ニ依リ取扱相成度
 一 品質ハ見本ト對比ノ上全部之ヲ検査スヘシ
 二 廻シハ米麥各購入石數十分ノ一トシ抽籤ヲ以テ其依テ定メ衡量共ニ之ヲ爲スヘシ
 三 廻シノ衡量(斗概ノ辨方秤目ノ取リ方共)ハ監獄ト商人下等分ニ之ヲ行ヒ兩者ノ得タルモノヲ平均シテ
 四 廻シ以外ノモノハ秤衡ニ懸ク之日主簿ヲ總目方

テ前記ノ平均目方ヲ以テ除シ其石數ヲ算出スヘシ
 五 前項ノ秤目取リハ監獄之ニ當リ商人ヲシテ之ヲ爲サシムヘカラス
 六 米麥各二十石未満購入ノ時ハ前各項ノ手續ニ依ラス全部之ヲ量ルヘシ
 七 検査ニハ可成樽ヲ行ヒ秤ハ斗秤ヲ使用スヘシ
 三 甲乙刑務所間需用物品購買及製作委託ニ關スル取扱手續

明治三十七年六月
 會計局長官通達
 監甲第五二二號

監獄經濟並作業ノ便利ヲ計ル上ニ於テ甲監獄需用ノ物品ヲ乙監獄所在地ニ於テ購買シ又ハ製作材料ヲ乙監獄所在地ニ於テ購入シ同監獄ノ作業ニ依リ生産セシムル必要ヲ認ムルトキハ別紙取扱手續ニ依リ處理相成度
 (別紙)
 第一項 甲監獄需用ノ物品製作材料品ヲ乙監獄所在地

ニ於テ購入シテ同監獄ノ作業ニ依リ生計セシムルヲ要シ之ニ對スル仕拂豫算ノ委任換テ爲スチ便利ト認ムル場合ニ在テハ左ノ手續ニ依リ取扱フモノトス

一 甲監獄ハ物品ノ品目、品位、數量、單價及金額等豫定内譯、完製期日其他ノ要件調書ヲ添ヘ乙監獄ニ委託シ乙監獄ハ右委託ノ豫定金額ニ基キ之ニ對スル仕拂豫算委任換ヲ稟請シ認可ヲ得タル上物品ノ購買及製作ヲ爲スモノトス

二 乙監獄ハ前號物品ノ購買及製作ヲ完了シタルトキハ物品ハ保管轉換ノ手續ヲ以テ甲監獄ヘ送付スルモノトス

三 乙監獄ハ物品代及製作費用ノ支出證明上證據書ニ甲監獄ノ需用品ナル旨朱記スルモノトス

第二項 甲監獄需用ノ物品ヲ乙監獄所在地ニ於テ購入シ其ノ購買方ヲ乙監獄ニ囑託スル場合ニ在テハ左ノ手續ニ依リ取扱フモノトス

一 甲監獄ハ物品ノ品目、品位、數量等ヲ明ニシ公啓書案、契約書案、注文書、豫定價格調書ヲ添ヘ乙監獄ニ對シ契約擔當者ノ指定、公告及入札ノ執行、契約締結ニ關スル手續ヲ囑託スルモノトス但時宜ニ依リ相當ノ條件ヲ附シ豫定價格ノ算定納品

一ノ検査並其ノ受領、回送等ノ手續ヲ併セ囑託スルモ妨ナシ

二 乙監獄ニ於テ前號ノ囑託ヲ受ケタルトキハ其ノ手續ヲ履行シ之ヲ完了シタルトキハ直ニ其ノ關係書類ヲ取廻メ甲監獄ニ送付スルモノトス但入札及契約保證金ハ乙監獄ノ當該官吏ニ於テ之ヲ取扱ヒ官ノ取得ニ歸スルモノアルトキハ乙監獄ニ於テ送入ニ編入ノ手續ヲ爲スモノトス

三 隨意契約ヲ以テ購入スル場合モ前二號ノ例ニ準ス

四 米麥購入價格及購入先等附近刑務所へ互報方ノ件

(昭和二年十二月 行刑局長通牒 行甲第一七二七號)

(本文)

追テ刑務所共助ノ目的ヲ以テ爾今可成購入ノ都度其ノ價格及購入先等附近刑務所へ互報相成候様致度候

五 作業物品出納簿中器具器械及動物ニ付テハ價格登記ヲ省略シ得ルノ件

(大正二年七月 司法大臣官房會計課長通牒 會甲第一四三號)

〔監獄會計事務章程附屬第二十七號〕書式物品出納簿ハ作業品中器具器械及動物ニ付テハ當分ノ内其ノ單價及價格ノ登記ヲ省略スルモ差支無之旨決定相成候ニ付右様御了知相成度

六 物品出納簿記帳方ノ件

(大正六年二月 監獄會計課長通牒 會甲第二五〇號)

〔監獄會計事務章程第九十八條第一號物品出納簿第二十七書式甲丙號〕所在區別欄ハ單ニ出納セシ其ノ數ヲノミ記帳シ現在數ヲ表記セサルコトニ相成居候爲品種ノ夥多ニシテ出納ノ頻繁ナル當監ノ如キニ於テハ一見現在數ヲ知悉スルコト容易ナラス整理上不便且手數ヲ

要シ候ニ付別紙ノ通差引シタル現在數ヲ表記スル事ニ致度候條御認可相成度

ルコトト)記載方ノ件ニ付別紙甲號ノ通照會有之乙號ノ通回答致候條御了知相成度

甲 號

(大正二十一年七月)
監獄會計事務章程
發第第一一三四號

【監獄會計事務章程】中左記之廉疑義相生シ候ニ付何分之御指示相成度

一【第二十六號丁書式】物品供用命令票ハ各專用者ニ對シ各種物品ヲ混記且續續記入ノ様式トナリ居レリ然シテ下欄返還命令ハ供用セル物品ノ幾部ヲ返還セシムル場合ニ於テ之カ數量ヲ記載スヘキ欄ノ設ナシ右ハ其ノ都度返還年月日欄ニ其ノ月日數量ヲ記載スヘキモノナルヘキモ記帳混雜シ實行困難ナレハ各混記シタル次ノ數量欄ニ記入スヘキヤ

一【第二十八號書式】不用物品書留簿ハ當初引受ケタル物品ノ幾分ヲ利用シ或ハ賣却スル場合ニ於テハ處分ノ都度命令ヲ受ケ賬簿ニ記入シ整理スヘキモノナルモ記帳混雜シ實行困難ナレハ各混記セル次ノ數量欄ニ記入整理スヘキヤ

乙 號

(大正二十一年七月)
監獄會計事務章程
發第第一一三四號

【監獄會計事務章程】中ノ疑義ニ關シ監發第一一三四號御問合ノ件左ニ

一 供用品中常ニ一部返還ノ必要アリト認ムヘキ物品ニ付テハ一用紙一品目トシテ整理相成差支無之候但シ各品目混記シタル場合ニ於テ該品目申一部ノ返還ヲ要スルモノアルトキハ更ニ供用年月日以下相當欄ニ其ノ返還スヘキモノヲ朱書シ返還命令ノ手續相成可然

一 不用物品中一部處分ヲ要スルモノアル場合亦前項ニ準シ處理相成可然

一二 保管者交替シタル場合ノ供用命令票記載方ノ件

(大正二十一年二月)
監獄會計事務章程
發第第一一三四號

【監獄會計事務章程】第八十五條第二項【現行第七十四條第二項】ニ依レハ各係ニ於ケル共用物品並に監者ノ使用ニ供スル物品ノ保管主任者交替ノ場合ハ保管主任者ヨリ一旦物品全部ヲ物品會計官吏ヘ返還ノ手續ヲ爲

サシメ更ニ新任者ヘ供用拂出ヲ爲サシムヘキ規定ニ有之候處事實上其ノ物品ノ返還ヲ爲シ能ハサル場合アルト同時ニ記帳手續繁雜ニ亘リ實行困難ニ付右交替ノ場合ハ供用命令票最終記帳ノ次行ヘ授受ノ年月日ヲ朱書シ新舊主任者ニ署名調印セシメ引續ノ手續ヲ判明シ其ノ手續ヲ簡略致度ト存候右ハ別段差支無之候哉

(大正二十一年二月)
司法大臣官房會計課長同答
會甲第一一八二號

供用命令票ヲ各別ニ作製スルコトノ事實困難ナル場合ニ限り申越ノ通處理相成可然

一三 支所ノ物品引繼ニ關スル件

(大正二十一年十二月)
監獄會計事務章程
發第第一一三四號

福岡少年刑務所ハ當所所管久留米支所ト同一區劃内ニ移轉濟ニ有之候ニ付テハ官制改正ノ際久留米支所廢止ノ場合同支所物品ニシテ久留米少年刑務所ニ引繼取扱方ハ客月二十四日會甲第一一六〇號司法次官依命通牒第二第六項ニ準シ直ニ少年刑務所ニ引繼キ同時ニ帳簿ノ締切ヲ爲シ差支無之候條將又同項ニ據リ一旦主任物

品會計官吏ニ引繼ヲ爲シ主任物品會計官吏ヨリ更ニ少年刑務所ニ引繼ヲ爲スヘキ儀ニ有之候哉

(大正二十一年十二月)
司法大臣官房會計課長同答
會甲第一一八二號

後段貴見ノ通引繼ヲ爲シ現品ハ便宜前段ニ依リ授受ヲ爲スモ差支ナシ

一四 日常必需品ノ拂出及記帳方ノ件

(大正二十一年九月)
監獄會計事務章程
發第第一一三四號

【監獄會計事務章程】第八十一條【現行第七十條】ニ依ル日常必需ノ物品ヨリ物品會計官吏トシテ直ニ拂出ヲ爲サシムルニ付【同規程第八十條第二十六號書式丙】【現行第六十九條第二十二號書式丙】ノ物品交付命令票ニ別紙ノ通各欄ヲ増設シ命令交付セハ便宜ト認メ候右差支無之哉

(別紙)

物品交付命令票

典獄 計官吏	物品 名目	單位 稱位	數量	交付の 目的	交付の内訳		受取人 詰所氏名	領收印
					月日	數量		
	十月一日外國米	升	五〇〇〇	食在 糧監 用者	十月一日	一〇〇何	某	○
	同	同	二〇〇〇	同	同	同	同	○
	同	同	同	同	同	同	同	○
	同	同	同	同	同	同	同	○
	同	同	同	同	同	同	同	○
	同	同	同	同	同	同	同	○

大正二年十月十日
司法大臣官房會計課長同答
會甲第八〇二號

貴見ノ通

一五 刑務所物品所在區別ノ名稱ニ

關スル件

(此ノ數量月日出納簿ヲ拂出ス)

大正二年六月
高知監獄典獄長同合
發第四四四號

今般御發布相成候「監獄會計事務章程」中左記ノ廉聊カ
疑義相生シ候間何分ノ御回示相煩度
【第二十六號書式丁】「現行第二十二號書式丁」ニ詰所
【第二十七號書式甲號】「現行第二十三號書式甲號」ニ所
在區別ト有之候處右ハ「監獄事務分掌及監獄官會議」
ニ關スル規程ニ據リ便宜文書係又ハ戒護係等ノ名稱ヲ
付シ記入整理シ差支無之候哉

大正二年六月
司法省監獄課長同答
監丙第五八五號

御意見ノ通ニ候

左記物品購入ノ上受入可然哉

典獄 計官吏	物品 名目	單位 稱位	數量	單價	價額	受入ノ目的	供給者	受入年月日
	【大正】年 【大正】月 【大正】日							【大正】年月日
	【大正】年 【大正】月 【大正】日							【大正】年月日

一六 物品出納命令票用紙變更ノ件

大正六年五月
松江監獄典獄長申請
發第三九四號

「監獄會計事務章程第七十九條及第八十條」ニヨリ物品
出納命令トシテ作成スヘキ【第二十六號書式】ハ一回一
葉ヲ使用スル様式ニ候處于時一品一葉ヲ使用スルコト
アリ自然餘白ヲ存シ候ニ付之ヲ帳簿様式ニ變更致候得
者當ニ用紙費用ノ經濟ノミナラス編綴上至テ便宜ト被
認候間別紙様式ノ通帳簿ニ變更ノ儀特ニ御認可相成候
様致度

タリシカチ證明スルニ過キス隨テ檢收上ノ事實ニ對シ後日ノ證據ト爲スコトヲ得サルモノアリ檢收簿ニハ檢査方法、檢査ノ結果ヲ明瞭ナラシムルハ勿論納入數量ニ對スル過不足ノ處分又ハ不合格ノ事由數量及其ノ處置方法等ヲ明確ナラシムルノ必要アルヲ以テ少クトモ左記事項ヲ明記スル様注意スヘキコト

左記事項

- イ 商人ヨリ持込タル年月日
- ロ 檢査セシ年月日
- ハ 受入レタル年月日
- ニ 商人ヨリ持込タル品目、數量
- ホ 檢査セシ數量
- ヘ 檢査ノ方法
- ト 合格不合格ノ數量
- チ 不合格トセシ事由
- 其ノ一例ヲ擧ケレハ左ノ如シ
- (甲) 米麥ナルトキハ其ノ持込タル俵數並ニ俵ノ容量
- (乙) 廻ハシニ附シタル俵數並ニ選擇方法
- (丙) 一俵ノ平均秤目並目方
- (丁) 監獄側ニテ檢査セシ俵數並其ノ秤目及目方商

(戊) 受入決定ノ一俵ノ平均秤目並目方
 (己) 不合格ノモノアレハ其ノ不合格ト爲セシ理由
 (庚) 受入總石數

二〇 購入物品檢收ニ關スル件
 (昭和二一年 刑務所長會議ニ於テ)

(指示)

物品檢收ハ代金支拂ノ前提タル重要事項ニシテ最嚴密施行ヲ要スルニ拘ラス其ノ實際ハ記載簡單粗略ニ流レ或ハ之カ記入ヲ單ニ一係員ニ委ヌル等其ノ取扱ヲ閑却輕視シ殊ニ分割納付ヲ許シ之カ代金支拂ヲ爲ス場合ニ於テ分割納付ニ對スル檢收記事無ク單ニ最終納付ノ日時ニ總括檢收事項ヲ記載スルニ止ムル向アリ右ハ檢收ノ都度必要事項ヲ記載シテ檢査證明ニ備フル等常ニ檢收ニ付テハ周到嚴密ニ施行シテ違算ナキヲ期セラレタ

二一 購入物品檢査簿ノ件

(大正十四年十一月 行刑局長事務取扱通達 行甲第一七三五號)

購入物品ノ檢收ハ其ノ代金額ノ多寡ニ拘ラス精査檢査スルハ勿論ノ義ニ有之候モ購入物品一廉貳百圓未満ノモノニ限リ標記帳簿ノ登記ヲ省略差支無之候

二二 拳銃用藥莢保管轉換ノ件

(大正三年十二月 監獄局長通達 監甲第九四二號)

拳銃射擊實習ニ依リ生シタル藥莢再用方ニ付取調ノ未試ミニ市谷外六監獄ヨリ取寄セ彈藥裝填方東京砲兵工廠へ委託候處其ノ成績別紙ノ通ニシテ有利ニ有之爾今可成裝填再用致度ニ付藥莢ニシテ再用シ得ラレル見込ノモノハ精選ノ上取纏メ「東京監獄」へ保管轉換相成度而シテ別紙成績ノ如ク提供藥莢六千個ノ中三分ノ一以上裝填ニ堪ヘサルモノアリ畢竟射擊實習ノ際ニ於ケル取扱其ノ他保管上ノ注意如何ニ因ルモノト被存候ニ付將來ハ充分此ノ邊ニ御注意相成度

(別紙)

藥莢再用裝填成績 六千個

一 提供藥莢 六千個

裝填ニ堪ヘシモノ 參千八百〇四個

裝填ニ堪ヘサリシモノ 貳千九百九十六個

一 彈藥六千發裝填費用 金八拾壹圓六拾錢(新規ニ補充シタル貳千九拾六發分ノ代價ヲ含ム)ニシテ

一 發平均六 壹錢參厘六毛ニ當リ米 全部新規ニ購入スルトキハ

一 發 壹錢七厘五毛ニシテ

一 發ニ付 金參厘九毛 六千發ニ付金貳拾參圓

四拾錢ノ利益アリ

市谷外六監獄ヨリ「東京監獄」へノ藥莢送料見積金壹圓五拾二錢ヲ差引クモ金貳拾壹圓八拾八錢ノ節約トナル

二三 彈藥類保管轉換ノ件

(昭和二年四月 行刑局長通達 行甲第四二八號)

小銃及拳銃用ノ實包並空包ノ補給ニ關シテハ曩ニ大正十二年五月行甲第七二二號通達ノ次第モ有之候處今同別紙ニ依リ拂下差支無之旨陸軍省ヨリ回答有之候ニ付テハ將來其ノ所要數ハ直接交渉ノ上拂下ヲ受クルコトニ御取計相成度候

(別紙)

一 最寄師團司令部或ハ兵器支廠ヲ經由シテ
造兵廠ニ司法省管内各刑務所所要彈藥ノ拂下チ願出
タル場合ハ前記部隊ハ教育演習等ニ支障ヲ生セサル
範圍ニ於テ部隊保管ノモノヲ即金徴收官廳ニ在リテ
後金ト爲スニテ繰替拂下クルコトヲ得ル
二 拂下彈藥ノ打殺藥莖及挿彈子ハ拂下部隊ニ返納ス
ルモノトス
三 彈藥ノ拂下及打殺藥莖、挿彈子ノ返納ノ爲部隊ト
讓受人間ノ運搬ニ要スル一切ノ費用ハ讓受人ノ負擔
トス

二四 洋式帳簿ヲ小菅刑務所ヘ註文ノ件

大正十年十月
監獄局長通牒
監甲第八二二號

各監獄ニ於ケル洋式帳簿ハ一定ノ監獄ニ於テ製作スル
ハ作業收入ノ増加チ圖ルト共ニ一面又經費ノ節約ヲ講

スル一途ト可相成思料セラレ候處小菅監獄ニ於テハ前
年度來該帳簿ノ製作ヲ初メ幾部ノ註文ヲ受居且本年度
分モ已ニ價格表ヲ添付シ註文方各監獄ヘ照會セシ趣ニ
有之候間貴監本分監ニ於ケル需用ノ洋式帳簿ハ可成同
監獄ヘ製作方御委託相成候様御取計相成度

二五 繼續保管轉換ノ件

大正十年十月
監獄局長通牒
監甲第八六九號

明年度ヨリ靜岡監獄ニ於テ抄紙工ヲ擴張シ洋紙ヲ抄出
セシムル計畫相立候ニ就テハ貴監ヨリ生スル縹、綿、
糸屑等ニシテ利用ノ途ナク他ニ賣却スルモノ有之候ハ
ハ置之テ同監獄施業開始ノ曉ニ於テ保管轉換相成候様
致度ニ付此ノ際既ニ賣却契約済ノモノヲ除キ其ノ儘保
管相成度

二六 縹、反古紙、外米袋等引繼

大正十四年七月
行刑局長事務取扱通牒
監甲第一二〇一號

一 縹、反古紙、外米袋等引繼

標記ノ件ニ關シ抄紙原料トシテ靜岡、高知刑務所宛取
纏メ引繼方屢屢通牒致置候處大正十三年度中調査ニ依
レハ全ク引繼ヲ爲ササル個所、爲スモ一部少量ニ過キ
サル等甚々遺憾ノ點多多有之且目下原料薄ク由ニテ
同所ヨリ申出ノ次第モ有之候條今後多少トモ取纏メ引
繼方特ニ御配慮相成度候

引繼 區分

小菅、市谷、豊多摩、巢鴨、横濱、千葉、水戸、宇都
宮、前橋、甲府、長野、新潟、金澤、宮城、福島、山
形、秋田、青森、札幌、函館、網走、釧路、小田原、
川越、〔札幌〕(少年)

以上靜岡刑務所

京都、大阪、神戸、奈良、滋賀、徳島、高松、名古屋、
三重、岐阜、廣島、山口、岡山、松江、松山、長
崎、三池、福岡、大分、熊本、鹿児島、宮崎、沖縄、
岡崎、岩國、久留米

以上高知刑務所(兼横濱靜岡刑務所ヘ引繼コト)

二七 收容者護送用自動車ノ形式ノ件

大正十五年十月

自動車設置ノ必要有之候場合ハ配布豫算内ニテ支辨相
成場合ト雖一應其ノ名稱、價格、積載量、形式(異圖添
付)ニ左記書類ヲ添ヘ事由ヲ詳具シ豫メ御協議相成候

二八 自動車設置ニ關スル件

大正十四年二月
行刑局長事務取扱通牒
監甲第一七七號

一 乗合用箱形自動車ヲ使用スルコト
一 車窓ニハ鐵格子其ノ他適宜脱出防止ノ設備ヲ施スコト
一 窓ニハ摺硝子其ノ他適宜ノ裝置ヲ施シテ前記脱出
防止施設ヲ覆ヒ外見上ノ不體裁ヲ除クコト

(イ) 三號表 變壓器	
番號	型式
三三三 三三三 三三三	キロワット アムペルト
一次電壓	二次電壓
製造所	製造所
購入年月	購入年月
購入價格	購入價格
用途	用途
使用成績	使用成績
備考	備考

(イ) 四號表 蓄電池	
型式	放電容量
GS型	一五〇アムペリア
放電時間	一〇時間
製造所	島津製
箇數	六〇
購入年月	、
購入價格	、
用途	、
使用成績	、
備考	、

(イ) 五號表 汽 罐 (其ノ二)	
番號	型式
一	コルニツシユ
馬力數	二六
直徑(呎)	五、〇
煙筒ノ長(呎)	一五、五
煙筒ノ太(呎)	五、〇
煙筒ノ内徑(呎)	二、四二
給水裝置	ウオシントトル
二	ランカシア
馬力數	一、二〇
直徑(呎)	七、〇
煙筒ノ長(呎)	二九、二
煙筒ノ太(呎)	六、〇
煙筒ノ内徑(呎)	二、五
給水裝置	ウオシントトル
三	横置烟管式
馬力數	二〇
直徑(呎)	三、八
煙筒ノ長(呎)	一一、〇
煙筒ノ太(呎)	三、五
煙筒ノ内徑(呎)	二、五
給水裝置	インチエクトル

(イ) 五號表 汽 罐 (其ノ二)	
番號	型式
一	石 封 度
試驗	二〇〇
界限	二〇〇
常用	六〇
安全辨ノ種	槓桿式
据付	、
購入價格	、
用途	炊場用
使用成績	、
命數	昭和三年迄
一馬力當	六五、三人
備考	更新ヲ要ス
二	推定
試驗	一五〇
界限	二四〇
常用	二二〇
安全辨ノ種	槓桿式併用
据付	、
購入價格	、
用途	作業用
使用成績	、
命數	昭和二十年迄
一馬力當	七、二人
備考	抄紙工用第三號ト交互使用
三	石 封 度
試驗	二〇〇
界限	二〇〇
常用	六〇
安全辨ノ種	槓桿式
据付	、
購入價格	、
用途	炊場用
使用成績	、
命數	昭和十年迄
一馬力當	五五、〇人
備考	同型五號ト交互使用
四	石 封 度
試驗	一五〇
界限	二〇〇
常用	七五
安全辨ノ種	發條式
据付	、
購入價格	、
用途	浴場用
使用成績	、
命數	昭和十年迄
一馬力當	、
備考	、

(イ) 六號表 瓦斯發生器	
番號	型式
二	堅型プロテ
燃料	木炭又ハ
馬力數	二五
製造所	旭鐵工所
購入年月	、
購入價格	、
用途	瓦斯エン
使用成績	、
備考	發生爐ニ洗滌裝置清淨裝置瓦斯溜附屬ス
二	島津式エーア
燃料	輕油
馬力數	二五
製造所	島津製
購入年月	、
購入價格	、
用途	ボンゼン
使用成績	、
備考	目下建築工事中ニ付使用セズ送風機瓦斯溜附屬ス
(イ) 七號表 蒸汽機 蒸汽タービン	
番號	型式
馬力	、
廻轉數	、
製造所	、
購入年月	、
購入價格	、
用途	、
使用成績	、
備考	、

三 一段膨脹式橫置型蒸汽機關

五 二〇〇

鐵新工所

、

、

、

圓 動力用

良

目下電動機ト取替使用セス

(イ) 八號表

內燃機關—瓦斯機關、石油機關、輕油機關(自動車消火唧筒備付ヲ除ク)重油機關

番號	型	馬力	廻轉數	點火裝置	製造所	購入年月	購入價格	用途	使用成績	備考
二	ウエスチングハ	一〇	四〇〇	電氣火花式	グウエスチン	、	、	作業用	良	電力取入困難
四	Z式二衝程	五五〇〇	著火球	深川鐵工	、	、	、	建築用	良	建築場臨時使用

(ロ) 表

式

品目	番號	型式	手動力又ハ動力	所要馬力	生産能力	面積	製造所	年購月入	價格	使用成績	備考
印刷機版	一	手フット	、	葉書判	100通	1' X 15'	築地製	1' X 15'	、	、	備考
活版	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二	五	一〇	一七	一六五	一四	一	一	一	一	一
フット	ロール	二式	連動型	マブ式	ゼクロ	手引式	ツオトセ	手引式	手引式	手引式
足踏	動力	動力	手動	、	動力	手動	動力	手動	手動	手動
美二枚掛渡	菊四頁	菊全	菊全	厚一時	巾五〇時	証判	四六全	証判	三、四、五、用	三、四、五、用
二〇〇通	二〇〇通	四〇通	一分	六〇分	三五分	一分	三八通	一分	八、〇〇〇	八、〇〇〇
2' X 2'	5' X 3'	6' X 9'	15' X 2'	2' X 2'	7' X 5'	2' X 3'	9' X 6'	2' X 3'	25' X 2'	15' X 15'
活青版山	博文館	鐵中工村	工藤	、	獨社	演田	、	、	、	、

番三號	車燈	積載量	購入年月	購入價格	用途	使用成績	備	考
番四號	自轉車、自轉荷車							
番二號	式	購入年月	購入價格	用途	使用成績	備	考	
番一號	式	積載量	大	購入年月	購入價格	用途	使用成績	備
番六號	表	消火噴筒、揚水噴筒						
番五號	表	起重機、昇降機、運搬機						
番四號	表	手動又ハトイタルヘッド						
番三號	表	動力ノ種類	全揚程又ハ					
番二號	表	揚水	分間					
番一號	表	年	月	購入價格	用途	使用成績	備	考

七 本調査ハ四月三十日現在ニ基キ調製ノコト

品目 三〇 馬ニ關スル簿籍ノ整備並其ノ取扱方ノ件

品目 三〇 馬ニ關スル簿籍ノ整備並其ノ取扱方ノ件

品目 三〇 馬ニ關スル簿籍ノ整備並其ノ取扱方ノ件

今般陸軍省ヨリ標記ノ件ニ付別紙寫ノ通過條有之候條貴廳並其ノ所管内ニ於テ馬ヲ飼養セラレル場合ニ於テハ貴廳ニ於テ簿籍ノ整備其ノ他該通條ノ趣旨ニ順ヒ可然御取計相成候様致度

大正十一年三月 司法次官宛 第九三號

馬ニ關スル簿籍ヲ制定セラレ候條同法ハ國ノ所有ニ係ル馬ニ適用セラレサルニ付テハ貴所管内ニ國有於テ馬ヲ飼養セラレル場合ハ同法施行ト共ニ馬ヲ直接管理スル各部署ニ於テ馬籍法規定ノ事項ヲ具備スル簿籍ヲ整備シ置キ以テ諸般ノ調査ニ資スルト共ニ當該馬カ馬籍法ノ適用ヲ受ケルニ至レハ其ノ簿籍又ハ寫テ馬ト共ニ所有者ニ交付シ以テ馬籍法ノ運用ヲ圓滑ナラシムル機致度此ノ旨貴廳所管各部署ヘモ通達方御取計相成度

三二 刑務所需要品作業品中不用トナルヘキモノヲ各刑務所間ニ於テ融通使用方ノ件

大正十一年三月 司法次官宛 第九三號

應用備品及獄用備品並ニ作業器具器械類ニシテ節用又ハ作業ノ縮小廢止等ニ依リ當該監獄ニテハ不用トナル物品有之其ノ中ニハ尙充分使用ニ堪ユルモノアルモ直ニ不用品トシテ賣却シ或ハ徒ラニ倉庫ニ堆積スル結果

不整理ヲ來シ且ツ物品ノ性質ニ依リテハ永ク設置スル爲メ手入ヲ要シ又ハ破損ヲ來スモノモ有之監獄經理上甚々遺憾ニ被存候ニ付各監獄ニ於テ不足相融通シ物品ノ整理特ニ經費ノ節約ニ努ムル必要有之候條今後ハ使用ニ堪ユヘキ物品ノ不用ニ屬スル場合ハ其ノ都度附近監獄又ハ運輸上ノ便利アル監獄ヘ通知シ其ノ需用ニ應シ保管轉換ノ手續ヲ運ハレ候條御取計有之度 追テ本文不用品ヲ生シ又ハ他監獄ヘ保管轉換相成ル場合ハ其ノ都度當局ヘ品目數量並ニ購入價格ヲ報告相成度

三三 砥石、刷毛、毛針類別ノ件

大正十一年二月 高松監獄長官宛 第一一號

物品ノ製作ニ要スル砥石、刷毛、毛針ノ如キハ消耗ノ程度甚シキモノナルヲ以テ監獄會計事務章程別表類別作業品ノ部ニ於ケル消耗品ニ準シ整理シ並支ナキヤ

第二十四章 供託、預金、保管、領置

第一節 供託、預金

第一條 供託法

(明治三十二年二月
法律第十五號)

改正 大正一〇年第六九號

第一條 法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢及有價證券ハ供託局ニ於テ之ヲ保管ス
第一條ノ三 前條ノ規定ニ依ル供託ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス
第一條ノ三 利害關係人ハ供託官吏ノ處分ニ對シ供託局ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得
第一條ノ四 抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ供託官吏ニ送付シテ其意見ヲ求ムルコトヲ要ス

第一條ノ五 供託官吏ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其旨ヲ裁判所及抗告人ニ通知スルコトヲ要ス

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ附シ書類ヲ送付テ受ケタル日ヨリ五日內ニ之ヲ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス

第一條ノ六 裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ理由アリトスルトキハ供託官吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲シ供託官吏及抗告人ニ送達スルコトヲ要ス

第二條ノ七 前條ノ規定ニ依リテ抗告ヲ却下スル決定ニ對シテハ法律違背ヲ理由トスルトキニ限り非訟事件手續法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ抗告ニ付爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二條 供託局ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣ヲ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ差出スコトヲ要ス

第三條 供託金ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ利息ヲ附ス

ルコトヲ要ス

第四條 供託局ハ供託物ヲ受取ヘキ者ノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ヲ受取リ供託物ニ代ヘ又ハ其從トシテ之ヲ保管ス但保管金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ供託者ハ其利息又ハ配當金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第五條 司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金銀又ハ有價證券ニ非サル物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者又ハ銀行ヲ指定スルコトヲ得

倉庫營業者又ハ銀行ハ其營業ノ部類ニ屬スル物ニシテ其保管シ得ヘキ數量ニ限リ之ヲ保管スル義務ヲ負フ

第六條 倉庫營業者又ハ銀行ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第七條 倉庫營業者又ハ銀行ハ第五條第一項ノ規定ニ依リ供託物ヲ受取ルヘキ者ニ對シ一般ニ同種ノ物ニ付テ請求スル保管料ヲ請求スルコトヲ得

第八條 供託物ノ還付ヲ請求スル者ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依リ其權利ヲ證明スルコトヲ要ス

供託者ハ民法第四百九十六條ノ規定ニ依レルコト、

供託カ錯誤ニ出テシコト又ハ其原因カ消滅シタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ取戻スコトヲ得ス

第九條 供託者カ供託物ヲ受取ル權利ヲ有セサル者ヲ指定シタルトキハ其供託ハ無効トス

第十條 供託物ヲ受取ルヘキ者カ反對給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ供託者ノ書面又ハ裁判、公正證書其他ノ公正ノ書面ニ依リ其給付アリタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

附則

第十一條 本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 本法施行前ニ供託シタル金銀ニハ其施行ノ月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ第三條ノ利息ヲ付スルコトヲ要ス

第十三條 第四條第八條及第十條ノ規定ハ本法施行前ニ供託シタル物ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條 明治二十三年勅令第四百四十五號供託規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

大正十年法律第六十九號附則 供託ノ手續ハ本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前ニ爲シタル供託物ニ關シ必要ナル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

供託局所在地外ニ於テハ司法大臣ハ當分ノ内務ノ添置ト認ムル銀行ヲ第一條ノ規定ニ依リ供託事務ヲ取扱シタルモノヲ得

大正十年法律第六十九號施行期

第一條 大正十年法律第六十九號附則ニ依リ本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

大正十年法律第六十九號ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年法律第六十九號施行前ニ爲シタル金銀又ハ有價證券ノ供託ニ付テハ供託物ノ還付又ハ下戻、代供託、附屬供託及利札又ハ利息ノ交付ニ關スル事務ハ大正十一年四月一日ヨリ同年十二月二十八日ニ至ル迄ノ間日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム

供託、預金、保管、領還

第二十四章 供託、預金、保管、領還

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

大正十年法律第六十九號附則 供託ノ手續ハ本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一條 供託ノ手續ハ本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 供託ノ手續ハ本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 供託ノ手續ハ本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 供託ノ手續ハ本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 供託ノ手續ハ本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 供託ノ手續ハ本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 供託ノ手續ハ本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

ノ條件

第三條 供託官吏供託ヲ受理スヘキモノト認ムルトキハ大藏大臣ノ定ムル預金部預金ノ取扱ニ關スル規定又ハ供託有價證券ノ取扱ニ關スル規定ニ從ヒ拂込書ヲ作成シ且供託書ニ供託受理ノ記載ヲ爲シテ之ニ捺印シ拂込書及供託書ノ一通ヲ供託者ニ交付シ供託物ヲ日本銀行ニ納入セシムヘシ

供託官吏日本銀行ヨリ大藏大臣ノ定ムル預金部預金ノ取扱ニ關スル規定又ハ日本銀行ノ供託有價證券ノ取扱ニ關スル規定ニ依リ供託物受領ノ證書ヲ送付テ受ケタルトキハ前條第一項ノ供託通知書ヲ債權者ニ發送スヘシ

第三條ノ二 供託金ノ受入ヲ取扱フ供託局ニ金錢ノ供託ヲ爲サトスル者ハ第二條ノ供託書ト共ニ供託金ヲ提出スヘシ

供託官吏供託ヲ受理スヘキモノト認ムルトキハ供託書ノ一通ニ受領ノ證書ヲ之ヲ供託者ニ交付シ且第二條第一項ノ供託通知書ヲ債權者ニ發送スヘシ

第四條 供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ノ代供託又ハ附屬供託ヲ請求セムトスル者ハ第三號書式ノ代供託請求書又ハ附屬供託請求書ニ通

テ供託局ニ提出スヘシ

供託官吏前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ第三條第一項ノ拂込書及大藏大臣ノ定ムル供託有價證券ノ取扱ニ關スル規定ニ依リ拂込請求書ヲ作成シ且代供託請求書又ハ附屬供託請求書ニ請求受理ノ旨ヲ記載シテ之ニ捺印シ拂込書、拂込請求書及代供託請求書又ハ附屬供託請求書ノ一通ヲ請求者ニ交付シ之ヲ日本銀行ニ提出セシムヘシ

第五條 供託物ノ還付ヲ受ケムトスル者ハ第四號書式ノ供託物還付請求書(供託物カ有價證券ナルトキハ請求書ニ通)ニ左ニ掲ケル書類ヲ添附シテ之ヲ供託局ニ提出スヘシ

一 供託物受入ノ記載アル供託書

二 辨濟供託ニ在リテハ供託通知書

三 法令ニ依リテ定マリタル者ハ其ノ受取ルヘキ事由ヲ證スルニ足ル書類

四 裁判ニ依リテ定マリタルトキハ執行力アル裁判ノ正本又ハ裁判所ノ命令書

五 反對給付ヲ爲スヘキトキハ供託法第十條ノ規定ニ依リ證明書類

第六條 供託物ノ取戻ヲ爲サトスル者ハ第五號書式

ノ供託物取戻請求書(供託物カ有價證券ナルトキハ請求書ニ通)ニ左ニ掲ケル書類ヲ添附シテ之ヲ供託局ニ提出スヘシ

一 供託物受入ノ記載アル供託書

二 債權者カ供託ヲ受諾セサル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載シタル債權者ノ書面及供託ヲ有効ト宣告シタル確定判決ナキコトヲ證スル書面

三 民法第四百九十六條第二項ノ場合ニ該當セサルコトヲ證スル書面

第七條 供託者供託ヲ爲シタル供託局ノ預金取扱店タル日本銀行所在地外ノ日本銀行ニ於テ供託金ノ還付又ハ取戻ヲ爲サトスルトキハ第五條又ハ前條ノ請求書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第八條 供託官吏供託金ノ還付又ハ取戻ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ請求書ニ其ノ旨ヲ記載シ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出シテ供託書ト引換ニ請求者ニ交付スヘシ但シ内渡ノ場合ニ於テハ供託書ニ其ノ額ヲ記載シテ之ヲ請求者ニ返還スヘシ

供託金ノ還付又ハ取戻ニ付前條ノ請求アリタルトキハ供託官吏ハ大藏大臣ノ定ムル預金部預金ノ他店拂ニ關スル規定ニ依リ手續ヲ爲シ第六號書式ノ供託金支拂通知書ヲ請求者ニ交付シ指定ノ日本銀行ヨリ供託金ノ還付又ハ下戻ヲ受ケシムヘシ

第九條 供託官吏供託有價證券ノ還付又ハ取戻ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ供託物還付請求書又ハ供託物取戻請求書ノ一通ニ其ノ旨ヲ記載シ之ニ捺印シテ請求者ニ交付シ日本銀行ヨリ有價證券ノ還付又ハ下戻ヲ受ケシムヘシ

第十條 請求者カ第五條及第六條ノ規定ニ依ル書類ヲ提出スルコト能ハサルトキハ供託官吏ハ利害關係人ニ對シ供託物ノ還付又ハ下戻ニ異議アリハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

供託官吏ハ前項ノ期間經過後ニ非サレハ供託物ノ還付又ハ下戻ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ請求者カ利害關係人ノ承諾書ヲ提出シタルトキハ之ヲ適用セス

第十一條 配當其ノ他供託物ノ分割拂渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ供託者ハ第七號書式ノ支拂委託書ニ供託物受入ノ記載アル供託書ヲ添附シテ之ヲ供託局ニ送付

シ分割拂渡ヲ受クヘキ者ニ第八號書式ノ證明書ヲ交
付スヘシ
分割拂渡ヲ受クヘキ者カ前項ノ證明書ヲ提出シテ供
託物拂渡ノ請求ヲ爲シタルトキハ供託官吏ハ第八條
及第九條ノ規定ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ
第十二條 保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル者利
札ヲ受取ラムトスルトキハ第九號書式ノ供託有價證
券利札請求書ニ通テ供託局ニ提出スヘシ
供託官吏前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ請求
書ニ其ノ旨ヲ記載シ之ニ捺印シテ其ノ一通ヲ請求者
ニ交付シ日本銀行ヨリ利札ヲ受取ラシムヘシ
第十三條 供託金ノ利息ハ元金ト同時ニ拂渡スヘキモ
ノトス但シ元金ノ受取人ト利息ノ受取人トナ異ニス
ルトキハ元金拂渡ノ後利息ヲ拂渡スヘシ
保證トシテ金錢ヲ供託シタル場合ニ於テ供託カ一年
以上繼續スルトキハ其ノ利息ハ毎年六月ニ於テ前月
迄ニ生シタル金額ヲ計算シ供託者又ハ之ヲ受取ルヘ
キ者ニ拂渡スヘシ
第十四條 前條第一項ノ利息ノ拂渡ヲ受ケムトスル者
ハ第十號書式ノ供託金利息請求書ニ通テ同條第二項
ノ利息ノ拂渡ヲ受ケムトスル者ハ第十一號書式ノ供

託金利息請求書ニ通テ供託局ニ提出スヘシ
供託官吏前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ前項
ノ請求書ニ其ノ旨ヲ記載シ之ニ捺印シテ其ノ一通ヲ
請求者ニ交付シ日本銀行ヨリ利息ヲ受取ラシムヘシ
附則
本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十二年大藏省令第六號供託物取扱規程ハ之ヲ廢
止ス
第一號書式(用紙半紙 紙數二枚以上ニ及フ)
供託書(金錢ト有價證券トハ)
住 所 供託者 何 某
(第三者ニ於テ供託スルトキハ)
供託者 第三者ト記入スルコト)
一 金何圓也
又ハ
一 何何公債證書額面何圓也 (尙全額拂込未済ノ
モノハ其ノ拂込額
ヲ記載スルコト)
何圓券何第何番又ハ何第
何番ヨリ第何番マテ何枚
但シ何年何月又ハ何期渡以降利札付

又ハ
一 何會社株券額面何圓也 同上
又ハ
一 何何
一 何何
供託ノ原因タル事實 同上
供託スヘキ法令ノ條項
供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定又ハ之ヲ確知シ得サル
事由
反對給付ノ目的物其ノ他供託物ヲ受取ルニ付テノ條
件
裁判所其ノ他官廳ノ名稱及件名
右供託ス
年 月 日 右 何 某圓
供託局宛
右日本銀行ニ於ケル供託局口座ニ拂込ムヘシ
年 月 日 供 託 局 宛
受入書式

右受入書式
年 月 日 日本銀行 宛
奧書ノ式
前書ノ金額(有價證券)受領候也
年 月 日 住 所 受取人 何 某圓
供託局宛
内渡書式
一 金何圓也
右 年 月 日 日内渡ヲ了ス
年 月 日 供 託 局 宛
又ハ
一 何何公債證書額面何圓也 何圓券何第何番又
ハ何第何番ヨリ第
何番マテ何枚
又ハ
一 何會社株券額面何圓也 同上
一五七五

又ハ
一何何 同上

(種類多數ナルトキハ別ニ内譯書ヲ添付ス
ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別紙内譯書
ノ通ト記入シ内譯書ト契印スルコト)

右 年 月 日 内渡ヲ證ス
年 月 日 日本銀行 宛

第二號書式

供託通知書

一金何圓也

右ハ何何ノ事由ニ因リ何供託局ニ供託致候間御受領
相成度此段及通知候也

年 月 日

住所

何 某股

第三號書式

代供託請求書又ハ(代供託物ト附屬供託物ト
一附屬供託請求書)ハ各別ニ作成スルコト

供託番號第 號

一金何圓也

何何公債證書(何會社株券)何圓何年何月(何期)渡
利息(配當金)(何年何月償還金)

前書ノ金額代供託(附屬供託)トシテ御受入相成度
(別紙委任狀相添)及請求候也

年 月 日

住所

何 某團

供託局宛

右代供託(附屬供託)トシテ受入手續ヲ爲スヘキモノ
トス

年 月 日

供託局宛

受入書式

右受入ヲ證ス

年 月 日

日本銀行 宛

奥書ノ式

前書ノ金額受領候也

年 月 日

住所

何 某團

供託局宛

内渡書式

内

一金何圓也

右 年 月 日 内渡ヲ了ス

年 月 日

供託局 宛

第四號書式

供託物還付請求書(供託書一通毎ニ
作成スルコト)

供託番號第 號

一金何圓也

又ハ

一何何公債證書額面何圓也 何圓券何第何番又ハ何第
何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

一何會社株券額面何圓也 同上

又ハ

一何何 同上

前書ノ金額(有價證券)何何ノ事由ニ因リ還付相成度

別紙供託書及證明書類相添及請求候也

年 月 日

住所

受取人 何 某團

供託局宛

右還付ヲ認可ス

年 月 日

供託局 宛

第五號書式

供託物取戻請求書(供託書一通毎ニ
作成スルコト)

供託番號第 號

一金何圓也

又ハ

一何何公債證書額面何圓也 何圓券何第何番又ハ何第
何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

一何會社株券額面何圓也 同上

又ハ

一何何 同上

前書ノ金額(有價證券)何何ノ事由ニ因リ下戻相成度
別紙供託書及證明書類相添及請求候也

年月日 住所
 供託者 何 某團

右取戻ヲ認可ス
 年月日 住所
 供託局宛
 供託局 宛

第六號書式
 供託金支拂通知書
 住所
 受取人 何 某團
 供託番號第 號
 一金何圓也
 右者ニ對シ前記ノ金額拂渡相成度候也

年月日 住所
 日本銀行(支拂店)宛
 供託局 宛
 右受領候也
 年月日 住所

第七號書式
 支拂委託書(供託書一通毎ニ)
 供託番號第 號
 一金何圓也
 又ハ
 一何何公債證書額面何圓也 何番ヨリ第何番又ハ何第
 又ハ
 一何會社株券額面何圓也 同上
 又ハ
 一何何
 日本銀行(支拂店)宛
 何 某團

内
 一金何圓也
 又ハ
 一何何公債證書額面何圓也 何番ヨリ第何番又ハ何第
 又ハ
 一何會社株券額面何圓也 同上
 又ハ
 一何何
 住所 同上
 住所

受取人 何 某

内
 一金何圓也
 又ハ
 一何何公債證書額面何圓也 何番ヨリ第何番又ハ何第
 又ハ
 一何會社株券額面何圓也 同上
 又ハ
 一何何
 住所 同上
 受取人 何 某

右ハ何何ノ事由ニ因リ内譯ノ通分割拂渡スコトヲ要
 スルニ付別紙供託書相添及請求候也
 年月日 住所
 供託者 何 某團

第八號書式
 證明書
 住所
 受取人 何 某

供託番號第 日 號

一金何圓也
 又ハ
 一何何公債證書額面何圓也 何番ヨリ第何番又ハ何第
 又ハ
 一何會社株券額面何圓也 同上
 又ハ
 一何何
 住所 同上
 右者前記ノ金額(有價證券)ノ拂渡ヲ受クヘキモノナ
 ルコトヲ證ス
 年月日 住所
 供託者 何 某團

右拂渡ヲ認可ス
 年月日 住所
 供託局 宛

第九號書式
 供託有價證券利札請求書
 供託番號第 號
 何年何月渡

一何何公債證書何圓券附屬利札入何枚
 又ハ
 一何何附屬利札
 右及請求候也

年月日

住所
 何
 某團

住所

年月日

右受領候也

年月日

住所
 何
 某團

第十號書式

一何何供託金利息請求書
 供託番號第 號
 供託金何圓ニ對スル利息支拂相成度及請求候也

年月日
 住所
 受取人 何 某團

一金何圓也

(金何圓ニ對スル何年何月何日ヨリ何年何月何日ニ至ル迄ノ年何分何厘ノ割合ニ依ル利息)
 右拂渡ヲ認可ス

年月日

右受領候也

年月日

住所
 受取人 何 某團

第十一號書式

一何何供託金利息請求書
 供託番號第 號
 供託金何圓(但シ何年何月何日供託受入濟)ニ對スル利息支拂相成度及請求候也

(用紙寸法適宜)

(「内ハ朱)

供託書

供託物	「本欄ニハ供託物ノ種類、品質、數量及ヒ荷造ノ種類、箇數並ニ記號ヲ記載ス」
評價金	
保管料	
供託ノ原因	「本欄ニハ供託ノ事由及ヒ供託スヘキ法令ノ條項等ヲ記載ス」
供託物ヲ受取ルヘキ者ノ氏名、住所	
反對給付ノ目的物	
豫備	
右供託候也	

四 供託法第六條ニ依ル供託書式

供託法第六條ニ依リ供託書式左ノ通相定ム

第二十四章 供託、預金、保管、信託

五 供託有價證券取扱規程

(大正十一年二月 大藏省令第九號)

第一條 供託局ノ保管ニ保ル供託有價證券ハ之ヲ日本銀行ニ寄託スヘシ

第二條 供託局前條ノ寄託ヲ爲サムトスルトキハ供託有價證券寄託書(書式ハ政府所有有價證券取扱規程第一號書式)政府所有有價證券寄託書(書式)及供託書ヲ添ヘ有價證券ヲ日本銀行ニ提出シ供託有價證券受託證書ノ交付ヲ受ケヘシ

第三條 供託局日本銀行ニ寄託セル有價證券ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ供託有價證券拂渡請求書(書式ハ政府所有有價證券取扱規程第二號書式)政府所有有價證券拂渡請求書(書式)ヲ日本銀行ニ提出シ之カ交付ヲ受ケヘシ但シ供託有價證券ノ還付又ハ取戻ヲ受クル權利ヲ有スル者ノ提出シタル請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ供託有價證券拂渡請求書ニ代フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ供託局代供託ヲ認可シタルトキハ

代供託請求書ヲ前項ノ拂渡請求書ニ添付スヘシ

第四條 供託局供託有價證券附屬利札ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ供託有價證券利札請求書(書式ハ政府所有有價證券取扱規程第三號書式)政府所有有價證券利札請求書(書式)ヲ日本銀行ニ提出シ之カ交付ヲ受ケヘシ但シ附屬利札ヲ受クル權利ヲ有スル者ノ提出シタル請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ供託有價證券利札請求書ニ代フルコトヲ得

第五條 供託局供託有價證券ノ利息又ハ配當金ニ付附屬供託ヲ認可シタルトキハ供託有價證券利息(配當金)請求書(書式ハ政府所有有價證券取扱規程第三號書式)政府所有有價證券利札請求書(書式)及附屬供託請求書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第六條 政府所有有價證券取扱規程第二條及第六條乃至第十條ノ規定ハ供託有價證券ノ取扱手續ニ付之ヲ準用ス

附則
本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

六 供託金利息割合

(大正十一年三月 司法省令第三號)

供託法第三條ニ依ル供託金ノ利息ハ一箇年三步六厘ト定ム

前項ノ利息ハ供託金受入ノ月及拂渡ノ月ハ其ノ金額ニ對シテ之ヲ付セス供託金ノ一圓未満ノ端數ニ對シ亦同シ

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

七 預金部預金法

(大正十四年三月 法律第二十五號)

第一條 法律勅令ニ依リ大藏省預金部ニ預入ルル現金ハ預金部預金トシ大藏大臣之ヲ管理ス

第二條 郵便貯金トシテ受入レタル現金ハ之ヲ大藏省預金部ニ預入レ其ノ利子ヲ以テ貯金利子ノ支拂ニ充テス

第三條 預金部預金ノ種類利子及取扱ニ關シテハ大藏

大臣之ヲ定ム

第四條 預金部預金並大藏省預金部特別會計ノ積立金及支拂上ノ餘裕金ハ之ヲ預金部資金トシ預金部資金運用委員會ニ諮問シ有利且確實ナル方法ヲ以テ國家公共ノ利益ノ爲ニ之ヲ運用スヘシ

預金部資金運用委員會ノ組織權限及領金部資金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 預金部資金ノ運用ニ關スル事務ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム

附則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

預金規則、明治二十三年法律第七十五號及明治三十九年勅令第二百一十一號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前大藏省預金部ニ於テ受入レタル預金ハ之ヲ預金部預金トス

預金規則第一條第三號ノ規定ニ依ル預金及其ノ預金ヲ以テ購入保管シタル國債證券並明治三十九年勅令第二百一十一號ニ依ル預金及預託ノ國債證券ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノニ付本法施行後三月内ニ預ケ人之カ拂戻ノ請求ヲ爲ササルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ

預金ハ之ヲ郵便貯金ニ振替ヘ國債證券ハ之ヲ郵便貯金法第九條ノ規定ニ依リ購入シタルモノト看做シテ保管ス

八 預金部預金取扱規程

(大正十一年二月) (大藏省令第六號)

改正 大正一四年第五號、一五年第九號、

第一章 總則

第一條 預金部預金及預金購入有價證券ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂ヲ爲スヘシ

第二條 預ケ人ハ左ノ者ヲ擔當者ト爲シ其ノ資格、氏名及住所ヲ日本銀行(本店、支店又ハ代理店)ヲ謂フ以下同シ)ニ届出ツヘシ

一、官廳ニ保ルモノハ當該官廳ニ於ケル取扱主任官ニ 法人ニ保ルモノハ其ノ理事者

預金部預金及預金購入有價證券ノ受拂ニ關シ預ケ人ヨリ提出スル書類ニハ擔當者之ニ記名捺印スヘシ 第三條 前條ノ擔當者ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑

ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第二章 預金ノ種類 第三條ノ二 預金部預金中預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金及會計規則第二百一十一條ノ規定ニ依ル預金以外ノモノハ之ヲ普通預金及定期預金ノ二種トス

第三條ノ三 普通預金ハ預ケ人ノ請求アルトキハ何時ニテモ之カ拂戻ヲ爲スモノトス

定期預金ハ預入ノ日ヨリ六月以上ノ約定期間内之カ拂戻ヲ爲ササルモノトス但シ約定期間内ト雖預ケ人ノ要求アルトキハ事情ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得

第三章 預金ノ拂込

第四條 預ケ人預金ノ拂込ヲ爲サルトスルトキハ定期預金ニ在リテハ第一號書式ノ預金部預金拂込書ヲ其ノ他ノ預金ニ在リテハ第一號ノ二書式ノ預金部預金拂込書ヲ添ヘ現金ヲ日本銀行ニ拂込ミ預金部預金領收證書ヲ交付ヲ受クヘシ

定期預金以外ノ預金ノ預ケ人ハ預金ノ拂戻ニ使用スル小切手用紙ノ交付ヲ受クヘシ

預ケ人ハ必要アル場合ニ於テハ預金部預金帳ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第五條 預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テハ保管金ヲ提出スヘキ者先シテ第二號書式ノ保管金拂込書ヲ添ヘ現金ヲ日本銀行ニ送ケル預ケ人ノ預金ニ振込マシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ振込ヲ爲サレタル場合ニ於テハ振込人ヲシテ日本銀行ヨリ預金部預金振込通知書ヲ交付ヲ受ケシムヘシ

第六條 (削除)

第七條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人ハ其ノ預金ヲ以テ購入保管ニ保ル有價證券ノ利息支拂期到來シタルモノアルトキハ第三號書式ノ有價證券利子預金組入請求書ニ、其ノ償還ヲ受クヘキモノアルトキハ第四號書式ノ有價證券償還金預金組入請求書ニ受領ノ旨ヲ記入シ當該有價證券ノ記番號内備考ヲ添付シテ之ヲ日本銀行ニ提出シ預金組入金額ノ預金部預金領收證書ヲ交付ヲ受クヘシ

第八條 預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テ日本銀行政府有價證券取扱規程第十二條ノ規定ニ依リ遺失物法ニ依リ政府保管有價證券ノ元利金受入ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ニ受領ノ旨ヲ記入シテ日本銀行ニ提出シ預金部預金領收證書ヲ交付ヲ受クヘシ

第九條 預ケ人定期預金ノ更新ヲ爲サルトスルトキハ其ノ期限到來ノ日迄ニ第四號ノ二書式ノ預金部定期預金更新通知書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

預ケ人前項ノ手續ヲ爲サルトキハ定期預金ノ期限到來ノ日ヨリ普通預金ニ預入替ヲ爲シタルモノト看做ス

第四章 預金ノ拂戻

第九條 預ケ人預金ノ拂戻ヲ受ケルトスルトキハ定期預金ニ在リテハ第五號書式ノ預金部預金拂戻請求書ヲ日本銀行ニ提出シ其ノ他ノ預金ニ在リテハ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出スヘシ

第十條 (削除)

第十一條 預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テ保管金取扱規程第十三條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ保管書ヲ爲サルトスルトキハ第六號書式ノ預金部預金領入替請求書ヲ添ヘ保管書ヲ爲スヘキ金額ヲ券面金額トセル小切手ヲ日本銀行ニ交付スヘシ

第十二條 預ケ人保管金ノ取扱官廳又ハ供託局ナル場合ニ於テ保管金取扱規程第八條又ハ供託物取扱規則

第八條ノ規定ニ依リ日本銀行ヲシテ保管金又ハ供託金ノ他店拂ヲ爲サシメタルトキハ他店拂ヲ爲ス

ヘキ金額ヲ券面金額トセル小切手ノ裏面ニ保管金又ハ供託金ヲ受取ル權利ヲ有スル者ノ氏名、住所及支拂店名ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ交付スヘシハ、

第十二條ノ二ノ普通預金及定期預金ニ對シテハ拂込ノ翌日ヨリ拂戻ノ日迄日割計算ヲ以テ左ノ區分ニ依リ利子ヲ付スヘシ但シ一圓未満ノ端數ニ對シテハ利子ヲ付セス

第十三條 普通預金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシテ計算シ之ヲ其ノ元金ニ組入ルルモノトス但シ預金全額ノ拂戻ニ保ル利子ハ預金ノ拂戻ヲ爲ストキ計算シ之ヲ其ノ元金ニ組入ルルモノトス

第十三條ノ二ノ預金定期預金ノ利子ノ支拂ヲ受ケムトスルトキハ定期預金期限到來ノ日ニ於テ第六號ノ二書式ノ預金部預金利子支拂請求書ヲ日本銀行ニ提

出スヘシ預金人前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ前項ノ利子ハ期限到來ノ日ニ普通預金トシテ拂込マレタルモノト看做ス

第十四條 預金人毎年四月日本銀行ヨリ預金利子元加通知書ヲ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ承認ノ旨ヲ記入シ日本銀行ニ提出スヘシ

第十五條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預金人郵便貯金規則第二十四條ノ規定ニ依リ郵便貯金ニ對スル利子ノ元加ヲ要スルトキハ第七號書式ノ預金部預金利子元加請求書ヲ郵便貯金規則第七十九條ノ規定ニ依リ隨時郵便貯金ニ對スル利子ノ支拂ヲ

請求スルモノアルトキハ第八號書式ノ預金部預金利子支拂請求書ヲ大藏省預金部ニ提出スヘシ

第十六條 大藏省預金部前條ノ請求書ヲ受ケタルトキ該部調査ノ上元加又ハ支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ該請求書ニ記入シ之ヲ日本銀行本店ニ送付シ利子元加又ハ支拂ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十七條 預金人保管金ノ取扱官廳又ハ供託局ナル場合同ニ於テ保管金又ハ供託金ノ利子ヲ受取ル權利ヲ有スル者ニ對シテ利子ノ支拂ヲ要スルトキハ第九號書式ノ預金部預金利子支拂請求書ニ依リ其ノ利子額ニ相當スル預金利子額ノ支拂ヲ日本銀行ニ請求スヘシ但シ保管金又ハ供託金ノ利子ヲ受取ル權利ヲ有スル者ノ提出シタル利子請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ預金部預金利子支拂請求書ニ代フルコトヲ得

第六章 預金購入有價證券

第十八條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預金人預金ヲ以テ有價證券ヲ購入ヲ請求セムトスルトキハ第十號書式ノ有價證券購入請求書ヲ大藏省預金部ニ提出スヘシ

第二十一條 大藏省預金部日本銀行本店ヨリ購入有價證券ノ額面金額及購入代金ノ通知ヲ受ケタルトキハ

第二十二條 預金人前條ノ通知書ヲ受ケタルトキハ該通知書ノ裏面ニ有價證券購入代金ニ相當スル金額ノ預金ヲ領收セル旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ提出シ預金購入有價證券保管通知書ノ交付ヲ受クヘシ

第二十三條 預金人預金購入有價證券ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ第十二號書式ノ預金購入有價證券拂戻請求書ニ當該有價證券ノ記番號内譯書ヲ添付シ之ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第二十四條 預金人日本銀行ヨリ預金購入有價證券ノ拂戻ヲ受ケタルトキハ第十三號書式ノ預金購入有價證券受領證書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第二十五條 預金人官廳ナル場合ニ於テ日本銀行統轄

本店又は特設代理店より預金部預金を受入及拂渡ノ請
求書或支拂小切手ノ番號及金額ヲ記載シタル書類ヲ
添へ預金部預金月計表合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ
之ヲ調査シ證明ノ上五日内ニ之ヲ日本銀行ニ返付ス
ルヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモ
ノトス

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ返付スル場合ニ於テハ預
金取扱店ヲ經由スルニテ支拂請求書ニ於テハ
第一項ノ規定ハ大藏大臣ノ指定シタル官吏統轄店ヨ
リ預金部受拂計算表ノ送付ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準
用ス

第二十六條 日本銀行甲店ヲ預金取扱店トスル預金人
日本銀行乙店ヲ預金取扱店ニ變更セムトスルトキハ
第十四號書式ノ預金取扱店變更申込書ヲ日本銀行甲
店ニ提出シ預金部預金現在額證明書ノ交付ヲ受ケ
シタルトキハ日本銀行乙店ニ送付シテ證明書又ハ支
拂込通知書又ハ預金購入有價證券保管通知書ヲ亡
失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ日本銀行ニ提
出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得第五條第二項ノ類

送込人預金部預金振込済通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル
トキ亦同シ

第二十八條 第二十五條ノ規定ニ依リ預金人又ハ大藏
大臣ノ指定シタル官吏預金部預金月計表合表又ハ預
金部受拂計算表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ付誤
謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ
證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行統轄店又ハ特設代理店ニ送
付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ送付スル場合ニ於テハ預
金取扱店ヲ經由スルニテ送付スルコトヲ得

第二十九條 預金部預金帳ノ交付ヲ受ケタル預金人ハ
隨時之ヲ日本銀行ニ提出シ預金ノ受拂額ノ記入ヲ受
ケタルトキハ日本銀行ニ提出シ預金購入有價證券
保管通知書ノ記入ヲ受ケヘシ

第三十條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依リ預金ノ預
金人ハ日本銀行ヨリ預金購入有價證券保管帳ノ交付
ヲ受ケ隨時之ヲ日本銀行ニ提出シ預金購入有價證券
保管通知書ノ記入ヲ受ケヘシ

第三十一條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行
ス

第三十二條 預金取扱規程ハ之ヲ廢止ス

第三十三條 本令施行前大藏省預金部ニ預入テ爲シタ
ル預金人ハ従前ノ規定ニ依リ總代人、擔當者又ハ取
扱主任官ヲ以テ本令ニ規定スル擔當者ト爲シタルモ
ノト看做ス

保管金取扱規程第二十三條ノ規定ニ依リ預金部預金
ノ預金人ハ保管物取扱規程ニ依リ取扱主任官ヲ以テ
本令ニ規定スル擔當者ト爲シタルモノト看做ス

第三十四條 本令施行前預金人カ金庫ヨリ交付ヲ受ケ
タル預金通帳ハ本令ニ依リ日本銀行ヨリ交付ヲ受ケ
タル預金部預金帳ト看做ス

預金部預金法第二條ノ規定ニ依リ預金及會計規則第百
二十一條ノ規定ニ依リ預金以外ノ預金ニシテ本令施行
前預入ニ保ルモノニ付テハ其ノ預金人ハ本令施行後一
月内ニ預金ノ種類ヲ定メ之ヲ日本銀行ニ通知スルコト
ヲ要ス

預金人前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ本令施行ノ日ニ於
テ當該預金ニ預入替テ爲シタルモノト看做シ其ノ通知
ヲ爲ササルトキハ本令施行ノ日ニ於テ普通預金ニ預入
替テ爲シタルモノト看做ス

大正九年九月大藏省告示第六十五號ハ之ヲ廢止ス

附則 (大正十四年四月 大藏省令第五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
預金部預金法附則第四項ニ規定スル預金及國債證券ニ
シテ本令施行後三月内ニ受拂ヲ爲スモノニ付テハ従前
ノ規定ニ依ル

附則 (大正十五年三月 大藏省令第八號)

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四章 債權、預金、保管、償還

第三號書式附屬
所得稅免除證券利子證明書
(用紙寸法)
(半紙判半載)

所得稅免除證券利子證明書

内		譯	
證券種別	記番號及別 回數	券面額	利子額

上記證券ノ所得稅ヲ免除スヘキ所有者ノ分ナルコトヲ證明ス

年 月 日

貯金局長氏名 印

第四號書式ノ二
預金部定期預金更新通知書
(用紙寸法)
(半紙判半載)

預金部定期預金更新通知書

預入年月日 年 月 日

期限 年 月 日

預入根據法令

上記預金期限到來後引續キ預入繼續可致候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何何理事者) 印
住所氏名

日本銀行(何店)宛

第五號書式
預金部預金拂戻請求書
(用紙寸法)
(半紙判半載)

預金部預金拂戻請求書

定期預金

預入年月日 年 月 日

期限 年 月 日

預入根據法令

上記金額拂戻相成度候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何何理事者) 印
住所氏名

日本銀行(何店)宛

上記金額領收候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何何理事者) 印
住所氏名

日本銀行(何店)宛

第四號書式
有價證券償還金預金組入請求書
(用紙寸法)
(半紙判半載)

有價證券償還金預金組入請求書

證券何枚

内譯下記ノ通

上記償還金額受領ノ上郵便貯金ニ係ル預金ニ組入相成度候也

年 月 日

貯金局長氏名 印

日本銀行宛

内譯 (證券記番號ハ別紙記番號内譯表ノ通)

證券種別	券面、記番 號及回數	枚數	券面額	割増金	月割利子	受取高

第六號書式 預金部預金預入替請求書 (用紙寸法 半紙判半載)

預金部預金預入替請求書

金 預入替受入官廳
同 受入店

上記ノ通預入替相成度候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名 印

日本銀行(何店)宛

第六號書式ノ二 預金部預金利子支拂請求書 (用紙寸法 半紙判半載)

預金部預金利子支拂請求書

金 定期預金利子

預入年月日 年 月 日

期 月 日限 年 月 日

預入根據法令

上記金額支拂相成度候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名 (又ハ何何理事者) 印
住 所 氏 名

日本銀行(何店)宛

上記金額領收候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名 (又ハ何何理事者) 印
住 所 氏 名

日本銀行(何店)宛

第七號書式 預金部預金利子元加請求書 (用紙寸法 半紙判半載)

預金部預金利子元加請求書

金 上記金額郵便貯金ノ利子元加ヲ要スルモノニ付預金ニ元加ノ手續相成度候也

年 月 日

貯金局長氏名 印

大藏省理財局長宛

上記金額支拂ヲ要ス

年 月 日

大藏省理財局長氏名 印

日本銀行宛

上記金額領收候也

年 月 日

貯金局長氏名 印

日本銀行宛

第八號書式 預金部預金利子支拂請求書 (用紙寸法 半紙判半載)

預金部預金利子支拂請求書

金 上記金額郵便貯金ノ利子支拂ヲ要スルモノニ付支拂ノ手續相成度候也

年 月 日

貯金局長氏名 印

大藏省理財局長宛

上記金額領收候也

年 月 日

貯金局長氏名 印

日本銀行宛

第九號書式

預金部預金利子支拂請求書 (用紙寸法 半紙判半裁)

預金部預金利子支拂請求書

保管金(又ハ供託金)利子

上記金額支拂相成度候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ某供託局長氏名) 宛

日本銀行(何店)宛

上記金額領收候也

年 月 日

住所

氏名

日本銀行(何店)宛

第十號書式

有價證券購入請求書 (用紙寸法 半紙判半裁)

有價證券購入請求書

下記證券 月 日ノ時價ヲ以テ購入保管相成度候也

年 月 日

貯金局長氏名 宛

大藏省理財局長宛

證券種別	券面額	券面別	枚數	見込相場額	備考

裏面

第十一號書式 有價證券購入済通知書 (用紙寸法 横一尺五分 縦八寸五分)

表書ノ通大藏省ヨリ通知ヲ受ケ候ニ付預金部預金帳及預金購入有價證券保管帳差出候間購入代價及有價證券ノ記入相成度候也

貯金局長氏名 宛

日本銀行宛

第九號 有價證券購入済通知書 (郵便貯金)

證券種別 券面別 購入代金

上記證券購入済ニ付通知ス 年 月 日 大藏省理財局長氏名 宛 貯金局長氏 宛

第八號 有價證券購入済通知書 (郵便貯金)

證券種別 券面別 購入代金

上記證券購入済ニ付通知ス 年 月 日 大藏省理財局長氏名 宛 日本銀行宛

第七號 有價證券購入済通知書 (郵便貯金)

證券種別 券面別 購入代金

貯金局長氏名 宛 購入済通知書 年 月 日

第十二號書式

預金購入有價證券拂戻請求書 (用紙寸法半紙判半載)

預金購入有價證券拂戻請求書

何公債證書(又ハ何)額面何圓也 何枚

内譯下記ノ通

上記證券拂戻相成度候也

年 月 日

貯金局長氏名 團

日本銀行宛

内譯(證券記番號ハ別紙記番號内譯表ノ通)

券面、記番號及回数別	枚數	券面、記番號及回数別	枚數	券面、記番號及回数別	枚數

第十三號書式

預金購入有價證券受領證書 (用紙寸法半紙判半載)

預金購入有價證券受領證書

何公債證書(又ハ何)額面何圓也 何枚

内譯下記ノ通

上記證券領收候也

年 月 日

貯金局長氏名 團

日本銀行宛

券面、記番號及回数別	枚數	券面、記番號及回数別	枚數	券面、記番號及回数別	枚數	券面、記番號及回数別	枚數

第十四號書式

預金取扱店變更申込書 (用紙寸法半紙判半載)

左記預金日本銀行(何店)ノ取扱ニ變更相成度候也

年 月 日

某應取扱主任官官氏名 (又ハ何何理事 住若ハ何何代名 所氏名 印)

日本銀行(何店)宛

記

預金現在高

九 領置金ハ即時拂ノ取扱ヲ爲ス件

(明治二十三年十月 大藏省令第四百十號)

在監人所持金ノ儀ハ自今預金規則第一條第二項ニ準シ預金トシテ相預リ拂戻ノトキハ即時拂ノ手續ニ據リ取扱フヘシ

第二節 保管

一 保管金規則

(明治二十三年一月 法律第一號)

改正 明治三十三年第一八號

第一條 法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管スル公有金私有金ハ左ノ計算法ニ從ヒ滿五年ヲ過キテ拂戻ノ請求ナキトキハ政府ノ所得トス但別ニ法律ヲ以テ失權ノ期限ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル

第二條 保管義務解除ノ期アルモノハ其義務ヲ解除シタル日ヨリ起算ス

第三條 訴訟事件ノ爲ニ拂戻ヲ請求スル能ハサル場合ニ於テハ裁判確定ノ翌日ヨリ起算ス

第四條 保管金ハ法律勅令又ハ從來ノ規則若クハ契約ニ依ルノ外利子ヲ付セス

第五條 保管金ノ證書ハ賣買譲與又ハ書入質入スルコトヲ得ス

第六條 保管金ノ受渡ニ屬スル證書ハ「證券印稅」ヲ納

管替請求書二通ヲ甲官廳ニ提出スヘシ
 第十三條 甲官廳前條ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該保管金ニシテ第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノナルトキハ其ノ請求ヲ拒絕シ、大藏省預金部ニ預入レタルモノニシテ保管替ノ理由アリト認メタルトキハ預金部預取扱金規程第十一條ノ手續ヲ爲シ保管金保管替請求書ノ一通ニ承認ノ旨ヲ記入シ尙有利子ノモノハ第五號書式ノ保管金利率參考表ヲ添附シ之ヲ乙官廳ニ送付スヘシ
 第十四條 乙官廳前條ノ請求書及其ノ預金取扱店ヨリ預金部預金領收證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ保管金受領證書ヲ保管替請求者ニ交付スヘシ
 第十五條 前二條ノ規定ハ甲官廳保管金ヲ提出シタル者ノ請求ニ依ラスシテ保管金ヲ乙官廳ニ保管替ヲ爲サムトスル場合ニ於ケル甲官廳及乙官廳ノ取扱手續ニ付之ヲ準用ス但シ此ノ場合ニ於テ甲官廳ハ第十三條ノ規定ニ依リ送付スル保管金保管替請求書ニ代ヘ保管金保管替通知書ヲ乙官廳ニ送付スルモノトス
 第六章 政府ノ所得ニ關シタル保管金
 第十六條 保管金規則、遺失物法其ノ他ノ法令ニ定メタル期間ノ經過ニ依リ政府ノ所得ニ關シタル保管金

アルトキハ取扱官廳ハ一年度分ヲ取罷メ第六號書式ノ保管金政府所得調書ヲ調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ所管大臣ノ指定スル主務官廳ニ送付スヘシ
 第十七條 主務官廳前條ノ調書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ取扱官廳毎ニ所得總額ヲ記載金額トセル納入告知書ヲ取扱官廳ニ送付スヘシ
 取扱官廳前項ノ納入告知書ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ依リ歳入納付ノ手續ヲ爲スヘシ
 第十八條 第十六條ニ規定スルモノヲ除クノ外保管金ニシテ政府ノ所得ニ關シタルモノアルトキハ取扱官廳ハ其ノ都度之ヲ歳入ニ納付スルノ手續ヲ爲スヘシ但シ特殊ノ資金ニ組入ヲ要スルモノニ付テハ當該資金ニ組入ノ手續ヲ爲スモノトス
 第七章 雜則
 第十九條 保管金ヲ提出シタル者其ノ交付ヲ受ケタル保管金受領證書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ取扱官廳ニ提出シ之ヲ證明ヲ請求スルコトヲ得
 取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケ其ノ理由アリト認メタルトキハ之ヲ證明ヲ爲スヘシ
 第二十條 支出官事務規程中歳出金支拂通知書ヲ亡失

又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱手續ニ關スル規定ハ保管金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス
 附則
 第二十一條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第二十二條 保管物取扱規程及明治三十六年大藏省令第九號ハ之ヲ廢止ス
 第二十三條 本令施行前保管物取扱規程ニ依リ金庫ニ寄託シタル保管金ハ本令ニ依リ大藏省預金部ニ預入レタルモノト看做ス
 前項ノ場合ニ於テ取扱官廳ハ當該金庫ノ國庫金出納ノ事務ヲ引繼キタル日本銀行ヲ其ノ預金取扱店ト爲スヘシ
 第二十四條 前條ノ保管金ノ拂渡、他店拂、保管替、歳入納付、特殊資金ニ組入又ハ期滿失效年月日ノ變更ニ關スル通知ノ手續ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル但シ金庫ニ於テ領收證書ヲ發行シタル保管金ニ付テハ第七條、第八條、第十二條乃至第十五條及第十八條ノ手續ヲ爲スモノトス
 前項但書ノ場合ニ於テ取扱官廳ハ其ノ振出ス小切手

ニ金庫ノ發行シタル領收證書ノ年月日及番號ヲ附記スヘシ

第一號書式 保管金受領證書 (用紙寸法 半紙判半載)

第 號 金	保管ノ事由	候也
上 記 金 額	領 收	候 也
年 月 日		
	某廳取扱主任官官氏名	宛
何 某 宛		
上 記 金 額	領 收	候 也
年 月 日		
	住 所 氏 名	宛
	某廳取扱主任官宛	

備考
 一 本書ハ之ヲ縦書トスルコトヲ得
 二 受取人本書ヲ以テ保管金ノ拂渡ヲ請求シタルトキハ式ノ如ク領收ノ旨ヲ記入スヘシ

第五號書式 保管金利息參考表 (用紙寸法 半紙判半載)

備考	摘要	受	拂	残
某廳取扱主任官官氏名 印				

第六號書式 保管金政府所得調書 (用紙寸法 美濃判半載)

第 號		年度分		金額	
受入年月日	保管金受領證書番號	保管ノ事由	期滿年月日	失効日	金額
某廳取扱主任官官氏名 印					

三 政府所有有價證券取扱規程

(大正十一年二月 大藏省令第七號)

改正 大正一五年第一〇號、

第一條 各官廳ニ於ケル政府所有有價證券ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ

第二條 各官廳ハ特殊ノ事由アルモノヲ除クノ外政府所有有價證券ヲ其ノ所在地日本銀行(本店、支店)又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ寄託スヘシ但シ其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ニ之ヲ寄託スルモノトス

第三條 各官廳前條ノ寄託ヲ爲サムトスルトキハ第一號書式ノ政府所有有價證券寄託書ヲ添ヘ有價證券ヲ日本銀行ニ送付シ政府所有有價證券受託證書ノ交付ヲ受クヘシ

第四條 各官廳日本銀行ニ寄託セル有價證券ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ第二號書式ノ政府所有有價證券拂渡請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ交付ヲ受クヘシ

第五條 各官廳日本銀行ニ寄託セル有價證券附屬利札ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ第三號書式ノ政府所有有價證券利札請求書ヲ提出シ之カ交付ヲ受クヘシ

第六條 各官廳日本銀行統轄店又ハ取扱代理店ヨリ政府所有有價證券ノ寄託書及拂渡請求書ノ番號及金額ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ政府所有有價證券月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日以内ニ之ヲ統轄店又ハ取扱代理店ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ返付スル場合ニ於テ統轄店官廳ノ所在地外ニ在ルトキハ其ノ所屬代理店ヲ經由スヘシ

第七條 各官廳第三條ノ政府所有有價證券寄託書ノ記載事項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキ又ハ其ノ變更ヲ要スルトキハ之カ訂正ヲ爲ス爲訂正請求書ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

第八條 各官廳政府所有有價證券受託證書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得

第九條 各官廳政府所有有價證券月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ付誤謬アルコトヲ發見シタル

トキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行
 統轄店又ハ取扱代理店ニ送付スヘシ
 前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ送付スル場合ニ於テハ其
 ノ所屬代理店ヲ經由スヘシ
 第十條 各官廳ハ取扱主任官ノ職務及氏名ヲ日本銀行
 ニ通知スヘシ
 前項ノ取扱主任官ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ
 日本銀行ニ提出スヘシ

附則
 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（大正十一年四月一日ヨリ施行ス）
 第一號書式 政府所有有價證券寄託書
 第二號書式 政府所有有價證券拂渡請求書
 第三號書式 政府所有有價證券利札請求書

第一號書式 政府所有有價證券寄託書 (用紙寸法 半紙判半裁)

政府所有有價證券寄託書

第 號 年 月 日
 下記證券寄託候也
 某廳取扱主任官官氏名 團
 日本銀行(何店)宛

備考 一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込済額ヲ記入スヘシ
 二 利札欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

證券種別	枚 數	券面額	券面、記番 號及回数別	備 考

第二號書式 政府所有有價證券拂渡請求書 (用紙寸法 半紙判半裁)

政府所有有價證券拂渡請求書

受託證書番號 第 號
 (又ハ第 號ノ内)
 受託證書日附 年 月 日
 某廳取扱主任官官氏名 團
 日本銀行(何店)宛
 下記證券領收候也
 年 月 日
 某廳取扱主任官官氏名 團
 日本銀行(何店)宛

備考 一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込済額ヲ記入スヘシ
 二 利札欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

證券種別	枚 數	券面額	券面、記番 號及回数別	備 考

第三號書式 政府所有有價證券利札請求書 (用紙寸法 半紙判半裁)

政府所有有價證券利札請求書

受託證書番號 第 號
 受託證書日附 年 月 日
 某廳取扱主任官官氏名 團
 日本銀行(何店)宛
 下記利札領收候也
 年 月 日
 某廳取扱主任官官氏名 團
 日本銀行(何店)宛

備考 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込済額ヲ記入スヘシ

證券種別	枚 數	券面額	券面、記番 號及回数別	備 考

四 政府保有價證券取扱規程

(大正十一年二月
大藏省令第八號)

改正 大正一五年第一號、

第一章 總 則

第一條 政府ノ保管ニ係ル有價證券ハ別段ノ定アル場
合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂保管ヲ
爲スヘシ

第二條 取扱官廳ハ政府保有價證券ヲ其ノ所在地日
本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ又
其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ニ之ヲ
寄託スヘシ但シ數日內ニ拂渡ヲ爲ス必要アルモノ又
ハ特殊ノ事由アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條 取扱官廳ハ取扱主任官ノ職務及氏名ヲ日本銀
行ニ通知スヘシ
前項ノ取扱主任官ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ
日本銀行ニ提出スヘシ

第四條 本令中所管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮
總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺
太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ

在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ

第二章 保管有價證券ノ提出及寄託

第五條 保管有價證券ヲ提出スル者ハ第一號書式ノ政
府保有價證券提出書及其ノ印鑑ヲ添ヘ有價證券ヲ
取扱官廳ニ提出スヘシ
取扱官廳前項ノ提出書ノ必要ナシト認メタル場合ニ
於テハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

第六條 取扱官廳ハ保管有價證券ヲ提出スル者ヲシテ
豫メ有價證券ヲ日本銀行ニ於ケル取扱官廳ノ保管有
價證券口座ニ振込マシムルコトヲ得

第七條 保管有價證券ヲ提出スル者前條ノ振込ヲ爲サ
ムトスルトキハ第二號書式ノ政府保有價證券振込
書ヲ添ヘ有價證券ヲ日本銀行ニ提出シ政府保有有價
證券振込濟通知書ノ交付ヲ受クヘシ

保管有價證券ヲ提出スル者前項ノ手續ヲ爲シタルト
キハ其ノ交付ヲ受ケタル政府保有有價證券振込濟通
知書及其ノ印鑑ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

第八條 取扱官廳第五條又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ
有價證券又ハ政府保有有價證券振込濟通知書ノ提出
ヲ受ケタルトキハ第三號書式ノ政府保有有價證券受
領證書ヲ提出者ニ交付スヘシ

第九條 取扱官廳第五條ノ規定ニ依リ提出ヲ受ケタル
政府保有有價證券ヲ日本銀行ニ寄託セムトスルトキ
ハ政府保有有價證券提出書ヲ添ヘ之ヲ日本銀行ニ送
付シ政府保有有價證券受託證書ノ交付ヲ受クヘシ但
シ第五條第二項ノ規定ニ依リ政府保有有價證券提出
書ヲ省略セシメタルモノニ付テハ第四號書式ノ政府
保有有價證券內證書ヲ添付スルモノトス

第十條 取扱官廳ハ遺失物法ノ規定ニ依リ保管スル有
價證券ヲ寄託セムトスルトキハ前條ノ手續ヲ爲スノ
外其ノ旨ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第十一條 保管有價證券附屬利札ノ交付ヲ受ケル權利
ヲ有スル者ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ第五條
ノ場合ニ於テハ取扱官廳ヲ經テ日本銀行ニ、第七條
第一項ノ場合ニ於テハ政府保有有價證券振込書ニ添
ヘ之ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第三章 保管有價證券ノ拂渡

第十二條 保管有價證券ノ拂渡ヲ受ケル權利ヲ有スル
者ハ第五號書式ノ政府保有有價證券拂渡請求書又ハ
第八條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル政府保有有價證
券受領證書ヲ取扱官廳ニ提出シ其ノ拂渡ヲ請求スヘ
シ

第十三條 取扱官廳前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ政府
保有有價證券受託證書又ハ政府保有有價證券振込濟
通知書ニ拂渡ヲ要スル旨ヲ記入シ之ヲ請求者ニ交付
スヘシ

取扱官廳前條ノ請求ニ依リ政府保有有價證券ノ一部
ノ拂渡ヲ要スルトキハ政府保有有價證券受託證書又
ハ政府保有有價證券振込濟通知書ニ一部拂渡ヲ要ス
ル旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ送付シ請求者ニ對シテ
ハ第六號書式ノ政府保有有價證券一部拂渡書ヲ交付
スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ受託證書、通知書又ハ拂渡書ノ
交付ヲ受ケタル者ハ之ヲ日本銀行ニ提出シ有價證券
ノ拂渡ヲ受クヘシ

第十四條 取扱官廳第十二條ノ請求ヲ受ケタルトキ第
二條但書ノ規定ニ依リ有價證券ヲ保管スル場合ニ於
テハ之ヲ請求者ニ拂渡スヘシ

第十五條 保管有價證券附屬利札ノ交付ヲ受ケル權利
ヲ有スル者其ノ支拂期到來シタルモノノ交付ヲ請求
セムトスルトキハ第七號書式ノ政府保有有價證券利
札請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ交付ヲ受クヘシ

第二條但書ノ規定ニ依リ取扱官廳ニ於テ有價證券ヲ

保管スル場合ニ於テハ前項ノ權利者ハ前項ノ請求書ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ
取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ有價證券附屬ノ利札ヲ請求者ニ交付スヘシ

第十六條 取扱官廳日本銀行ヨリ日本銀行政府有價證券取扱規程第十二條ノ規定ニ依リ遺失物法ニ依ル政府保管有價證券元利金受入ノ通知ヲ受ケタルトキハ保管金トシテ之カ整理ヲ爲スヘシ

第十七條 甲官廳ニ身元保證金トシテ有價證券ヲ提出シタル者乙官廳ニ保管書ヲ請求セムトスルトキハ第八號書式ノ政府保管有價證券保管書請求書ニ通テ甲官廳ニ提出スヘシ

第十八條 甲官廳前項ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該有價證券ニシテ第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノナルトキハ其ノ請求ヲ拒絕シ、日本銀行ニ寄託セルモノニシテ保管書ノ理由アリト認メタルトキハ政府保管有價證券保管書請求書ノ一通ニ承認ノ旨ヲ記入シ之ヲ乙官廳ニ送付シ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ寄託書ヲ要スル旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

第十九條 乙官廳前項ノ請求書ノ送付及日本銀行ヨリ政府保管有價證券受託證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ政府保管有價證券受領證書ヲ保管書請求者ニ交付スヘシ

第五章 政府ノ所得ニ歸シタル保管有價證券

第二十條 政府保管有價證券ニシテ法令ノ規定又ハ契約ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタルモノアルトキハ取扱官廳ハ其ノ都度之ヲ所管大臣ノ指定スル主務官廳ニ報告スヘシ
主務官廳前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ該有價證券ヲ換價シ歳入ニ納付スルノ手續ヲ爲スヘシ但シ特殊ノ資金ニ組入ヲ要スルモノニ付テハ當該資金ニ組入ノ手續ヲ爲スモノトス

第六章 證明

第二十一條 取扱官廳日本銀行統轄店又ハ取扱代理店ヨリ政府保管有價證券ノ受入及拂渡ノ請求書ノ番號及金額ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ政府保管有價證券月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日內ニ之ヲ統轄店又ハ取扱代理店ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノト

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ返付スル場合ニ於テ統轄店取扱官廳ノ所在地外ニ在ルトキハ其ノ所屬代理店ヲ經由スヘシ

第七章 雜則

第二十二條 取扱官廳政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得第七條第一項ノ振込人政府保管有價證券振込濟通知書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ亦同シ

第二十三條 政府保管有價證券ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者政府保管有價證券受託證書、政府保管有價證券振込濟通知書又ハ政府保管有價證券一部拂渡書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ取扱官廳ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得
取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケ其ノ理由アリト認メタルトキハ之カ證明ヲ爲シ其ノ旨ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第二十四條 取扱官廳政府保管有價證券月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ付屬アルコトヲ證明

シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行統轄店又ハ取扱代理店ニ送付スヘシ
前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ送付スル場合ニ於テハ其ノ所屬代理店ヲ經由スヘシ

附則

第二十五條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第二十六條 本令施行前保管物取扱規程ニ依リ「金庫」ニ寄託シタル保管有價證券ハ當該「金庫」ノ政府有價證券取扱ノ事務ヲ引繼キタル日本銀行ニ寄託シタルモノト看做ス
前項ノ保管有價證券ハ從前ノ規程ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ

第一號書式 政府保管有價證券提出書 (用紙寸法)

政府保管有價證券提出書

何公債證書(何株券又ハ何債券)額面何圓也 何枚

内譯

何圓券 何第何番ヨリ何第何番迄 何枚

但シ何年何月渡以降利札附屬(利拂期ノ既ニ到來セル利札ニシテ附屬シアル分ハ此ノ式ノ如ク記入スルコト)

何圓券 何第何番 何枚

但シ何年何月渡利札缺欠

保管ノ事由

右提出候也

年月日 住所 氏名

某廳取扱主任官宛

右證券寄託候也

年月日 某廳取扱主任官官氏名

日本銀行(何店)宛

備考

一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込済額ヲ併セテ記入スヘシ

二 本書ノ内譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添付スルモ妨ケナシ

第二號書式 政府保管有價證券振込書 (用紙寸法)

政府保管有價證券振込書

何公債證書(何株券又ハ何債券)額面何圓也 何枚

内譯

何圓券 何第何番ヨリ何第何番迄 何枚

但シ何年何月渡以降利札附屬(利拂期ノ既ニ到來セル利札ニシテ附屬シアル分ハ此ノ式ノ如ク記入スルコト)

何圓券 何第何番 何枚

但シ何年何月渡利札缺欠

右某官廳ノ保管有價證券トシテ振込候也

年月日 住所 氏名

日本銀行(何店)宛

備考

一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込済額ヲ併セテ記入スヘシ

二 本書ノ内譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添付スルモ妨ケナシ

第三號書式 政府保管有價證券受領證書 (用紙寸法)

政府保管有價證券受領證書 (用紙寸法)

備考

某廳取扱主任官官氏名

政府保管有價證券受領證書

保管日附 下記證券領收候也

何某宛

證券種別	枚數	券面額	券面、記番、記回、記別	備考

上記證券拂渡ノ證書領收候也

年月日

住所 氏名

某廳取扱主任官宛

備考

一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込済額ヲ記入スヘシ

二 利札缺欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

三 本書ヲ以テ有價證券ノ拂渡ヲ請求シタルトキハ式ノ如ク領收ノ旨ヲ記入スヘシ

第四號書式 政府保管有價證券内譯書 (用紙寸法)

政府保管有價證券内譯書 (用紙寸法)

備考

某廳取扱主任官官氏名

政府保管有價證券内譯書

保管日附 下記證券寄託候也

年月日

提出者氏名

日本銀行(何店)宛

證券種別	枚數	券面額	券面、記番、記回、記別	備考

備考

一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込済額ヲ記入スヘシ

二 利札缺欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

第五號書式

政府保管有價證券拂渡請求書 (用紙寸法 半紙判半載)

政府保管有價證券受領證書日附及番號 (内渡ノトキハ政府保管有價證券受領證書ノ内ト記入スルコト)

何公債證書(何株券又ハ何債券)額面何圓也 何枚

何圓券 何第何番 何枚

右證券拂渡相成度候也 住所 氏名

某應取扱主任官宛 某應取扱主任官宛 氏名

年 月 日 氏名

備考 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ

拂込済額ヲ併セテ記入スヘシ

政府保管有價證券受領證書記入額全部ノ拂渡ヲ請求スル場合ニハ證券ノ記番號ヲ省略スルコトヲ得

本書ノ内譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添付スルモ妨ケナシ

第六號書式

政府保管有價證券一部拂渡書 (用紙寸法 半紙判半載)

政府保管有價證券一部拂渡相成度候也 年 月 日 提出者氏名 某應取扱主任官官氏名 日本銀行(何店)宛

保管日附 下記證券領收候也 年 月 日 住所 氏名 日本銀行(何店)宛

備考 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込済額ヲ記入スヘシ

利札欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

遺失物法ニ依ルモノナルトキハ日本銀行カ拂渡ヲ爲スヘキ最終ノ期日ヲ餘白ニ記入スヘシ

證券種別	枚數	券面額	券面額	記番號及同數別	備考

第七號書式

政府保管有價證券利札請求書 (用紙寸法 半紙判半載)

政府保管有價證券利札請求書

何公債證書(何株券又ハ何債券)額面何圓也 何枚

何圓券 何第何番 何枚

右證券ノ何年何月渡利札交付相成度候也 年 月 日 住所 氏名

某應取扱主任官宛 某應取扱主任官宛 氏名

備考 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ

拂込済額ヲ併セテ記入スヘシ

本書ノ内譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添付スルモ妨ケナシ

第八號書式

政府保管有價證券保管替請求書 (用紙寸法 半紙判半載)

政府保管有價證券保管替請求書

何公債證書(何株券又ハ何債券)額面何圓也 何枚

何圓券 何第何番 何枚

但シ何年何月渡利札欠 年 月 日 住所 氏名

右證券何官廳ノ保管有價證券ニ變更相成度候也

某應取扱主任官宛 某應取扱主任官官氏名 氏名

備考 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ

拂込済額ヲ併セテ記入スヘシ

本書ノ内譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添付スルモ妨ケナシ

五 政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保ニ供シタル國債ノ買入鎖却ニ關スル件

(明治四十三年三月 法律第九號)

政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保トシテ提供シタル國債ヲ法令ノ規定ニ依リ公賣スヘキ場合ニ於テハ國債證券買入鎖却法ニ依リ其ノ國債ノ債權金額ヲ以テ之ヲ買入レ鎖却スルコトヲ得

六 國債ノ買入鎖却ヲ必要トスル場合協議方ノ件

(明治四十二年四月 大藏大臣通知 司法次官宛 在第四五二六號)

今般法律第九號ヲ以テ政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保ニ供シタル國債ノ買入鎖却ノ件公布相成候處右ハ公賣ニ付スルモ擔保額ヲ償フニ足ラス而モ其ノ不足額ハ容易ニ追徴シ得ヘキ見込ナキ時ニ限リ國債整理基金豫算ノ許ス限度ニ於テ該證券ヲ買入レ鎖却シ以テ國庫ノ

損失ヲ避ケムトスルノ趣旨ニ出テタルモノニ候條自今該法律ニ依リ證券ノ買入鎖却ヲ必要トスル場合ハ其ノ事由ヲ詳具シ豫メ臨時國庫整理局ト御協議相成候様致度

七 政府ニ納ムヘキ保證金其ノ他ノ擔保ニ充用スル國債ノ價格ニ關スル件

(明治四十一年十一月 勅令第二百八十七號)

改正 明治四十五年第一三六號

政府ニ納ムヘキ保證金其ノ他ノ擔保ニ充用スル國債、帝國鐵道會計法第二條ノ二ノ證券及大藏省證券ノ價格ハ其ノ債權金額ニ依ル

八 入札又ハ契約ノ保證金ニ關スル件

(明治四十三年九月 勅令第三百四十號)

十六條ノ定ムル請求書ニ通テ取扱官廳又ハ供託局(供託事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ヲ含ム以下同シ)ニ提出スヘシ

第二條 取扱官廳又ハ供託局前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ該請求書ノ一通ニ承認ノ旨ヲ記入シ他ノ一通ト共ニ之ヲ該國債證券ヲ保管スル日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ送付スヘシ

但シ政府保管有價證券取扱規程第二條但書ノ規定ニ依リ保管スル國債證券ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條 日本銀行取扱官廳又ハ供託局ヨリ前條ノ請求書ノ送付ヲ受ケタルトキハ該國債證券ヲ新證券ニ引換ノ手續ヲ爲スヘシ但シ該請求書ニシテ利札繰足ニ係ルモノナルトキハ利札繰足ノ手續ヲ爲スモノトス

第四條 日本銀行新證券引換ノ手續ヲ爲シタルトキハ第二條ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル請求書ノ一通ニ引換濟年月日並新證券ノ記號番號等ヲ記入シ之ヲ取扱官廳又ハ供託局ニ送付スヘシ

但シ利札繰足ノ手續ヲ爲シタル場合ニ在リテハ其ノ旨ヲ記入スルモノトス

第五條 取扱官廳又ハ供託局日本銀行ヨリ前條ノ請求

改正 大正九年第五八一號

入札又ハ契約ニ關シ保證金ヲ徵スヘキ規定ナキ場合ニ於テモ當該官吏特ニ其ノ必要アリト認メタルトキハ現金又ハ國債ヲ以テ保證金ヲ納付セシムルコトヲ得落札者契約ヲ結ハサルトキハ其ノ保證金ハ政府ノ所得トス

附則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前納付シタル國債以外ノ有○證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其效力ヲ有ス

九 寄託又ハ供託セル國債證券附屬利札盡了ノモノ特別取扱規程

(大正十一年十二月 大藏令第五十八號)

第一條 法令ノ規定ニ依リ政府ニ對スル保證又ハ擔保トシテ寄託又ハ供託セル國債證券ニシテ其ノ附屬利札盡了シタルトキハ寄託者又ハ供託者ハ國債規則第

書ヲ送付テ受ケタルトキハ必要ナル事項ヲ寄託者又ハ供託者ニ通知スヘシ
附則 附則ニ於テ其ノ旨ヲ告ケ送付テ受ケタル本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一〇 寄託又ハ供託ニ係ル國債ノ償還元金代リ新公債交付ニ關スル特別取扱規程

(明治四十三年五月
大藏省令第二十六號)

第一條 「金庫」ニ寄託又ハ供託シタル國債ノ償還元金本代リトシテ新公債ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ「金庫」所在地ノ取扱銀行ニ於テ仕拂ヲ受クル場合ニ限り本令ノ規定ニ依リ寄託又ハ供託ニ關スル特別ノ取扱ヲ受クルコトヲ得

第二條 政府ニ對スル保證金其他ノ擔保トシテ「金庫」ニ寄託又ハ供託シタル國債ノ償還元金代リトシテ新公債ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ仕拂取扱銀行名、原證券ノ名稱、額面高、額面金額種類、枚數、記號、番號並ニ交付ヲ受クヘキ新證券ノ名稱及寄託又ハ供託ヘキ新證券ノ額面高ヲ記載シタル當該官廳宛ノ

特別取扱請求書ニ通テ作り國債發行ノ規程ニ從ヒ作製シタル取扱銀行宛ノ引受申込書ヲ添ヘ之ヲ當該官廳ニ提出スヘシ
前項特別取扱ノ請求ニ係ル舊證券ノ償還元金ノ額カ新證券ノ發行代金ノ額ニ滿タサル場合ハ取扱銀行ノ通知ニ依リ其ノ不足額ヲ拂込ムヘシ若シ取扱銀行ノ指定シタル期限内ニ其ノ拂込テ了ラサルトキハ引受ノ申込ハ其ノ效力ヲ失フ
第三條 當該官廳ニ於テ前條第一項ノ請求書ヲ調査シ其ノ請求ニ應スヘキモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ請求者ニ告知シ同時ニ「保管證書」送附書ニ對スル領收證書又ハ供託受領證ノ番號、日附、證券ノ額面高及寄託又ハ供託ノ「金庫」名ヲ記載シタル承認通知書ヲ作り前條ノ請求書(一通)及引受申込書ト共ニ之ヲ取扱銀行ニ送付スヘシ
前項ノ引受申込書ニハ當該官廳ニ於テ其ノ受付年月日ヲ附記スルコトヲ要ス
第四條 取扱銀行ニ於テ前條書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其ノ寄託又ハ供託ヘキ新證券ノ名稱、額面高、額面金額種類、枚數、記號及番號ヲ記載シタル仕譯書ヲ作り之ヲ其ノ證券ニ添ヘ前條ノ承認

通知書及特別取扱請求書ト共ニ之ヲ當該「金庫」ニ送付スヘシ但シ償還元金ノ額カ發行代金ノ額ニ滿タサル場合ニ在リテハ不足金額拂込ノ期限ヲ指定シ之ヲ引受申込人ニ通知シ其ノ拂込アリタル後本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 「金庫」ニ於テ前條ニ依リ證券及書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ寄託ノモノニ在リテハ保管物變更證書ヲ、供託ノモノニ在リテハ供託物變更證書ヲ作り原證券ト共ニ之ヲ取扱銀行ニ交付スヘシ前條ノ變更證書ニハ原證券及新證券ノ名稱、額面高、額面金額種類、枚數、記號、番號並ニ原證券ノ「保管證書」送付書ニ對スル領收證書又ハ供託受領證ノ番號、日附、變更ノ事由及年月日ヲ記載シ「金庫」名ヲ署シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

第六條 取扱銀行ニ於テ前條第一項ニ依リ證券及書類ノ交付ヲ受ケタルトキハ保管物變更證書又ハ供託物變更證書ヲ當該官廳ニ送付シ償還元金代リ交付ノ新證券ニシテ寄託又ハ供託ノ部分ニ屬セサルモノアル

第七條 第二條第一項ニ依リ引受申込書ニ付テハ當該官廳ニ於テ附記シタル受付ノ日ヲ以テ償還ノ請求及引受ノ申込アリタルモノト看做ス
第八條 「金庫」ニ寄託又ハ供託シタル國債ノ償還元金代リトシテ新公債ノ交付ヲ受ケムトスル者ニシテ其ノ國債證券カ政府ニ對スル擔保ニ非サルトキハ原證券ノ名稱、額面高、額面金額種類、枚數、記號、番號並ニ交付ヲ受クヘキ新證券ノ名稱及寄託又ハ供託ヘキ新證券ノ額面高ヲ記載シタル特別取扱請求書ヲ作り證券ノ變更ニ付キ法令ノ規程ニ依リ主務官廳ノ認可ヲ經ヘキモノニ在リテハ其ノ認可書、其ノ他ノモノニ在リテハ權利者ノ承諾書ト共ニ之ヲ申込書ニ添ヘ國債發行ノ規程ニ從ヒ引受申込ノ手續ヲ爲スヘシ前項ノ請求書ニハ第三條ノ承認通知書ニ準シタル事項ヲ附記スヘシ但シ前項ノ認可書又ハ承諾書ニ於テ

其ノ事項ヲ認メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第九條 第四條乃至第六條ノ規定ハ前條第一項ノ請求
ニ對スル取扱ニ之ヲ準用ス但シ第六條第一項ノ場合
ニ於テ保管物變更證書又ハ供託物變更證書ハ特ニ送
付先ヲ指定シタルモノハ其ノ指定ニ從ヒ其ノ他ハ之
ヲ引受申込人ニ送付スルモノトス同條第二項ニ依ル
書類ノ返還ニ付テ亦同シ

第十條 本令ノ規定ニ依リ變更ノ手續ヲ了リタル新證
券ノ拂渡ニ付テ「保管物取扱規程」ニ依リ「保管證書」
ニ裏書ヲ爲スヘキ場合ハ保管物變更證書ノ裏書ヲ以
テ之ニ代ヘ之ニ舊證券ノ「保管證書」ヲ添付スルコト
ヲ要ス「供託物取扱規程」ニ依リ供託受領證ニ裏書ヲ
爲スヘキ場合亦之ニ準ス

【保管物取扱規程第二十條】ノ規定ハ保管物變更證書
ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一 政府ノ所得ニ歸シタル有價證
券ノ換價並歲入納付ニ關スル
手續

第一條 政府保管有價證券取扱規程第二十條ノ規定ニ
依リ取扱官廳ヨリ政府ノ所得ニ歸シタル有價證券ノ
報告ヲ受ケタル主務官廳ハ本手續ニ依リ該有價證券
ヲ換價シ該金額ヲ歲入ニ納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條 取扱官廳ヨリ報告ヲ受ケタル有價證券ニシテ
既ニ償還期ノ開始セルモノニ付テハ證券ノ種類ニ依
リ取扱官廳ヲシテ左ノ取扱ヲ爲サシムヘシ

一 國債證券ニ付テハ取扱官廳ヲシテ政府保管有價
證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書
ニ事由ヲ記載シ出納官吏ヲシテ現金拂込書ヲ添附
セシメ有價證券ノ寄託店タル日本銀行ニ提出セシ
ムルコト

二 國債證券以外ノ有價證券ニ付テハ政府保管有價
證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書
ニ事由ヲ記載シ日本銀行ヨリ證券ノ拂渡ヲ受ケ該
證券ニ對スル償還金受領ノ手續ヲ爲シタル後出納
官吏ヲシテ該金額ヲ日本銀行ニ振込マシムルコト

第三條 前條ノ規定ハ有價證券トシテ取扱ヒタル利札

(大正十二年七月
司法省訓令
會甲第二四四〇號)

ニシテ支拂期ノ開始セルモノニ付之ヲ準用ス

第四條 主務官廳取扱官廳ヨリ報告ヲ受ケタル國債證
券ニ付買入銷却方ヲ請求セムトスルトキハ其ノ證券
ノ名稱、記號、額面及附屬利札ニ於ケル支拂期(何
年何月何日)以降利札附屬ト記載スルコト)並證券
ヲ引渡スヘキ日本銀行名ヲ記載シタル書面ニ買入銷
却ヲ要スル事由及擔保又ハ保證ニ充用シタルモノヲ
ルトキハ其ノ擔保額又ハ保證額、政府ノ所有ニ歸シ
タル年月日並最低賣渡價格ヲ附記シ之ヲ大藏省ニ提
出スヘシ但シ引渡スヘキ國債證券ハ引渡當時利子支
拂期未開始ノ附屬利札ノ完備セルモノニ限ル

前項ノ國債證券ニシテ引渡ノ際既ニ利子支拂期ノ開
始セル利札ノ附屬シアル場合ハ取扱官廳ヲシテ之ヲ
三裁離セシメ其ノ利札ノ取扱ニ付テハ第三條ノ規定ニ
依リ之カ手續ヲ爲サシムヘシ

第五條 主務官廳前條第一項ノ請求ニ對シ大藏省ノ承
認ヲ受ケタルトキハ國債證券引渡方ヲ取扱官廳ニ通
知シテ之カ手續ヲ爲サシメ代金納入方ニ付テハ日本
銀行本店ニ對シ納入ノ告知書ヲ發スヘシ

第六條 主務官廳取扱官廳ヨリ報告ヲ受ケタル有價證
券中第二條乃至第四條ノ規定ニ依リ難キ有價證券又

ハ大藏省ヨリ國債證券買入銷却ノ承認ヲ得サリシ證
券ニ付テハ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管
有價證券振込濟通知書ニ事由ヲ記載シ日本銀行ヨリ
其ノ拂渡ヲ受ケ取扱官廳ヲシテ之カ換價ノ手續ヲ爲
サシメ該金額ヲ日本銀行ニ拂込マシムヘシ

第七條 主務官廳前條ノ規定ニ依リ取扱官廳ヲシテ換
價ノ手續ヲ爲サシムルコトヲ不利益ト認ムルトキ又
ハ取扱ニ付不便ナリト認ムルトキ若ハ其ノ地方ノ狀
況ニ鑑ミ換價ノ手續不能ト認ムルトキハ取扱官廳ヨ
リ該證券ヲ現送セシメ主務官廳換價ノ手續ヲ爲シ該
金額ヲ日本銀行ニ拂込ムコトヲ得

一 保管金支拂ノ爲振出シタル小
切手受取人ニ於テ喪失シタル
場合ニ關スル件

保管金支拂ノ爲振出シタル小切手受取人ニ於テ喪失セ
シ等ノ場合ニ關シ別紙甲號ノ通照會セシニ乙號ノ通照
答有之候ニ付右ニ依リ取扱相成度

(大正十三年九月
司法大臣官房會計課長通照
會甲第二九三四號)

(甲) 號

(大正十二年十一月) 司法大臣官房會計課長監覽

- 一 小切手振出日付後一年ヲ經過セシ分ト否ラサル分トヲ問ハス燒失其ノ他喪失毀損セシ分ニ付テハ債主ハ如何ナル方法ニ依リ現金支拂ヲ受ケ得ヘキヤ
- 二 喪失等ニ因リ公示催告除權判決アリタル分ニ付テ同上
- 三 現實所持セル小切手ニシテ漫然一年ヲ經過シタル後ノ分ニ付テ同上
- 四 前各號ノ小切手ニシテ保管金規則第一條ニ依ル五年ノ期間ノ經過セサル中ハ何時ニテモ現金支拂ヲ受ケ得ラルルヤ
- 五 前各號ノ分ハ前キニ債權者ニ對シ小切手ヲ振出ス場合現金出納簿ノ拂ニ立テアルニ付若シ一年經過ノ事由ニ依リ一旦歳入ニ編入スヘキモノト假定セハ帳簿上ノ整理其ノ後現金支拂ヲ受ケル場合ノ記帳ノ要否及歳入科目ヲ指定セラレ度

(乙) 號

(大正十三年七月) 大藏省主計局長回答 第九二七八號

左記ノ如キニ付テハ...

(甲) 號

(大正十五年三月) 大藏省民事局長監覽 第五〇二號

- 一 小切手振出後其ノ小切手カ燒失、紛失其ノ他喪失毀損セシトキハ民法施行法第五十七條及民事訴訟法第七百七十七條以下ニ規定スル公示催告ノ手續ニ依リ當該小切手ヲ無効トスル除權判決ヲ受ケ其ノ小切手振出日付後未タ一年ヲ經過セサル場合ニ在リテハ小切手ノ支拂店ニ其ノ判決正本ヲ提示シ現金ノ支拂ヲ求ムルコトヲ得ヘク若シ又振出日付後一年ヲ經過シタル場合ニ在リテハ小切手ヲ振出シタル當該官廳ニ對シ償還ノ請求ヲ爲シ得ヘシ
- 二 前項ニ依ル
- 三 償還請求ニ必要ナル書類ヲ提出セシメ審査ノ上更ニ償還金トシテ之カ支拂ヲ受ケ得ヘシ
- 四 保管金規則第一條ニ所謂「五年」ノ時效ハ保管金支拂請求權行使ノ期間ニシテ此ノ期間内ニ於ケル其ノ請求ニ對シ現金ニ代ヘ小切手ヲ振出シタル場合ニ於テハ從來ノ保管金支拂義務ハ既ニ消滅シ爾後ハ單ニ小切手上ノ債務ヲ負擔スルニ過キサル次第ナレハ其ノ振出日付ヨリ一年ヲ經過シタルモノニ付テハ償還請求權ヲ行使シテ之カ支拂ヲ受ケルノ外ナキモノトス
- 五 小切手振出日付後一年ヲ經過シタルモノニ付テハ

之ヲ歳入ニ編入シ償還ノ請求アリタル場合ニ於テハ償還金ヨリ支出スルノ取扱ヲ採リ度保管金取扱規程改正方手續中ナリ

(甲) 號

(大正十三年七月二十六日) 大藏省主計局長回答 第九二七八號

- 五 右ノ場合現金出納簿摘要欄ニ「何年何月何日何某渡小切手一年經過ノ爲減」トシ拂預金欄ニ當該金額ヲ朱書シ同時ニ摘要欄ニ「同上事由ニ依リ歳入納付ノ爲拂」トシ拂預金欄ニ當該金額ヲ朱書スルモノトス小切手振出日付後一年ヲ經過セルモノヲ歳入ニ編入スル場合ニ於ケル歳入科目ハ雜收入「款」歳入「項」小切手支拂未済金收入「目」トス

一三 支拂期ノ到來セル利札充當ノ件

(昭和二年十一月) 司法大臣官房會計課長監覽 第四七八二號

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通大藏省理財局ヨリ通達有之候

第二十回章 供託、預金、保管、債權

(甲) 號

(大正十五年三月) 大藏省民事局長監覽 第五〇二號

政府ニ對シ租稅又ハ賣下代金ノ延納其ノ他擔保ニ供シタル國債證券ニツキ擔保提供者カ履行遲滞ニ陥リタル時以後ニ利拂期ノ到來スル利札ハ之ヲ收取シ當該官廳ニ於テ納稅其ノ他ノ原債務ニ充當シ得ルモノナルヤ否ヤ屢々相生シ候ニ付至急何分ノ御回示相煩度

政府ニ擔保トシテ提供セル國債證券ノ利札收取ニ關スル件

收取方ニツキ別紙甲號ノ通司法省ニ照會致候處別紙乙號ノ通回答ニ接シ候條爾今擔保提供者ノ履行遲滞後ニ支拂期ノ到來セル利札ハ之ヲ收取シ原債務ニ充當スル機致度省議ヲ經此段及御通候也

追テ遲滞ニ陥ラサル以前ニ於テモ擔保力ヲ增加スヘキ含テ以テ相手方ノ承認ヲ得支拂期到來ノ利札ヲ附屬ノ儘保留スルノ取計ヲ爲スヲ妨ケサル儀ニ候條爲念申添候

本年三月三十一日藏理第五〇二號御照會ニ係ル件ハ差押手續ヲ要セス當該官廳ニ於テ納稅其ノ他ノ原債務ニ

(乙) 號

(大正十五年四月) 大藏省理財局長監覽 第六〇一號

本年三月三十一日藏理第五〇二號御照會ニ係ル件ハ差押手續ヲ要セス當該官廳ニ於テ納稅其ノ他ノ原債務ニ

充當シ得ル候ト思考致候

一四 保管金、前渡資金小切手振出後期間経過ニ依リ歳入編入及償還請求手續ノ件

(大正十四年三月 司法省訓令會甲第五三九號)

保管金、前渡資金ニシテ小切手振出後日本銀行ニ於テ未支拂ノ儘一年経過ニ依リ歳入編入及償還請求手續左ノ通心得ヘシ

- 一 出納官事務規程第三十五條、第三十六條又ハ保管金取扱規程第七條ノ二ノ規定ニ依リ支拂未済金額ニ相當スル資金ヲ歳入ニ組入レル場合ハ一般會計ニ保ルモノハ總テ大藏省所管取扱大藏大臣官房會計課歳入徴收官大藏大臣官房會計課長ノ取扱フ一般會計歳入ニ組入ルヘク當該支拂未済金ニ對スル償還金支拂ハ大藏省所管歳出諸支出金償還金ヨリ支出スヘク之カ償還順序ハ大正十三年七月五日會甲第二、六六三號訓令小切手支拂未済金償還手續ニ依リ處理スヘシ

一 出納官事務規程第三十九條及第四十條ニ規定スル隔地ノ出納官吏ニ送金ノ爲預託金支拂通知書ヲ送付シタル場合又ハ保管金取扱規程第八條ニ規程スル保管金他店拂ノ爲保管金支拂通知書ヲ交付シタル場合ニ於テ其ノ小切手振出日付ヨリ一年ヲ経過シ當該資金ヲ歳入ニ組入及償還請求ニ對スル支拂ヲ爲ス場合亦前項ニ準ス

一 保管金取扱規程第七條ノ二ニ依リ報告スヘキ支拂未済金ニ關スル報告書ハ當該官廳ノ長ヲ經由スヘシ

一五 同上ノ件

(大正十四年四月 司法大臣官房會計課長通牒 會甲第一三三五號)

本年三月二十日司法省會甲第一、〇三七號ヲ以テ保管金小切手支拂未済金ニシテ司法省主管歳入ニ編入セラレタル向ハ至急大藏省主管歳入ニ訂正整理可相成旨通牒候處右ハ大正十一年四月大藏省令第三十八號ニ依リ兩廳歳入徴收官連署ヲ以テ日本銀行ニ對シ之カ訂正方請求スヘキ儀ニ付爲念及通牒候

一六 保管金ニシテ小切手振出後一年経過ニ依リ未拂ノ爲歳入へ編入スル場合取扱方ノ件

(大正十四年四月 司法大臣官房會計課長通牒 會甲第一三三四號)

保管金ニシテ小切手振出後一年経過ニ依リ未拂ノ爲歳入へ編入シタル場合其ノ證明高掲出方ニ付テハ歳入歳出外現金出金計算書歳入納付高欄ニ掲記相成様致度

一七 同上ノ件

(大正十四年八月 司法大臣官房會計課長通牒 會甲第二七五八號)

保管金小切手振出後一年経過シ未ダ支拂テ了セサルモノニ付テハ本年三月司法省會甲第五三九號訓令ニ依リ大藏省所管取扱大藏大臣官房會計課歳入徴收官大藏大臣官房會計課長ノ取扱テ一般會計歳入ニ組入ルヘキモノナルニ往當該出納官吏所屬歳入徴收官ノ納入告知書ニ依リ納入相成向有之候處右ハ必ス大藏大臣官房會計課歳入徴收官ノ納入告知書ニ依リ歳入納付相成

度

一八 保管金支拂小切手ニ關スル件

(大正十四年六月 司法大臣官房會計課長通牒 會甲第二三九三號)

保管金取扱規程第八條ニ依リ保管金支拂通知書ヲ交付シタル場合ニ於テ其ノ小切手振出日附ヨリ一年ヲ経過シタル爲該資金ヲ歳入ニ納付スル場合ハ右小切手ヲ交付シタル當該日本銀行ニ對シ當該資金ヲ預金ニ戻入方請求シ日本銀行ノ戻入済通知ヲ受ケタル後保管金取扱規程第七條ノ二ノ規定ニ依リ處理相成度仍右ノ場合現金出納簿記帳方ニ付テハ大正十三年九月四日司法省會甲第二九三四號通牒ニ依リ處理相成度

一九 政府保管有價證券政府ニ歸屬取扱ニ關スル件

(大正十四年四月 山口刑務所長訓令 收第一二九六號)

(前略)右證券ハ未ダ償還期ノ開始セサルモノニ付大

正十二年七月司法省會甲第三、四四〇號訓令第四條ニ依リ大蔵省ニ買入銷却方請求スベキモノト思料致候ニ付當所ヨリ直接ニ大蔵省ニ對シ其ノ手續取計可然哉或ハ亦貴課ヲ經由スヘキ哉將又右ニ據ラス單ニ當地ニ於テ大當業者ニ對シ市價ニ依リ賣却ノ上歲入納付ノ手續ニ出テ可然哉本年三月司法省會甲第三、四四〇號訓令ニ於テ

大正十二年四月
司法大臣官房會計課長同答
會甲第一六五〇號

一應直接大蔵省ニ買入銷却方請求相成可然

二〇 全額未拂込有價證券記帳方ノ件

大正十二年一月
司法大臣官房會計課長宛
會甲第一八八號

保管又ハ供託有價證券面記帳整理方ニ付別紙ノ通大蔵省理財局長ヨリ通牒有之候

(別紙)

大正十二年一月
大蔵省理財局長
會甲第一六三三號

客年三月三十一日迄(金庫)ニ於テ取扱ヒタル保管有價證券又ハ供託有價證券ニシテ全額未拂込ニ係ルモノハ

其ノ拂込額ニ依リ整理セシメ其ノ權日本銀行ニ引續候處預金制度實施後ハ總テ券面額ヲ以テ整理致スコトト相成候ニ付是カ取扱方ヲ統一スル爲本年三月三十一日ニ現存スル全額未拂込有價證券ハ同日ニ於テ券面額ニ記帳方更正セシメ候間此段及通牒候也

二一 保證擔保充用國債證券現在高報告ノ件

大正十二年十一月
司法大臣官房會計課長同答
會甲第一八八號

明治四十二年十一月會出甲第五號保證擔保充用國債證券受拂高報告ノ件ハ曆年末一回現在高ノ報告ニ相改候條左記様式ニ準シ毎年一月十日迄御報告相成度追テ元年度上半年調ハ差出スニ及ハス候

二二 領置金基帳ノ調査並集計法調製ノ件

明治三十八年六月
司法大臣官房會計課長同答
會甲第一三三三號

シモノハ領置品臺帳ノ評價ノ欄ニ其購入代價ヲ記入シ來候處書籍ノ如キ購入後直ニ本人ニ下付シテ看讀後領置スル場合ハ既ニ手垢染ミ或ハ往破損シ恰モ古本ノ如ク相成從テ原價ノ價值無之然ルニ依然原評價ニ据置萬一亡失毀損等ノ爲(領置物品取扱主任)ニ於テ其評價ニ依リ辨價ノ義務ヲ負フモノトセハ聊カ適當ノ據有之候ニ付看讀後領置スルニ當リ相當見積價格ニ更正記入取計可然哉

御見込ノ通整理相成可然

二二 領置金基帳ノ調査並集計法調製ノ件

明治三十八年六月
司法大臣官房會計課長同答
會甲第一三三三號

在監人領置金收支ノ監督ニ便ナラシムル爲メ(監獄會計處務規程第六十九條ノ三、四)現行刑務所會計事務章程第九十五條ニ依リ領置金基帳ノ調査並集計法調製ノ際出入歳出外現金出納官吏ヲシテ左記事項ヲ

様式

保證擔保充用國債現在高調 (何年末) 何何廳

國債種別	何公債	何公債	計
根據法令			
會計規則			
何何			
何何			
計			

第三節 領置

一 購入領置品使用後ノ評價ニ關スル件

明治三十九年二月
和歌山監獄長同答
監一第第一五五號

在監人領置品ノ評價記入方ニ就テハ從來新々ニ購入セ

シ取扱フヘキモノトス

六 法令ノ規定ニ依リ國庫ニ歸屬シタル收入印紙及郵便切手類引渡方ノ件

(明治四十三年二月)

法令ノ規定ニ依リ國庫ニ歸屬シタル收入印紙及郵便切手類ハ種類員數ノ明細書ヲ添ヘテ最寄郵便官署ノ當該官吏ニ引渡スヘシ

本訓令ニ抵觸スル從前ノ訓令達示等ハ之ヲ廢止ス

七 没入又ハ國庫ニ歸屬シタル收入印紙郵便切手類ノ件

(明治四十三年六月)

監獄法第五十三條第二項同第五十七條ニ依リ國庫ニ歸屬シタル收入印紙郵便切手類ハ本年二月逓信省訓令第一號ニ據リ處分差支無之哉

〔明治四十二年逓信省令第十一號收入印紙賣捌規則第八條及明治三十三年逓信省令第七十五號郵便切手類賣捌規則第十條〕ニ依リ處理セラレ可然

第十三條 郵便切手類及收入印紙ハ破産若ハ家賣分散ノ宣告ヲ受ケ又ハ國稅徵收法ニ依リ財産ヲ公賣ニ付スルトキ及監獄法ニ依リ監獄懲罰ノ用ニ充ツルトキニ限り定價ニ對シ百分ノ十ノ割引ヲ以テ逓信局又ハ二等郵便局ニ於テ之ヲ買戻スコトアルヘシ但シ汚損毀損シタルモノ又ハ效用ヲ關クヘキ處アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八 收容者遺留ノ郵便貯金通帳處理方ノ件

ハ郵便貯金通帳ヲ没入又ハ國庫ニ歸屬シタル場合ハ其證書又ハ通帳面金額ハ監獄名ニテ受取り得ラルヘキ儀トハ被存候得共爲念御意見承知致度

監獄法ニ基キ没入又ハ國庫ニ歸屬シタル爲替證書及貯金通帳ニ對スル現金受取方ニ關シ司法省監甲第一三五六號來照ノ趣モ有之候得共固ト爲替證書及貯金通帳ハ一般有價證券ト其趣ヲ異ニシ權利ノ證明資料ニ過キサ

ルヲ以テ之レカ得喪ハ直ニ以テ權利得喪ノ效果ヲ惹起スヘキモノニ無之從テ在監者ノ所持ニ係ル證書若クハ通帳自體カ單ニ國庫ニ歸屬シタルノ故ヲ以テ直ニ監獄名義ニ依リ之レカ拂渡ヲ執行スルハ其當ヲ得サル儀ト被存候

追テ現行爲替貯金法規ノ下ニアリテハ爲替發受人又ハ貯金預ケ人ハ再度證書又ハ再度貯金通帳ノ交付ヲ請求シ得ルノミナラス尙ホ爲替金ニアリテハ其拂渡ヲ爲ササル以前ハ差出人ニ於テ自由ニ之レカ拂戻其他ノ處分ヲ爲シ得ルコトニ相成居候次第ニ付爲念申

逃走又ハ死亡シタル囚人(懲治人)刑事被告人ノ領置金品ニシテ滿一箇年ヲ經過スルモ受取人ナキ爲メ之ヲ處分スルニ當リ其領置貨物中ニ郵便貯金通帳アルトキハ其ノ貯金ハ如何ニ之ヲ處分スヘキヤ

(明治四十二年一月)

通帳ハ(監獄則)ノ規定ニ依リ處分スルコトヲ得ル貨物ニ屬スト雖モ其券面記載ノ郵便貯金ノ請求ニ關スル權利ハ貯金法規ノ規定ニ依リ依然特定ノ人ニ專屬シ監獄ニ於テハ之ヲ處分スルコトヲ得ス隨テ右様ノ場合ニ於テハ通帳ハ其理由ヲ付シ(郵便貯金管理所)ヘ送付相成可然

九 國庫歸屬ノ爲替證書及貯金通帳面ノ金額受取ノ件

(明治四十二年十一月)

監獄法第六條ニ依リ没入又ハ國庫ニ歸屬シタル物ハ監獄懲罰ノ用ニ充ツル事ニ相成居候ニ付郵便爲替證書又

一〇 少額郵便切手類無償引渡ノ件

(大正八年十一月十一日
司法大臣官房會計課長依命通達
會甲第 四四六八號)

監獄法ニ依リ國庫ニ歸屬シタル郵便切手、收入印紙等ハ從來總テ遞信局ニ賣却ノ上該代金ヲ監獄ニ收入致シ來リ候處右ノ内少額ニシテ之カ賣却ヲ爲スハ徒ニ煩些ノ手數ヲ費シ却テ收支相償ハスト認メラルル場合ニ於テハ其ノ種類負數ノ明細書ヲ添ヘ之ヲ最寄一、二等郵便局遞信局所在地ニ會計官吏ニ引渡相成度候

一一 警察留置場ニ拘禁又ハ留置セラルル者ノ領置金品取扱ニ關スル件

(明治三十五年三月
內務總務長官通達
司法總務長官通達
會檢甲第 九八號)

警察署内ノ留置場ニ拘禁又ハ留置セラルル者ノ携有スル金錢及物品ノ儀本年法律第十一號施行ノ日ヨリ總テ內務省所管トシテ取扱フヘキコトニ決定相成候

一二 警察留置場ニ在ル收容者ノ逃走又ハ死亡ノ場合領置物品ノ處理方並死體埋葬ノ手續及費用ノ件

(明治三十五年六月
青森縣知事照會
警發第 二〇四號)

囚人及刑事被告人等ノ逃走若ハ死亡シタル場合ニ於テ受取人ナキ領置物品ノ處分方法ハ「監獄則第二十四條」ニ規定有之然ルニ警察署内留置場ニ在ル囚人刑事被告人ニシテ右様ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ其物品ハ「監獄署」ニ送付スヘキモノニ候哉若シ送付スルトセハ其期間ハ滿一年ヲ經ルヲ要セサル義ニ有之候哉又囚人及刑事被告人ニシテ警察署内留置場ニ於テ死亡シ死體ノ下付ヲ請フモノナキトキハ埋葬ノ手續及費用等ハ如何致可然哉

(明治三十五年七月
監獄局長回答丙第 七八八號)

遺留金品ハ死亡又ハ逃走ノ後一ケ年經過ノ上「監獄署」ニ送付シ國庫ノ收入ニ編入シ死體埋葬ノ手續ハ「監獄則施行細則」又ハ押送規則ニ依リ警察署長若クハ警察

分署長之ヲ爲シ其費用ハ警察費ヨリ支辨シ押送中ニ係ルモノハ押送規則ニ依リ支辨セラレ可然ト存候

一三 警察留置場ヨリ引繼ヲ受ケタル遺留品處分方ノ件

(明治四十年三月
松山監獄典獄長問合
發松一乙第 六一號)

警察署内ノ留置場ニ拘禁又ハ留置セラルル者ノ携有スル金錢及物品處分方ハ明治三十五年三月二十八日內務司法兩省總務長官通達會檢甲第九八號ニ依リ內務省所管ト決定相成同上ノ死亡又ハ逃走ニ係ルモノノ處分ニ對シテハ同年六月二十四日青森縣知事ノ問合ニ對シ監丙第七八八號ヲ以テ一ケ年經過ノ後監獄ニ送付シ國庫ノ收入ニ編入スヘキ旨監獄局長回答相成居候條監獄ニ送付ヲ受ケルニ付テハ物品ハ「監獄會計處務規程第百七十八條同第十七條」ニ依リ處分シ金錢ハ「同規程第百六十四條」ニ準據シ警察署長ヨリ送入徴收官ニ報告セシメ同時ニ警察署送入處出外現金出納官吏ヲシテ監獄ノ收入官吏ニ納付セシメ可然哉

右ハ貴見ノ通ノ手續ニ依ルヘキモノト思考致候

(明治四十年三月
監獄局長回答
監丙第一七九號)

一四 警察ニ於ケル受刑者及刑事被告人所持金品取扱ノ件

(大正二年三月
神奈川縣知事照會
丑內會收第 九八五號ノ一)

警察署同分署ニ領置スル囚人及刑事被告人所持金ニシテ本人死亡シ受取人ナキトキ又ハ逃走シタルトキ其ノ現金取扱方ノ義ニ關シ(中略)監獄法實施後今日第五十七條ノ規定ニ依リハ同上ノ場合ニ於テハ單ニ國庫ニ歸屬スト有之ニ付別ニ「監獄署」ニ通知シ納入告知書ノ發布ヲ待タズ直接取扱警察署(分署)ニ於テ「保管物取扱規程」ニ依リ「金庫」ニ送付シ滿期失効ノ上送入ニ納付ノ取扱ト爲シ得ラルル事ニ被存候得共差掛リタル事件モ有之候間至急何分ノ御回報煩度

(大正二年三月
警保局長回答)

監獄法第六條ニ於テ同法ニ依リ國庫ニ歸屬シタル物ハ

監獄懲罰ノ用ニ充ツルノ規定有之候ニ付テハ明治三十五年法律第十一號ニ依リ「監獄費」ヨリ償還ヲ受ケ得ラルヘキ囚人及刑事被告人ニ係ル金品ニ對シテハ從來ノ通監獄ニ引繼キ候様致度

一五 領置品ニシテ差押處分アルトキ被害者ニ還付ノ件

明治三十九年七月
福井監獄長照會
監獄第六一六號

判決宣告済ノ上入監セシ囚人ノ著有衣類中領置後ニ至リ該衣類ハ差押品トシテ被害者ニ還付スヘキモノナル處他ニ衣類ナク其儘使用セシメタルモノナルニ付本人ノ諾否ニ關セス送付スヘキ旨檢事ヨリ照會ノ向有之候ヘ共一旦所持品トシテ領置シタルモノハ強制執行ノ場合ノ外本人ノ承諾ヲ經スシテ監獄ニ於テ如上ノ處分ヲ爲スハ穩當ナラサル義ト思料候ニ付テハ御意見如何ニ候哉

明治三十九年七月
福井監獄長照會
監獄第六一七號

被害者へ還付スヘキ旨ノ判決官渡ヲ受ケタル物品ナレ

ハ本人ノ諾否ニ拘ハラズ檢事へ送致相成可然ト存候

一六 領置中ノ物品ヲ檢事等ニ送致スル件

明治三十九年七月
福井監獄長照會
監獄第六一六號

監獄第六一七號御回答ノ趣了承就テハ將來審理中ノ被告人ニ係ル領置物品ト雖モ檢事又ハ當該裁判官ヨリ照會ノ場合ハ尙ホ本人ノ諾否ニ拘ハラズ送付可致旨當地方裁判所檢事ヨリ照會有之候ニ付テハ此場合ニ於テモ右御回答ニ依リ處理致シ可然哉

明治三十九年八月
福井監獄長照會
監獄第六一九號

刑事被告事件審理上檢事又ハ裁判官ヨリ照會ヲ受ケタル場合ハ前回答ニ依リ處理セラレ可然ト存候

一七 領置金品取扱ニ關スル件

大正四年二月
松山監獄長照會
監獄第一三八號

警察傳遞中逃走シタルモノノ領置貨物ハ無論發送官署ニ返付スヘキモノニ無之逃走セシメタル官署ニ保管シ相當處分スヘキモノト被考候得共爲念及問合候

明治三十四年一月
福井監獄長照會
監獄第七七號

右ハ發送官署ニ返却セシメ保管相成可然存候

一九 護送中紛失又ハ盜難ニ罹リタル領置品整理方ノ件

明治三十四年十二月
島根監獄長照會
監獄第二八四號

他(府縣監獄署)ヨリ囚徒送還ノ爲メ押送官吏ヲ派出シ押送規則第三條第一項上段ニ依リ本人ト同時ニ貨物ヲ託セラレタル場合ニ於テハ其送致中貨物ハ押送ヲ爲ス各官署ノ保管ニ屬スル事ハ同則第四條ニ明記アリ而シテ其押送途中ニ於テ其貨物ノ紛失又ハ盜難等ニ罹リタルトキト雖モ押送官署ハ發送官署ニ對シテ最初押送官吏ニ託シタル貨物ノ數ニ應スル領收證ヲ發スヘキ儀ト被見認候處如何哉尙ホ請テ押送官署ニ於ケル帳簿整理上ハ實際金品ヲ領收セサルモノニ付受入記帳ヲ爲ササ

豫審中ニ係ル詐欺刑事被告人某ニ對シ今般松山地方裁判所檢事ヨリ處分上必要ノ旨ヲ以テ所持金並ニ有價物回送方照會ニ接シ候處右ハ家人ニ下附ノ虞アルモノト認メラレ候儀ト被存候此ノ取扱方ニ就テハ明治三十九年七月「福井監獄」照會ニ對スル「獄務課長」ノ回答同年八月監獄第六六九號モ有之候得共聊カ疑義相生シ候ニ付至急何分ノ御回示相煩度

大正四年二月
福井監獄長照會
監獄第一一一號

右ハ被告事件審理上必要ノ事由ニ依リ照會アリタル場合ニ限リ縱令本人ノ承諾ナシト雖直ニ之ヲ監獄ニ返付セシムヘキ條件ノ下ニ一時其ノ要求ニ應セラルルハ素ヨリ差支無之候ヘ共訴訟法上ノ定式ニ據ラスシテ不定期間之カ保管ヲ檢事ニ移スハ穩カナラスト思料候間本趣旨ヲ體シ交渉ヲ遂ケ相當御處理相成可然

一八 護送中逃走シタル者ノ領置品保管方ノ件

明治三十四年一月
香川監獄長照會
監獄第二二七號

ルモ可然哉

(明治三十四年十二月
監獄事務官同答
監丙第一〇五二號)

押送ヲ受ケタル官廳ハ實際受領シタル貨物ノミニ付テ
ノ領收證書ヲ交付シ之カ受入記帳ヲ爲ス儀ト御承知相
成度

二〇 同上ノ件

(明治三十五年一月
鳥根監獄會同監第八四號)

客年十二月監丙第一〇五一號ヲ以テ押送途中貨物紛失
等ノ場合ニ於ケル領收證書並帳簿整理方ノ儀ニ付御回
答ノ趣モ有之候得共尙ホ未タ取扱上疑惑ノ存スル所有
之左記ノ事實ニ就キ更ニ御教示有之度再應及照會候
【廣島縣監獄署】在監控訴囚送還ノ爲當【監獄署】ヨリ
吏員ヲ派出シ同署ニ於テ囚人並ニ領置貨物ヲ受取り
歸縣途中送還囚ノ一人カ領置ノ貨物拐帶ノ儀逃走セ
リ此ノ場合ニ於テ貨物ノ保管ハ押送規則第四條ニ依
リ押送官署即チ當監獄署ノ責任ニ屬スルヲ以テ送官
署即チ【廣島縣監獄署】ニ對シテハ送還途中貨物ノ紛

失シタルニモ拘ハラズ最初派出官吏カ受取タル貨物
ノ數ニ應ジ領收證書發スルヲ至當ト心得候ヘ共實際
領收セサル金品ニ對シ領收證書發スルコトトセハ帳
簿整理上頗ル困難ヲ感ス亦々諒テ貴課御同答ノ通前
件ノ場合ニ於テ押送官署ハ實際領收シタル金品ニ對
シ單ニ領收證書發スルコトトセムカ發送官署即チ
【廣島縣監獄署】ハ最初派出官吏ニ悉皆貨物ヲ引渡シ
タルニモ拘ハラズ押送官署ヨリ途中紛失ノ貨物ヲ除
キタル殘數ニ對スル領收證書ヲ以テ帳簿ノ整理不可能
事ト認ム

(明治三十五年一月
監獄事務官同答)

客年十二月監丙第一〇五一號回答中ニアル實際受領シ
タル貨物トハ貴監派出官吏カ【廣島縣監獄署】ヨリ受領
シタル貨物ヲ指ス義ニ有之押送規則第四條ニ依ルモ派
出官吏カ【廣島縣監獄署】ヨリ受取りタルトキヨリ貴監
ノ保管ニ屬シタル義ニ候條之ニ對スル領收證書ヲ交付
シ受入記帳ヲ爲ス義ト御承知相成度

二一 贖送途中ノ收容者金錢ヲ拾得
シタル場合報勞金處分方ノ件

(明治四十四年一月
監獄事務官同答
監丙第一〇五二號)

去ル一月四日彦根出張所在監人一名受取ノ爲本監看守
チシテ同所ニ出張ヲ命シ其ノ引卒歸途囚人カ金三圓餘
入ノ錢入ヲ拾得シタルヲ以テ同看守ハ其事實ヲ具シテ
彦根警察署ニ届出置キタル處今同署ヨリ右拾得者ニ
對シ遺失者判明ニ付報勞トシテ金四十五錢送付越シ候
ニ付テハ事實ハ囚人カ拾得シタルモノナレ共囚人ニ交
付シテ差支ナキヤ

(明治四十四年一月
監獄事務官同答
監丙第一〇五二號)

遺失物拾得報勞金處分ノ件ハ拾得シタル囚人ニ交付ス
ヘキモノト思考致候

二二 刑務所領置貨物差押ニ關スル
件

(明治二十四年八月
内務省警保局長三郎)

領置貨物差押處分之儀ニ付兵庫縣知事ヨリ伺出ニ對シ
司法大臣ト協議シ上在監人ニ給與スル【工錢】ハ民事訴

訟法第六百十八條第六號ニ包含スルモノト解釋ス但其
入監ノ際携有スル貨物ハ民事訴訟法第五百七十條ノ場
合ノ外差押ヲ拒ムコトヲ得スト指令相成候

二三 領置金ノ差押ニ關スル件

(明治四十二年五月
監獄事務官同答
監丙第一〇五二號)

一 當監拘禁ノ受刑者某ナルモノ債權者ヨリ曩ニ領置
金ノ債權假差押命令相成居候處今回更ニ典獄ニ對シ
民事訴訟法第五百九十四條ニヨリ第三債務者トシテ
該債權轉付命令正本送達相成候モ元來在監者ノ領置
金ハ會計上歳入歳出外現金出納官吏ノ責任事務ニシ
テ典獄ノ保管ニ屬セサルハ勿論ノ儀ニ付隨而典獄ヲ
第三債務者ト爲スヘキモノニアラスト思料シ其旨當
該裁判所ヘ交渉候處裁判所ニ於テハ明治三十六年三
月司法省令第九號ニ依リ當然典獄ヲ第三債務者ト爲
スヘキモノナリトノ解釋ニ有之候右法文ヲ案スルニ
「各監獄ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國代表
ス」トアリテ典獄ト無之ノミナラス出納官吏ハ現ニ
其責任事務ニ就テハ外部ニ對シ監獄ヲ代表シ居ル事

實ニ徴スルモ出納官吏ヲ第三債務者ト爲シ能ハサル理由無之様思料セラレ候右ニテ差支無之候哉

二 前項典獄ヲ第三債務者ト爲スヘキモノナリトスルモ右ハ監獄法第五十五條ニ依リ釋放ノ際交付スヘキ即チ民事訴訟法第六百十三條ニ於ケル有期ノ債權ナルヲ以テ拘禁中ハ只其債權ヲ差押フルニ留メ現金ノ交付ヲ爲スヘキモノニアラスト解シ可然哉

(明治四十二年六月
監獄局長同答
監丙第七一八號)

第一項ハ二十六年勅令第二百六十一號政府ヲ第三債務者トシテ發スル差押命令ニ關スル會計上ノ規定第一條第四項但書(四十年勅令第三百三十七號ヲ以テ改正)ニ依リ該領置金ヲ保管スル出納官吏ニ向テ發スヘキモノト存候從テ第二項典獄ニ對シテ送達シタル該命令ハ不當ナルモ出納官吏ヲ第三債務者トシタル場合ニ於テハ該債權ハ監獄法第五十二條ニ依リ民事訴訟法第六百十三條ニ所謂有期債權ニハ無之様存候

二四 受信ヲ許ササル往復葉書ノ返信用紙ニ關スル件

受刑者へ宛テル信書及差入品ニ付左ノ各項ニ該當スルモノハ如何ニ取扱可然哉

受刑者へ宛タル往復葉書ニシテ受信不適當ト認メ監獄法第四十七條ニ由リ處分シ滿二年經過後廢棄可然哉

(明治四十三年二月
監獄局長同答丙第七一號)

監獄法第四十七條ニ依リ受信ヲ許サル往復葉書ノ返信用紙ニシテ同法第五十三條第二項ニ該當スルモノハ同條ニ依リ處分シ宛名ノ受刑者へ交付シ差支ナシト存候

二五 刑務所管理區内へ藏匿又ハ投入物處分方ノ件

在監者へ私與ノ目的ヲ以テ監獄管理區内へ藏匿又ハ投入シタル物件ノ處分方ニ付別紙甲號ノ通(樺戶監獄典

(大正二年六月
監獄局長通達
監甲第六二三號)

獄照會ニ對シ乙號ノ通回答致置候條御了知相成度

(甲 號)

(大正二年五月
樺戶監獄照會
樺甲號第一三三號)

當監獄釋放受刑者其ノ他外部ヨリ受刑者へ私與ノ目的ヲ以テ種種ナル物件ヲ管理區内農道耕作地收穫小屋山林原野等へ藏匿又ハ投入シ受刑者既ニ占有所持分配後發見ノ場合アリ或ハ未タ占有所持ニ歸セサル前發見押收ノモノアリ是等諸物件ハ從來ハ適宜廢棄處分致シタル趣ニ候處聊カ疑義相生シ候ニ就テハ左ニ

- 一 既ニ受刑者カ占有前ト認ムル場合ハ藏匿場所ノ如何ヲ問ハス一旦假留品書留簿ニ登記シ監獄法第五十四條ニ依リ没入又ハ廢棄處分ヲ爲シ可然哉
 - 二 未タ受刑者ノ知覺占有前ト認ムル場合ハ一般遺失物ノ例ニ依リ警察官署へ引渡ノ處分ヲ爲シ可然哉
 - 三 没入品中未破封緘ノ煙草拾數個アリ專賣法施行ノ今日廢棄處分ヲ爲スノ外途無之哉
- 右ハ差掛リ居候事件有之候ニ付テハ至急何分ノ御指示相煩度

(乙 號)

(大正二年六月
司法部會計局長同答
監甲第六二三號)

第一項第二項ハ御意見ノ通第三項ハ左記ノ區別ニ依リ

第二十四章 供託、預金、保管、信託

最寄專賣官署へ引渡相成可然

- 一 品質變壞セス且包裝破損、汚損又ハ其ノ色彩變褪スルコトナク政府ノ證票アリテ直ニ販賣スルコトヲ得ル煙草ハ有償
- 二 前項以外ノ煙草ハ無償
- 三 引渡ニ要スル運搬費ハ引渡ヲ受クル專賣官署ニ於テ負擔ス

二六 差入物品受付簿ヲ設クル件

(明治四十一年八月
監獄局長通達
監甲第五九四號)

差入物品ノ受付ニ付テハ差入物品受付簿ヲ設ク差入人カ直接ニ持參シタルトキト小包郵便其他ノ方法ニ依リ送致シタルトキ間ハ總テ之ニ記載ノ上處理相成度尤モ受付簿ハ飲食物ト其他ノ物品ト各別ニ調製シ機式ハ適宜之ヲ定メラレ度

二七 領置金品ノ取扱ニ關スル件

(指示)
(明治三十六年
監獄局長通達)

備考

- 一 本簿ハ「監獄會計處務規程第八十條」ノ必要ニ據リ之ヲ設ク
- 二 領置物品基帳巻首ニ同一ノ欄ヲ設ケ之ヲ記入シ本簿ヲ省略スルモ妨ケナシ
- 三 本簿ハイロハ別又ハ刑事被告人囚人「憲治人別房留置人」各別冊ト爲スモ妨ケナシ
- 四 本簿ハ領置物品「取扱」主任ノ主管トス

二八 特別保管ノ領置物品封緘及檢閱ニ關スル件

(注意)

(明治四十四年
典獄會議ニ於テ)

領置物品中特別保管ニ屬スルモノヲ納レタル袋ノ封緘ハ本監ニ於テハ所屬「課長」分監ニ在テハ分監長ノ認印ヲ押捺スヘキコトハ曾テ注意スル所アリシカ往々「保管品取扱主任」ノミ捺印シタルモノアリ或ハ事故アリテ封緘ヲ解キタルトキハ再ヒ封緘ヲ施スヘキ管ナルニ之ヲ等閑ニ付スルモノアリ領置物品就中特別保管ニ屬スル物品ノ保管出納ニ付テハ時時之ヲ檢閲シ部下ニ一任スルカ如キコトナキヲ要ス

二九 宿直員ヲシテ領置金品ヲ取扱ハシムル場合ノ件

(注意)

(明治三十八年
典獄會議ニ於テ)

開廳前又ハ退廳後ノ入監人又ハ出監人ノ領置金品ヲ取扱ハシムル場合ニ於テハ宿直所ニ領置金及特別物品ヲ藏置スヘキ金櫃又ハ鎖鑰ノ設ケアル堅牢ノ函類ヲ備ヘ又普通物品ノ藏置ニ付テハ調所又ハ便宜ノ場所ニ鎖鑰アル押入、物置又ハ戸棚等ヲ設備シ領置金品ヲ藏置ノ上其ノ鑰匙ハ宿直員ニ於テ之ヲ封筒ニ入レ其上封ニ認印シ保管セシムルノ注意アルヘシ

第二十五章 工事

第二十五章 工事

工事

一 司法省所管工事取扱規程

大正十一年七月
司法省訓令
會甲第二三六號

改正 大正十一年第三四八號

第一章 總則

第一條 司法省所管ノ工事ハ本規程ニ依リ取扱フヘシ
但シ一廉三千圓未滿ノ工事ニ付テハ本規程ニ依ラザ
ルコトヲ得

第二條 工事ハ請負又ハ直營ヲ以テ施行スルモノトス
第三條 工事施行ノ方法請負ナルトキハ工事監督、直
營ナルトキハ工事主任ヲ置ク
前項ノ工事監督、工事主任ハ會計事務管理者ニ於テ
ハ刑務所長以之ヲ命スヘシ但シ工事監督、工事主任
下之ニ同シ

ハ會計規則第九十二條第二項ノ検査員ト相兼ネシム

ヘカラス

第四條 繼續直營工事ニ付テハ其ノ工事ノ材料、機
械、器具等ノ出納保管ノ爲特ニ分任物品會計官吏ヲ
置クコトヲ得

第五條 競争入札ノ豫定價格調書、入札公告、入札心
得書、請負金、内譯書、契約書案ハ第一號乃至第四
號書式ニ準シ調製スヘシ隨意契約ニ於ケル契約書類
亦同シ

第六條 職工、人夫ノ供給請負人心得書、契約書案、
供給内譯書ハ第五號乃至第七號書式ニ準シ調製スヘ
シ

第七條 請負人ヨリ請負金内譯書ヲ提出シタルトキハ
設計書、圖面又ハ注文書ニ照シ其ノ品目、寸法、數
量、價格ヲ調査スヘシ

第八條 設計變更又ハ工事追加ヲ要スル時ハ設計書、
圖面及費用増減調書ヲ添附シ司法大臣ノ認可ヲ受ケ
ヘシ

契約締結後設計變更ノトキハ第八號書式ニ準シ追加
契約ヲ爲シ工事追加ノトキハ第五條ニ依リ別ニ契約
ヲ締結スヘシ

第九條 會計事務管理者ハ材料、機械、器具等ヲ供給者ヨリ納付スルトキハ工事主任チ之ニ立會ハシメ其ノ品質ヲ鑑定セシムヘシ

第十條 一廉三千圓以上ノ工事ニ付テハ左ノ事項ヲ其ノ時時司法大臣ニ届出ツヘシ

一 起工、竣功ノ年月日

二 竣功期日ニ變更ヲ及ホスヘキ中止又ハ延期ヲ爲シタルトキ

第十一條 繼續工事ニ付テハ第九號書式ニ依リ毎年十月、四月ノ二回ニ工事ノ進行程度ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第十二條 年度内ニ竣功スヘキ工事ニシテ災害其ノ他ノ事故ニ因リ翌年度ニ互ルヘキ場合ニ於テハ更ニ竣功期日ヲ豫定シ事由ヲ具シ司法大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ經費ノ繰越ヲ要スル場合ニ於テハ該繰越稟請書ニ其ノ旨ヲ明記スヘシ

第十三條 會計規則第九十二條第一項ノ調書ハ工事監督又ハ工事主任、同條第二項ノ調書ハ検査員チシテ第十號書式ニ依リ之ヲ調製セシムヘシ

第十四條 會計事務管理者ハ工事監督又ハ工事主任チシテ工務日誌ヲ設ケ工事ノ經過、工事ノ要項、材料

検査ノ願末其ノ他必要ナル事項ヲ記載セシムヘシ

第十五條 會計事務管理者ハ工事監督又ハ工事主任チシテ竣功ノトキ又ハ必要ノ時期ニ於テ不用材料ノ目錄ヲ調製セシムヘシ

第二章 請負工事

第十六條 工事監督ハ請負人又ハ其ノ代理人立會ノ上諸般ノ材料ヲ精密ニ検査スヘシ

第十七條 工事監督ハ請負人カ工場ニ持込ミタル材料ニ付検査合格、不合格及未済ノ区分ヲ明ニシ検査不合格ニシテ使用ノ途ナキ材料ハ期限ヲ定メ工場外ニ搬出セシムヘシ

第十八條 工事監督ハ合成ノ上使用スル材料ニ付テハ調合ノ際必ス之ニ立會フヘシ

第十九條 工事監督ハ特ニ左ノ事項ニ付監督スヘシ

一 設計書、圖面及工法ニ基キ工事ヲ完全ニ施行スルヲ否ヤ

二 使用ノ材料ハ第十七條及第十八條ノ規定ニ依リタルモノナリヤ否ヤ

三 其ノ他工事ノ必要ノ事項

第二十條 工事監督ハ左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ請負人チ戒告シ之ニ應セサルトキハ會計事務管理者ニ報告スヘシ

務管理者ニ請求スヘシ

材料使用ニ付テハ其ノ品目、數量及用途ヲ定メ物品會計官吏ニ請求スヘシ

野角材、地金ノ如キ製材ヲ要スルモノハ物品會計官吏ヨリ生産拂テ受ケ加工了シタルトキ一廉毎ニ生産シタル品目、數量、代價及加工減ノ數量ヲ明ニシ物品會計官吏ニ引渡スヘシ

前項ノ場合ニ於ケル生産拂ニ付テハ會計事務管理者ハ豫メ物品會計官吏ニ命令シ同官吏チシテ直ニ拂出ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十五條 工事主任ハ設計書、圖面ニ適合シタル材料ニアラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十六條 工事主任ハ工場ノ出入チ嚴ニシ職工、人夫ヲ督役シ其ノ適否及勤惰ヲ監視スヘシ請負ニ依リ職工、人夫ヲ供給セシメタル場合ニ付テハ第二十條ノ規定ヲ準用ス

第二十七條 工事主任ハ職工、人夫ノ不當ナルモノアルトキハ之ヲ斥ケ其ノ旨會計事務管理者ニ報告スヘシ

第二十八條 直營工事ノ一部ヲ請負ニ付シタル場合ニ

告スヘシ

一 請負人又ハ其ノ代理人工場ニ臨マサルトキ

二 代理人又ハ職工、人夫ヲ不當ト認ムルトキ

三 故ナク工事ノ進行ヲ遲滞スルトキ

四 其ノ他契約ノ條件ヲ履行セサルトキ

第二十一條 工事監督ハ左ノ各號ノ一ニ當リタルトキハ工事ノ狀況ヲ會計事務管理者ニ報告スヘシ

一 起工及竣功ノトキ

二 災害其ノ他ノ事故ニ因リ工事ノ進行ヲ妨ケラレタルトキ

三 契約期間内ニ竣功セス又ハ年度内ニ進行スヘキ豫定部分ノ翌年度ニ互ルヘキ狀況アルトキ

第三章 直營工事

第二十二條 工事主任ハ豫メ工事ノ順序、材料ノ數量、職工、人夫ノ員數及使用時期ヲ定メ會計事務管理者ノ承認ヲ受クヘシ

第二十三條 工事主任ハ設計書、圖面及工事ノ順序ニ變更ヲ要シ又ハ工費ニ増減ヲ生スル見込アル時ハ會計事務管理者ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十四條 工事主任ハ材料、機械、器具等ノ購入又ハ職工、人夫ノ傭入ヲ要スルモノアルトキハ會計事務

便入札ハ封書ニ入札書在中ノ旨ヲ表記シ電信入札ハ表面ニ「ニヤ」ノ符號及發信人ノ氏名ヲ付シ開札時刻マテニ當應ニ到達スル様發送スヘシ

郵便及電信入札ニシテ開札時刻マテニ到達セサルモノハ其ノ事由ノ如何ヲ問ハス總テ無効トス

第七條 郵便又ハ電信ニテ入札シタル者落札シタルトキハ速ニ落札者ニ之ヲ通知スルモノトス

落札者ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ承諾ノ旨電報スヘシ此ノ電報ハ第十二條ノ請書ト同一ノ效力ヲ有ス

第八條 入札者ハ設計書、圖面、(注文書)契約書案及本心得書ノ見誤、誤解、見込違、入札書ノ誤記其ノ他何等ノ事情アリト雖一旦提出シタル入札書ノ引換、變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 開札ハ公告ニ示シタル場所、日時ニ入札者ノ面前ニ於テ之ヲ行ヒ金額ノ最低ナルモノヲ落札トス入札者又ハ代理者開札ノ場所ニ出席セサルカ又ハ出席セサルモノアルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ開札ニ立會ハシムヘシ

競争加入ノ資格ナキ者ノ爲シタル入札、入札ニ關スル條件ニ違反シタル入札、金額其ノ他須要ノ文字不

明瞭ノ爲通讀シ難キ入札ハ無効トス電信局ノ過失ニヨリ錯誤ヲ生シタルトキ亦同シ

第十條 各人ノ入札中一モ確定價格ニ達セサルトキハ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

第十一條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ムヘシ前項ノ場合ニ於テ當該入札者中出席セサル者又ハ抽籤ヲ爲ササル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ之ニ代リ抽籤ヲ爲サシムヘシ

第十二條 落札者ハ直ニ(何)號書式ノ請書ヲ差出スヘシ

第十三條 落札者ハ落札ノ日ヨリ何日以内ニ(何)號書式ノ請負金内譯書ヲ提出シテ當應ノ承認ヲ受ケヘシ前項ノ内譯書中品質、寸法、數量及價格其ノ他不當ト認ムル廉アルトキハ訂正ヲ爲サシムヘシ

第十四條 請負者前條ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ翌日(何日)マテニ契約保證金ヲ納付スヘシ

前項ノ納付ヲ了シタルトキハ直ニ契約書ノ交換ヲ爲スモノトス

第十五條 前條ノ契約保證金ハ請負金額百分ノ十以上トシ現金又ハ國債ヲ以テ納付スヘシ

第十六條 落札者前各條ニ依リ契約ヲ締結セサルトキハ違約金トシテ入札保證金全部ヲ官廳ノ所得ト爲スヘシ但シ國債ヲ納付シタル場合ニ於テ當應ノ指定シタル期限内ニ違約金ヲ納付セサルトキハ之ヲ賣却シテ違約金ニ充當ス

第十七條 落札者ノ入札保證金ハ契約締結ノ上之ヲ還付スヘシ

年 月 日



第三號書式ノ二 入札書

一金何程(金額ハ壹、貳、參、拾ノ字體ヲ用フヘシ)右金額ヲ以テ何何工事設計書並圖面(何何物品注文書並見本)ノ通請負(納付)可致候也

年 月 日



住所 何 某

又ハ 何 某

何會社代表者 何 某

何應御中

第四號書式ノ一

印紙
貼用

工事請負契約書(案)

一 何何工事

但シ設計書、圖面之通

何應ハ右工事工費金何程ヲ以テ何某ニ請負ヲ命シタル

處之ヲ承諾シタルニ依リ左ノ條項ヲ契約ス

第一條 請負人ハ日日工場ニ出頭シテ工事ニ關スル諸

般ノ事項ヲ擔任スヘシ但シ代理人ヲ出サムトスルト

キハ委任狀ヲ提出シ官廳ノ承認ヲ受クルモノトス

第二條 代理人、職工、人夫中官廳ニ於テ不適當ト認

メタルモノハ使役スルコトヲ得ス

第三條 工場内ノ取締ニ關スル事項ハ主任官吏ノ指揮

ニ從フモノトス

第四條 請負人ハ設計書、圖面ニ基キ堅牢持久ノ目的

ニ以テ經營スヘシ

設計書、圖面ニ明記セサル細部ノ點ト雖工法ニ則リ

主任官吏ノ指揮ヲ受ケ施行スルヲ要ス

第五條 工事ノ材料ハ總テ使用前ニ主任官吏ノ検査ヲ

受クルモノトス

混凝土、ベンキ其ノ他調合ノ上使用スヘキモノハ主

任官吏ノ立會ヲ得テ調合スルモノトス

前二項ニ依ラサル材料ハ使用スルコトヲ得ス

第六條 工場ニ持込ミタル材料ハ之ヲ持去ルコトヲ得

ス但シ検査ニ合格セサル材料ハ主任官吏ノ指揮ニ從

フヘシ

第七條 工事ハ(大正)何年何月何日ニ起工シ(大正)何

年何月何日マテニ竣工スルモノトス

災害其ノ他ノ事由ニ因リ竣工期ノ遅延スル場合ニハ

請負人ハ其ノ原因ノ生シタル日ヨリ五日以内ニ其ノ

延期スヘキ日數及理由ヲ明ニシ官廳ノ承認ヲ受クル

モノトス

第八條 官廳ノ都合ニ依リ工事中止スルトキハ請負

人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ此ノ場合ニ於テハ中止

ノ日數ニ應ジ第七條ノ竣工期日ヲ延期スルコトヲ得

第九條 官廳ニ於テ工事ノ材料、構造等設計書、圖面

及工法ニ適合セスト認メタルトキハ請負人ハ工事中

何時ニテモ引換又ハ改造ヲ爲スヘシ工事ノ粗悪ナル

トキ亦同シ

第十條 工事中官廳ノ都合ニ依リ設計ノ變更ヲ要スル

トキハ請負人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ

ハ別紙請負金内譯書ニ基キ工費ノ増減ヲ精査シ協議

ノ上追加契約ヲ締結スヘシ

第十一條 請負金ハ工事竣功シ官廳ニ於テ検査ノ上工

事ノ完全ナルヲ認メタルトキ其ノ全部ヲ請負人ニ支

拂フヘシ

請負人ハ工事出来ノ都度(工事竣功マテ何回)請負金

ノ内渡ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ官廳ハ檢

査ノ上工事ノ適當ナリト認メタルトキ請負金内譯書

ニ基キ其ノ工費ノ十分ノ九以内ヲ支拂フヘシ但シ箇

箇ニ分立シ得ヘキ工事ニ對シテハ其ノ代價ノ全額マ

テヲ請求スルコトヲ得

第十二條 請負人ニ於テ第一條乃至第六條第八條乃至

第十條ニ違背シタルトキハ官廳ハ請負ヲ解除スルコ

トヲ得

第十三條 官廳ハ請負人ニ於テ第七條ノ起工及竣工期

日ヲ遅延シタルトキハ請負ヲ解除スルコトヲ得但シ

起工期日遅延ノ場合ニ於テ請負人カ遅延一日ニ付請

負金額ノ千分ノ一二當ル保證金ヲ追納シタルトキハ

請負ヲ解除セサルモノトス

第十四條 請負人ニ於テ第七條ノ竣工期日ヲ遅延シタ

ルトキハ官廳ヨリ通告ヲ爲シタル日ヨリ起算シ遅延

一日ニ付請負金額ノ千分ノ一二當ル金額ヲ違約金ト

シテ官廳ニ支拂フヘシ

第十五條 第十二條又ハ第十三條ニ依リ請負ヲ解除シ

タルトキハ違約金トシテ請負金額ノ百分ノ十二當ル

金額ヲ官廳ニ支拂フヘシ第十三條但書ニ依リ追納シ

タル保證金アルトキハ其ノ保證金ニ該當スル金額ヲ

違約金トシテ前項ノ違約金ニ併セ官廳ニ支拂フヘシ

第十六條 第十二條又ハ第十三條ニ依リ請負ヲ解除シ

タル場合ニ於テ工事ノ既済部分及工場ニ持込ミタル

材料アルトキハ總テ官廳ノ所得トシ官廳ニ於テ實地

検査ノ上相當ナリト認定シタル代金ヲ請負人ニ支拂

フヘシ

請負人ハ前項ノ代金ニ付キ異議ヲ唱フルコトヲ得ス

第十七條 請負人ハ契約保證金現金何程(國債額面何

程)ヲ官廳ニ納付ス

第十四條、第十五條ニ依リ納付スヘキ違約金ヲ官廳

ノ指定シタル期限内ニ納付セサルトキハ前項ノ保證

金ヲ以テ違約金ニ充當ス

設計變更ノ爲請負金額増額シタルトキハ請負人ハ其

ノ割合ヲ以テ保證金ヲ追納スルモノトス

第十八條 第十三條但書及第十七條ノ保證金ハ工事竣功シ官廳ニ於テ検査ノ上其ノ完全ヲ認メタルトキ又ハ第十四條第十五條ノ違約金ヲ完納シタルトキ之ヲ請負人ニ還附スヘシ

第十九條 本工事竣功検査ヲ了シタル日ヨリ滿一ケ年間ニ工事ノ不完全又ハ設計ニ違背セルコトヲ發見シタルトキハ官廳ノ指定シタル方法ニ隨ヒ其ノ期限内ニ請負人ノ費用ヲ以テ改造又ハ修補ヲ爲スモノトス右契約ノ證トシテ正本二通ヲ作り各一通ヲ所持スルモノナリ

一 契約書中數字ハ壹、貳、參、拾ノ字ヲ用キ二葉以上ニ及フモノハ各葉ノ間ニ雙方ノ印章ヲ以テ附シ印スヘシ

二 附屬設計書、圖面、請負金内書等ニハ何何契約書附屬ト表示シ双互捺印シ其ノ證左明ニスヘシ

備考

一 契約書中數字ハ壹、貳、參、拾ノ字ヲ用キ二葉以上ニ及フモノハ各葉ノ間ニ雙方ノ印章ヲ以テ附シ印スヘシ

二 附屬設計書、圖面、請負金内書等ニハ何何契約書附屬ト表示シ双互捺印シ其ノ證左明ニスヘシ



物品供給請負契約書(案)

シ但シ紙數ノ多キ書類ハ後綴ト爲シ其ノ綴目ニ捺印スルモノトス

第四號書式ノ二

一 何何

但シ別紙注文書之通

何何ハ右物品代金何程ヲ以テ何某ニ供給ノ請負ヲ命ジタル處之ヲ承諾シタルニ依リ左ノ條項ヲ契約ス

第一條 請負人ハ別紙注文書ニ基キ(大正)何年何月何日ヨリ(大正)何年何月何日マテニ前記ノ物品ヲ何所ニ悉皆納付スルモノトス但シ官廳ノ都合ニ依リ納付ノ期日ヲ延期スルトキハ請負人ハ之ヲ担ムコトヲ得ス

第二條 物品納付ノトキハ請負人ハ官廳ノ立會ヲ求メ之ヲ引渡スモノトス

官廳ハ注文書(見本)ニ基キ其ノ品質ヲ検査ノ上前項ノ物品ヲ受取ルヘシ但シ不良ノモノハ検査ノ際ナル

ト受取済ナルトキ間ハ何何ヨリトモ請負人ハ官廳ノ指定シタル期限内ニ引換ヲ爲スモノトス

第三條 請負金ハ前條ニ依リ全部ノ物品ノ受渡ヲ了シタルトキ請負人ニ支拂フヘシ

請負人ハ物品ノ三分ノ一以上ノ受渡ヲ了シタル毎ニ代金ノ内渡ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニハ請負金内書書ニ基キ其ノ代價ノ十分ノ九以内ヲ支拂フモノトス

第四條 請負人ニ於テ第一條ノ期限内ニ正當ノ事由ナクシテ物品ヲ納付セス又ハ第二條第二項ニ依リ引換金額ヲ違約金トシテ請負人ヨリ支拂ハシメ請負ヲ解除スヘシ

第五條 前條ノ場合ニ於テ既ニ受渡済ノ物品アルトキハ官廳ハ請負金内書書ニ基キ其ノ價格ノ一割引ヲ以テ代價ヲ計算シ請負人ニ支拂フヘシ

第六條 請負人ハ契約保證金現金何程(國債額面何程)ヲ官廳ニ納付ス此ノ保證金ハ物品全部ノ受渡ヲ了シタルトキ又ハ第四條ノ違約金ヲ完納シタルトキ之ヲ還附スヘシ

請負人ニ於テ第四條ノ違約金ヲ官廳ノ指定シタル期

限内ニ納付セサルトキハ官廳ハ前項ノ保證金ヲ以テ違約金ニ充當ス

右契約ノ證トシテ正本二通ヲ作り各空通ヲ所持スルモノナリ

年 月 日

住 所

請負人 何 某

何 廳

契約擔任者官 氏 名 印

備考

一 工事請負契約書案ノ備考ニ準ス

第五號書式ノ一

職工(人夫)供給請負人心得書

第一條 職工(人夫)供給ノ請負ヲ爲サムトスル者ハ注文書及契約書案熟覽ノ上(何)號書式ニ依リ供給見積書ヲ差出スヘシ

第二條 前條ノ見積書ヲ相當ト認ムルトキハ之ヲ供給請負人ト定メ其ノ旨通知スヘシ

第三條 請負人ハ第二條ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二日以内ニ(何)號書式ニ依リ請負金内譯書ヲ提出シテ官廳ノ承認ヲ受クヘシ

第四條 請負人ハ供給内譯書ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ翌日(何日)マテニ契約保證金ヲ納付スヘシ

第五條 契約保證金ハ請負金額ノ百分ノ十トシ現金又ハ國債ヲ以テ官廳ニ納付スヘシ

前項ノ内譯書中不當ナリト認ムル廉アルトキハ訂正ヲ爲サシムヘシ
前項ノ納付ヲ了シタルトキハ直ニ契約ヲ締結スヘシ

第五號書式ノ二

見積書

一金何程 何何工用職工(人夫)何人

右金額ヲ以テ注文書ノ通請負可致候也

年月日

住所

又ハ 何 某

何會社代表者 何 某

何 應御中

第五號書式ノ三

何何工用職工(人夫)供給内譯書

一金何程 請負高

内譯

種別	等級	員數	單價	小計
大工職				
左官職				
土工				
合計				

右之通相違無之候也

年 月 日

住所

請負人 何 某

前項ノ時間ハ官廳ノ都合ニ依リ繰上ケ又ハ繰下クルコトアルヘシ

第六號書式

印紙 貼用

職工(人夫)供給請負契約書(案)

一 何何工用職工(人夫)

但シ別紙注文書之通

何應ハ右職工(人夫)供給金何程ヲ以テ何某ニ請負ヲ命シタル處之ヲ承諾シタルニ依リ左ノ條項ヲ契約ス

第一條 請負人ハ職工(人夫)ノ就業時間中日日工場ニ出頭シテ請負ニ關スル諸般ノ事項ヲ擔任スヘシ但シ代理人ヲ出サムトスルトキハ委任狀ヲ提出シテ官廳ノ承認ヲ受ケルモノトス

第二條 代理人、職工(人夫)中官廳ニ於テ不適當ト認メタルモノハ使役スルコトヲ得ス

第三條 職工(人夫)ノ就業時間左ノ如シ

一 自何月何日 自午前何時 何時間

一 自何月何日 自午後何時 何時間

一 自何月何日 自午前何時 何時間

一 自何月何日 自午後何時 何時間

前項ノ時間ハ官廳ノ都合ニ依リ繰上ケ又ハ繰下クルコトアルヘシ

總 括					
年月日	摘 要	豫算高	決議高	残 高	備 考
大正 何年		圓	圓	圓	
四 一	何年度豫算決定高	50,000,000		50,000,000	
五 五	物品購入外何廉		4,000,000	46,000,000	
五 五	職工人夫供給請負金外何廉		1,000,000	45,000,000	
十	「何 何」		「30,000」	45,030,000	

「」内ノ文字ハ朱

何 何 (豫算決定内譯書) 名稱ヲ掲グ					
年月日	摘 要	豫算高	決議高	残 高	備 考
大正 何年		圓	圓	圓	
四 一	何年度豫算決定高	10,000,000		10,000,000	
五 五	何品何某ヨリ購入		500,000		何月何日 支拂済
五 五	何何工事何某請負契約ノ分		1,500,000	8,000,000	何月何日 既済部分 ニ對シ何 程支拂済
五 五	供給職工人夫何某請負契約ノ分		500,000	7,500,000	
十	「何 何」		「30,000」	7,530,000	

「」内ノ文字ハ朱

總 括				
年月日	摘 要	竣 功 高	果 計	備 考
何年		圓	圓	
四 一	廳 舍	2,490,000		
" "	附 屬 舍	500,000	2,990,000	
五 四	事務所及附屬建物	705,000		
" "	監房及附屬建物	305,000	4,000,000	
何 何	何 何 費			

廳舍之部(事務所及附屬建物)又ハ何何費(豫算決定内譯書)ノ名稱ヲ掲ク

年月日	摘 要	竣 功 高		果 計	備 考
		單位	數量 代 價		
何年				圓	
四 一	割栗石 地形用	坪	20 1,000,000		
" "	砂 利	"	10 600,000		
" "	川 砂	"	5 260,000		
" "	セメント	樽	60 630,000	2,490,000	
五 四	煉瓦石 事務所側種用	個	8,000 400,000		内何個毀損
" "	檜角 同土合用	本	20 200,000		
" "	杉板	枚	20 100,000		
" "	硝子板	"	10 5,000	3,195,000	物品會計官吏保管中毀損
何 何	何 何				

但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラ
ス明治三十八年農商務省告示第三十五號ハ之ヲ廢止ス
ル
セメント
セメント

第一章 製造法

第一條 ポルトランドセメントハ主成分トシテ珪
酸、礬土、酸化鐵及石灰ヲ含有スル原料ヲ適當ノ割
合ニテ充分ニ混和シ之ヲ殆ント熔融セムトスル迄灼
熱シタル後粉砕シテ細末ト爲シタルモノトス
ポルトランドセメント(以下單ニセメントト稱ス)
ニハ他ノ物質ヲ混和スルコトヲ得ス但シ其ノ重量ノ
8%以下ノ石膏ヲ混和スルハ此ノ限ニ在ラス

第二章 試驗法

比 重

第二條 セメントノ比重ハ8.05以上ナルコトヲ要ス但
シ8.05ニ達セサル場合ニハ之ヲ暗赤色ニ熱シタル後
更ニ試驗スルモノトス

粉末ノ程度

第三條 セメントハ1cm²ニ付300孔ヲ有スル篩ヲ以
テ篩ヒ別ケ其ノ殘滓量1.5gヲ超エサルコトヲ要ス此
ノ場合ニ於ケル篩ノ針金ノ徑ハ0.075mmトス
殘滓量ハ一試料ニ付二回以上、毎回5gノセメントヲ

採リ輕クチキ微細分ヲ篩ヒ落シ一分間ノ通過
量、0.1以下トナリタルトキ篩ノ底ノ殘滓ヲ秤リテ
之ヲ定ム

凝 結

第四條 普通ノ用途ニ供スルセメントハ15°C乃至25°C
ニ於テ注水ヨリ一時間以後ニ凝結ヲ始メ一〇時間
以內ニ凝結ヲ終ルコトヲ要ス

本試驗ニ於ケル注水量ハセメント50gヲ採リ適宜
ノ水ヲ加ヘ注水ヨリ約三分間捏ネ混セテ稍固キ糊
狀體ト爲シ硝子板ノ如キ水ヲ吸收セサルモノノ上
ニ置キタル圓筒ニ充シ剩餘ハ之ヲ除キ稠度計ノ金
屬棒ヲ其ノ指針カチ目盛ヲ指ス處ヨリ徐徐
ニセメント中ニ降下セシメ目盛ニ止マル
トキニ相當スル水量トス此ノ場合ニ於ケル水量ハ
標準稠度ニ適スルモノトス
凝結ノ始發及終結ヲ試驗スルニハ稠度計ノ金屬棒
ヲ標準針ニ換ヘ之ト共ニ降下スヘキモノノ全重量
ヲ300gト爲シ圓筒內ニ充シタル標準稠度ノ糊狀
セメントノ中ニ該標準針ヲ徐徐ニ降下セシメ其ノ
指針凡ソ1mmノ目盛ニ止マルトキヲ以テ凝結ノ
始發ト爲シ漸次凝結シテ針頭カチ目盛ノ表面ニ

沸騰ヲ止ムルコト深サ凡ソ0.15日ヨリ至リタルト

キヲ以テ凝結ヲ終リタルモノトス
本試驗ニ用ウル稠度計及標準針ハ次ノ通トス
稠度計ハ長50cm徑1cmノ金屬棒ニ指針ヲ附シ
ルモノト糊狀セメントヲ入ルヘキ高5cm徑8
cmノ圓筒ト共ニ目盛ヲ有スル計尺トヲ備ヘ、金屬
棒及之ト共ニ降下スヘキモノノ全重量ヲ300gト
ス

標準針ハ長55cm断面1mm²(徑1.13mm)ノ金屬

棒ニシテ其ノ頭ヲ平ニ切りタルモノトス
膨脹性龜裂

第五條 セメントハ膨脹性龜裂ヲ生ゼサルコトヲ要

ス
膨脹性龜裂ヲ試驗スルニハ次ニ規定スル浸水法ニ依
ルモノトス但シ浸水法ニ依ル試驗時日ヲ有セサル場
合ハ煮沸法ニ依ルコトヲ得
浸水法 セメント約100gニ適量ノ水ヲ加ヘ能ク捏
ネ混セテ糊狀體ト爲シ之ヲ硝子板上ニ展ハシ徑1
00日中央厚約1.5cm圓筒ニ於テ稍薄キ饅頭形體ト爲
シタルモノノ箇ヲ作り凡ソ10時間ヲ經テ水中ニ浸シ
2日間ニ於テ龜裂又ハ歪曲ノ有無ヲ檢スルモノトス

沸騰法 浸水法ニ記載セル方法ヲ以テ作りタル饅頭

形體ヲ少クとも10時間ヲ經タル後水ヲ滿セル鍋中ニ
沈メ徐徐ニ熱シテ凡ソ1時30分間沸騰セシメ漸次之
ヲ冷却シタル後龜裂又ハ歪曲ノ有無ヲ檢スルモノト
ス
糊狀體ヲ作ルニ用ウル水量ハセメントノ重量ニ對シ
約5%乃至7%トシ糊狀體ヲ載セタル硝子板ヲ輕
ク敲グトキ糊ケ周圍ニ流出スルヲ適度トス
饅頭形體ハ凝結終了ニ至ル迄濕氣アル箱ニ入レ若
シハ濕布ヲ以テ覆ヒ空氣ノ流通及日光ノ直射ヲ避ケ
收納ノ爲ニびわれヲ生ゼサル様注意スルコトヲ
要ス

前項ノびわれハ多クハ饅頭形體ノ中央ニ起リ膨
脹性龜裂トモ相關セサル現象ニシテ普通ノ用途
ニ供スルセメントニ於テハ特ニ之ヲ生シ易キヲ以
テ注意スルコトヲ要ス

抗張力及耐壓力

第六條 セメントノ抗張試驗及耐壓試驗ハセメントノ
分(重量ニ依ル以下之ニ倣フ)ニ標準砂9分ヲ混和シ
タル砂入セメントニ付之ヲ行フ
抗張力ハ供試驗カニ日間(空氣中)時間、水中(日間)

固結ノ後ニ於テ14kg/cm²以上、28日間(空氣中)時間、水中5日間(固結ノ後ニ於テハ21kg/cm²以上タルヘク且28日間固結ノ後ノ抗張力ハ7日間固結ノ後ノ抗張力ヨリ大ナルコトヲ要ス)耐壓力ハ供試體カ28日間(空氣中)時間、水中5日間(固結ノ後ニ於テ210kg/cm²以上ナルコトヲ要ス)試驗ハ各5箇ノ供試體ニ付之ヲ行ヒ其ノ抗張力及耐壓力ノ各平均數ヲ以テ其ノ成績ヲ表ハスモノトス

第七條 抗張試驗ニ用ウル供試體ノ中央部ニ於ケル最小斷面積ハ50cm²トシ之ニ用ウル試驗機ハ二重橫杆式ノモノヲ以テ標準トス

耐壓試驗ニ用ウル供試體ハ立方體ニシテ其ノ各面ノ面積ハ50cm²トス

第八條 抗張試驗及耐壓試驗ニ用ウル供試體ハ次ニ示ス機械法ニ依リ作ルモノトス但シ抗張試驗ニ用ウルモノニ在リテハ便宜手工法ニ依ルコトヲ得

機械法 セメントノ分ト標準砂ノ分トヲ充分ニ混和シ之ニ適量ノ水ヲ加ヘ練テ以テ捏ネ混セ之ヲ100ノ鐵ヲ有スル標準鐵鑄機上所定ノ位置ニ固ク取付ケタル型(内面ニ少シク礦油ヲ塗リタルモノ)ノ中ニ充シ鐵心ヲ嵌メ100回之ヲ敲キ型上ノ過剩分ヲ削リ去リ其

上面ヲ平滑ニスルモノトス

供試體ヲ作ルニ要スル水ノ分量ハ鐵鑄機ヲ以テ敲クコト100回乃至110回ニシテ供試體ノ裏面ニ少シク水分ノ滲ミ出スヲ以テ適度トス

手工法 機械法ニ準シテ作りタル砂入0000チ内面ニ少シク礦油ヲ塗リ金屬板或ハ硝子板上ニ置キタル型ノ中ニ充シ鐵篋(頭部ニ幅50mm、長80mmノ平面ヲ有シ、柄ノ長30cm、全重量ノ約100g)ヲ以テ敲キ其ノ表面ニ少シク水分ノ滲ミ出スニ至リテ止メ型上ニアル過剩分ヲ削リ去リ其ノ上面ヲ平滑ニスルモノトス

第九條 前條ノ捏ネ混セ及型詰ハ常ニ室内ニ於テ行ヒ作業中日光ノ直射ヲ避ケ乾燥ヲ防キ成形ノ後ハ之ヲ濕氣アル箱内ニ置キ蓋ヲ以テ蔽ヒ溫度ノ變化及空氣ノ流通ヲ防キ20時間以上ヲ經テ叮寧ニ型ヨリ取外スモノトス但シ抗張試驗ニ用ウル供試體ニ在リテハ適當ノ裝置ヲ用キ成形後直型ニヨリ取外スモ妨ケナシ

型ヨリ取外シタル供試體ハ濕氣アル箱ノ内ニ保存シ成形後24時間ヲ經テ水槽ニ入レ全ク水中ニ浸スモノトス

型詰ヨリ浸水ニ至ル間ノ室内ノ溫度及水槽ノ水ノ溫度ハ10°C以下ニ降ラサル様注意スルコトヲ要ス

第十條 標準砂ハ福島縣相馬郡產ノ天然石英砂ヨリ成ルヘク石英砂粒ヲ損セサル様夾雜物ヲ除去シ充分ニ洗ヒタル後之ヲ乾燥シ一號篩及二號篩ヲ以テ順次ニ篩ヒ別ケ二號篩ノ底ニ殘留セルモノニシテ次ノ各號ニ合格スルコトヲ要ス

一 二回以上毎回10gノ試料ヲ採リ一號篩及二號篩ヲ以テ篩ヒ別ケテ行ヒ一分間各篩ノ通過量ハ以下トナリタルトキ篩ヒ方ヲ止メ二號篩ノ底ニ殘留スル量30g以上ナルコト

二 夾雜物ハ重量ニ於テ5%以下ナルコト

一號篩ハ1.18mmニ付、64孔ニ號篩ハ1.44孔ヲ有スルモノトス此ノ場合ニ於ケル針金ノ徑ハ一號篩ニ在リテハ0.4mm、二號篩ニ在リテハ0.29mmトス

第十一條 第六條乃至第九條ニ依ル試驗ヲ行フ時日ナキ場合ニハセメントノミヲ以テ作レル供試體ニ付抗張試驗ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於ケル抗張力ハ七日間(空氣中)四時間、水中六日間(固結ノ後)ニ於テ30kg/cm²以上ナルコトヲ要ス

供試體製作ニ關スル方法、注意及抗張試驗等ハ砂入

セメントノ規定ニ準ス

苦土、硫酸及灼熱減量

第十二條 セメント中ニ含有スル苦土(3%硫酸(SO₃)ハ2%ヲ超エサルコトヲ要ス

セメントノ灼熱ニ依ル重量ノ減少ハ1%ヲ超エサルコトヲ要ス

海水工用試験

第十三條 海水工用ニ用ウルセメントノ試験ニハ凡テ海水ヲ用ウルモノトス

第三章 試料及受渡

試料

第十四條 セメントノ試料ハ50冠又ハ其ノ端數每ニ其ノ平均品質ヲ表ハス樣五箇ノ包裝ヨリ之ヲ採リ能ク混和シタルモノトス

包裝及重量

第十五條 セメントノ受渡ニ用ウル重量ノ單位ハ越トス

第十六條 セメントハ袋入トスル場合ニハ正味50kg樽入トスル場合ニハ正味11kgトス

第十七條 鑄又ハ磚ノ外面ニ於テポルトランドセメントタルコトヲ明カニシ且正味重量ト製造所名トヲ明記スルモノトス

明治三十八年二月農商務省告示第三十五號ハポルトランドセメント試験方法ナリ

四 ポルトランドセメント購買註文書

明治三十八年三月 司法省事務局長通達 發乙第一五四號

改正 明治三十八年官甲第一〇〇五號

今般農商務省告示第三十五號ヲ以テポルトランドセメント試験方法制定相成候ニ付將來同セメント購買ノ必要アルトキハ別紙註文書ニ基キ購買御取計可有之候此段及御通候也

一 ポルトランドセメント購買註文書

一 納品ハ何れ建場内指揮ノ場所ニ持込ムヘシ

一 納品ハ別項記載ノ試験ニ合格スルヲ要ス

一 試験ハ何樽ヲ以テ一組トシ抽籤ヲ以テ選定シタル何樽ヨリ適量ノセメントヲ抜き取り等分ニ混和シ各組毎ニ指定ノ供試験體ヲ作り其組全部ノセメントヲ代表セシムルモノトス

一 試験ニ不合格ナル品ハ直チニ建場内ヨリ持去リ代品納入ノ上期限内ニ試験ヲ終了スルモノトス

一 代品ノ引換ヲ爲ス場合ニ要スル費用ハ總テ請負人ノ負擔トス

一 試験ハ當建場備付(請負人持參)ノ器具、機械ヲ以テ請負人(掛リ員)立會ノ上掛リ員(請負人)ニ於テ之ヲ行フ

膨脹性龜裂試験

左ノ檢定法中其一法ヲ施行シ膨脹性龜裂ヲ生セサルヲ要ス

浸水法 セメント百グラム(貳拾六匁六二〇)ニ適量ノ

水ヲ加ヘ能ク捏混シテ糊狀態ト爲シ之ヲ硝子板上ニ直徑大約十センチメートル(三寸三分)ニ展延シ中央ニ於テ厚サ大約一、五センチメートル(四分九厘五毛)線端ニ於テ較薄キ饅頭形體一組ニ付二箇ヲ作り凡ソ二十四時間ヲ經テ水中ニ浸漬シ二十七日間ニ於テ歪曲又ハ龜裂ヲ生セサルヲ要ス

乾燥法 浸水法ニ記載セル方法ヲ以テ作りタル饅頭形體ヲ少クモ二十四時間ヲ經ルノ後硝子板ヨリ剥取り之ヲ寒氣乾燥器中ニ裝置シテ漸次ニ乾燥シテ凡ソ二時間乃至三時間攝氏百二十度ノ熱ニ曝露ス

但乾燥時間ノ如何ニ關セス水蒸氣ノ發生シ終リタル後半時間ハ該熱度ヲ保續セシムルモノトス斯ク乾燥シタル後供試験ハ歪曲若クハ龜裂ヲ生セサルヲ要ス

沸煮法 浸水法ニ記載セル方法ヲ以テ作りタル饅頭形體ヲ少クモ二十四時間ヲ經テ適宜ノ鍋中ニ靜置シ更ニ水ヲ注加シタル後徐徐ニ熱シ水ノ沸騰ヲ凡ソ一時間三十分間保續セシメ漸次冷却シタル後歪曲又ハ龜裂ヲ生セサルヲ要ス

強度試験

セメント一分(重量ニ依ル以下微之)ニ標準砂三分ヲ

混和シタルモノニ付キ耐伸強ヲ檢定ス耐伸強ハ七日間(但空氣中二十四時間水中六日間)固結ノ後ニ於テ每平方センチメートルニ付七キログラム(每平方吋ニ付百ポンド)二十八日間(但空氣中二十四時間水中二十七日間)ノ後ニ於テハ每平方センチメートルニ付十五キログラム(每平方吋ニ付二百十三ポンド)以上タルヘシ

但二十八日間後ノ耐伸強ハ七日間後ノ強度ニ比シテ二キログラム(每平方吋ニ付二十八ポンド)以上ノ増加ヲ要ス

尙浸水前二十四時間ノ空氣ノ溫度並ニ供試験體ヲ浸漬シタル水中ノ溫度ハ共ニ攝氏五度以下ニ降ラサル様注意スヘシ

供試験ハ其ノ切斷部ニ於ケル面積五平方センチメートル(七分三厘八毛平方吋〇、七七五平方吋)ノモノタルヘシ而シテ試験器ハ二重槓杆式ノモノヲ以テ標準トス供試験ハ一組ニ付六個(第一週ニ三個ノ試験ヲ行ヒ第四週乃チ二十八日後ニ残り三個ノ試験ヲナス)ヲ作り毎回三個宛チ切斷シ其内強度ノ高キモノ二個ノ平均數ヲ以テ供試験體ノ強度トス

標準砂ハ東市府下在原郡品川町北品川、品川白煉瓦株式會社ニ於テ販賣ノモノトス

前方法ニ依リ檢定時日ヲ猶豫シ得サル場合ニ於テハ單純セメント供試體ニ付キ強度ヲ檢定シ七日間(空氣中二十四時間水中六日間)固結セシメタル後ニ於テ其耐伸強ハ每平方センチメートルニ付二十五キログラム(每平方吋ニ付三百五十六ポンド)以上ナルヲ要ス

以上供試體成形ノ方法及之ニ關スル注意強度ノ算定方法其他ノ事項ハ明治三十八年二月(農商務省)告示第三十五號ニ依ルモノトス

五 白蟻ノ驅除及豫防ニ關スル件

(明治四十四年十月
司法省官制課長通達
官乙第一〇三七號)

白蟻ノ驅除及豫防方ニ關シ問合ノ向モ有之候處未タ良法發見セラレス然ルニ簡易ナル方法トシテハ左記之通りニ有之候條該處發見ノ場合ハ充分調査ノ上相當御措置相成度此段及通譯候也

驅除法

一 白蟻侵入ノ徑路ヲ搜索シ地表ヨリ地中ニ通シ居ル通路ヲ發見シタルトキハ(通路ハ多ク徑二三分位ノ半圓形ノ鑿道ヲ作り居レリ)竹筥又ハ薄キ鏝ノ如キモノニテ徐徐掘下ケ巢窟ヲ見出シ殘リナク取去リタル跡ニ防蟻劑ヲ撒布シ新ラシキ土ヲ以テ埋ムル事
一 巢窟ハ地下二尺乃至四尺ノ深サニ在リ通路ハ時ニ地中横ニ作りテ意外ノ遠距離ニ巢窟ヲ構フルコトアレハ通路ヲ見當テタルトキハ之ヲ失ハサル様注意シテ巢窟ヲ發見スルヲ肝要トス

一 白蟻ハ暗中ニ生活シテ日光ニ露出スルヲ非常ニ忌嫌シ地層ヲ離レテ進出スル場所トシテハ建物中日光ノ射入セサル部分若クハ濕氣多キ部分ヲ選ムニヨリ搜索上其邊ニ注意スルノ必要アリ若シ地下ヘノ通路ヲ見出サス又ハ途中ニテ見失ヒタルトキハ進出ノ處アル所ニ防蟻劑ヲ濕潤セシメ其進出ヲ防止スル事
一 前項ノ如クシテ次ニ被害ノ部分ハ其程度ニ據リ或ハ新材ヲ以テ取換ヘ我ハ根柢キ削取リテ爲シ其部分ハ勿論尙侵入ヲ受クル處アル所ニハ防蟻劑ヲ塗布若クハ注入シ置ク事

豫防法

一 一面土臺、床、束、根太、大引等第一ニ侵サレ易キ場所登シ得ラレ易キ場所ニハ防蟻劑ヲ塗布シ殊ニ木ノ木口ハ侵サレ易キ爲充分ニ塗布シ且注入シ置ク事但シ防蟻劑ノ注入ニ就テハ頗ル困難ノ事柄ナレトモ直立材ニ對シテハ斜ニ徑一寸深二三寸ノ穴ヲ穿テ積材ニ對シテハ矢張り徑一寸深二三寸ノ穴ヲ穿テ防蟻劑ヲ注入シ置ク事

一 白蟻侵害ノ虞アル場所ハ日光ノ射入ヲ計リ又ハ充分ニ空氣拔テ取設ケル事
一 建物ノ局部ニ鯨油ヲ塗布シ若クハ注入シ又ハ鯨皮ヲ柱及土臺下等ニ敷ク事九州地方ニ行ハレ居ル豫防法ノ一ナルモ一回塗布シテ永久ニ效力アルモノニアラサレハ時時塗布又ハ注入ノ必要アリ
一 建物附近ニアル枯木及立木ノ腐朽セル部分ヲ精査シ白蟻ノ居リタル時ハ直ニ驅除シ防蟻劑ヲ撒布シテ其傳播ヲ防ク事
一 又建物附近ニ古材木ヲ堆積シ又ハ樹木ノ切株木片等ヲ埋没シ置クコトハ傳播ニ便ナルヲ以テ之レ等ハ取

除キ若クハ燒棄スル事

一 土臺下布石、同受石、柱沓石、床束石上端等木材附著ノ部分ハ土ヲ被ラサル機常ニ注意スル事又土臺ト地表トハ多少ノ空隙ヲ存シ置ク事若シ空氣ノ流通ヲ不利トスル箇所ハ石材、煉瓦又ハコンクリートヲ以テ其空隙ヲ塞ク事

一 防蟻劑ノ塗布方法ニ就テハ普通刷毛ニテ差支ナキモ塗布シ難キ場所ハポンプ又ハスロイトノ如キモノヲ使用スルヲ便利トス
一 白蟻ハ藥劑ニ對シテ極メテ抵抗力弱キモノナリ現今販賣セララル防蟻劑ニシテ臺灣總督府土木部ニ於テ試験セル結果ハ別表ノ通りニ付參考ニ供ス
一 白蟻ニ侵サレ易キ材木ハ松材ヲ以テ最トス故ニ同材使用ノ箇所ハ殊ニ注意ヲ要ス尙其他ノ材木ト雖モ一トシテ同蟲ニ侵サレサルモノナキカ如シ
(別表略ス)

六 刑務所建築設計變更ノ件

(大正十二年九月
行刑局長通達
行甲第一四〇三號)

今回ノ關東地方震災ノ情況ニ鑑ルニ倒壊セル建造物ハ多クハ煉瓦造石造ニシテ鐵筋コンクリートハ比較的耐震耐火性強キモノト認メラレ候條將來ノ新營ハ勿論目下煉瓦造石造ノ設計ヲ以テ建築中ノモノニ付テモ工事ノ進捗程度ニ依リテハ可成鐵筋コンクリートニ設計變更ノ上ノ工事ヲ進捗セシメラルル機御考慮相成度

七 工事設計仕様書、圖面並費用内譯書記載方ノ件

(大正十四年四月
司法大臣官房會計課長通達
會甲第百六十二號)

從來工事設計仕様書、圖面並費用内譯書ノ記載方區區ニ涉リ調査上差支候條自今左ノ通御處理相成度

- 一 設計仕様書、圖面並費用内譯書ハ各建物又ハ工作物ノ種目毎ニ別紙様式ニ依リ記載スルコト
- 二 設計ノ變更ヲ要スルトキハ變更ニ係ル設計書、圖面ハ勿論費用差引増減内譯書ヲ添付スルコト
- 三 定額豫算内ヲ以テ支辨スル工事又ハ古材並工賃ノ

ミニ依ル工事ト雖費用内譯書ヲ添付スルコト

- 四 有形ヲ變更スル小工事及維持保存上ニ係ル豫算増額稟請ニ付テハ前各項ヲ參酌シ調査ニ足ルヘキ書類圖面ヲ添付スルコト
- 五 混凝土造、石造、煉瓦造ノモノハ土地ノ狀況ニ依リ成ヘクメートル法ニ依リ記載スルコト

但シ國有財産臺帳記載方ハ國有財産法施行規則附則様式ノ改正セラレサル限り從來ノ通トスルコト

何何工事設計書

何造何葺平家又ハ何階建 何棟

此建坪何坪延坪何坪 一階 何坪
二階 何坪

何造何葺平家建何戸續キ 何棟

此建坪何坪 何所

何造門 何所

何何塀 何所

何何何何 何所

右仕様

一 基礎

杭打、割栗石又ハ
混凝土
木造ノ場合ハ根石
又ハ混凝土
其ノ仕様大
要及混凝土
調合割合
同上

一 軸組

鐵筋混凝土又ハ混凝土ナルトキハ其ノ構造ノ大要
(寸法及壁厚等ハ圖面ニ明記スルコト)

石造又ハ煉瓦造ナルトキハ其ノ品質及モルタルノ調合及壁厚補強方法等ノ大要

木造ノトキハ材料ノ品質及寸法(可成寸法ハ圖面ニ記入スルコト)間仕切等其ノ他軸組ニ要スル構造ノ大要

一 内外壁仕上

木造ナルトキハ内部漆喰塗又ハ板張外部ハ下見板張又ハモルタル等仕上ノ大要

鐵筋混凝土又ハ石造煉瓦造ナルトキハ顯ハシ又ハ漆喰、ルモタル塗等仕

一 立

棟ノ大要

調合ヲ要スルモノハ其ノ配合、品質、壁厚等

一 屋根葺

瓦葺、石盤、銅板、亜鉛引、鐵板葺其ノ仕様大要

鐵筋混凝土ナレハ其ノ調合及仕上等、木造ナレハ要部寸法其ノ他仕様大要(鐵筋配置及梁配置寸法ハ圖面ニ明記スルコト)

一 床

鐵筋混凝土ナレハ其ノ調合及仕上等、木造ナレハ要部寸法其ノ他仕様大要(鐵筋配置及梁配置寸法ハ圖面ニ明記スルコト)

一 階

段 (前同上)

一 天

井 板天井、漆喰天井、紙張天井等其ノ仕上クノ大要及床上下ヨリ天井迄ノ高サ

一 小

屋 鐵筋混凝土ナレハ(配筋及寸法ハ圖面ニ記入スルコト)其ノ配合

和小屋、西洋小屋租等其ノ構造ノ大要(寸法ハ圖面ニ記入スルコト)

一 雜

作 窓枠、出入口枠建具等ノ品質

構造ノ大要其ノ他雜作廻ハリノ重ナ

八 工事認可申請書ニ配置圖添付方ノ件

(大正十四年七月) 行刑局長事務取扱通達 行刑第一一八〇號

新管及修繕工事並工事設計變更等ニ付認可申請ノ場合其ノ局部圖面ノミテ添付スル向往往有之處理上不便カラス候條別ニ全體ノ配置圖ヲモ添付相成候様致度候

九 工事申請方ノ件

(大正十五年八月) 行刑局長通達 行刑第一二四二號

工事施行方上申ノ場合ハ刑務所會計事務章程第六條ニ依リ司法大臣宛稟請可相成義ニ有之候處往往宛名ノ記載ヲ謬リ若ハ内容不備簡略ニ過キ處理上支障不勝候ニ付テハ客年四月二十一日會甲第一六二一號通達ニ基キ作製ノ上遺漏ナキ様御取計相成度候

一〇 工事ニ關スル報告省略方ノ件

(大正十二年七月) 會計廳長 行刑局長通達 行刑第一〇七五號

三千圓未満ノ工事ニ付司法省所管工事取扱規程ヲ適用シ所定ノ報告ヲ爲ス向モ有之候處稟文ノ據モ有之候ニ付自今之ヲ省略スルコトニ御取扱相成度候

一 寫眞發送方ノ件

(昭和二年四月) 昭和二四年四月 行刑局長通達 刑務所長少年刑務所長宛 行刑第五六八號

参考上當局ニ備付ケ致度候條將來貴所設備ノ寫眞帳作成相成候場合ハ三部當局へ御送付相成度候 追テ貴所建築當時又ハ爾後撮影相成候モノ殘存候ハ此ノ際御回送相煩度

二 建築費ノ項内ニ於ケル豫算流用ノ件

(大正十三年八月) 廣島刑務所長 廣島第一四六一號

大正十二年六月勅令第三〇五號中俸給トアルハ經常部ニ於テハ項臨時部ニ於テハ目ヲ指稱シタルモノト存候ニ付臨時部建築費ノ項中建築費ノ目ニ余剩ヲ生シ之ヲ事務費ノ目ニ流用シ看守俸給宿料被服料實與其ノ他ノ費用ニ充當スルモ該勅令ニ抵触セサルモノト存候得共誤認ハ無之候哉

(大正十三年九月) 司法大臣官房會計課長 司法第一三三三三號

大正十二年勅令第三〇五號ノ規定ハ費途ニ付キ流用ヲ制限セラルモノニシテ項目ニ拘ラサルモノニ依テ案件ニ付テモ看守俸給支辨ノ爲ニハ流用シ得サルモノニ有之候

一三 價格ノ算定ニ關スル件

(明治四十二年九月) 德島監獄長 德島第一〇六五號

新管家屋ノ價格ヲ官有財産簿ニ登記方ニ付左記ノ事項承知致度候 一 新管豫算ノ配付ヲ受ケ囚徒ヲ使役シ家屋其他ノ營造物ヲ新管シ其ノ成工後官有財産簿ニ登記ヲ爲ス場

合其價格ヲ記入スルニハ配付豫算内ニ於テ現ニ仕拂ヒタル實費額ニ囚徒ノ手間賃ヲ加算シタルモノヲ記入スルヲ以テ正鵠ヲ得ルモノトスルヤ 二 目下當監ニ於テハ當監附屬地ニ存在セシ舊藩時代ノ米倉ヲ取毀テ而シテ古材ト他ノ新材トヲ取交セ官舎及合宿所ヲ新管中ノ處之カ成工後官有財産簿ニ登記ヲ爲ス場合價格ノ記入ハ其新管配付豫算内ニ於テ支辨セシ材料ノ購入額ニ取毀テ古材ノ評價額ヲモ加ヘタルモノヲ記入スルモノナルヤ

(明治四十二年十月) 司法省會計課長 德島第一四七九號

一四 修繕工事ニ從事スル工師工手名稱區分ノ件

(明治三十六年十月) 司法省會計課長 德島第一五四〇號

新管費又ハ修繕費豫算内ヲ以テ給料支出ノ技術者ハ從來工事屋若クハ臨時雇等區區ノ名稱ニ相成居候處自今左表ノ區別ニヨリ工師工手ノ名稱ニ改正相成度

工	師	工	手
月	給	月	給
六十	一圓以上	六十	一圓以下

一五 繕繕工事ニ從事スル工手俸給

明治四十年四月
司法省監獄局長通達
官甲第五二〇號

一六 工事監督旅費支出科目ノ件

大正十四年四月
果嶋刑務所長同答
官甲第四七〇號

本所移繕工事監督ノ爲小職及典獄補力東京府北多摩郡府中町移繕場へ出張ニ要スル旅費ハ果嶋刑務所移繕費

大項事務費ノ目ヨリ支出シ差支無之候哉
大正十四年四月
司法大臣官房會計課長同答
官甲第一四八〇號

一七 建築工事直營ノ爲臨時増置ノ看守給與ノ件

大正八年九月
廣島監獄典獄長同答
官甲第二四二三號

俸給給與ハ總テ臨時建築費ヨリ支辨スルコトト有之候ニ就テハ看守ニ貸與若ハ給與スル被服帶具ハ總テ臨時建築費ヨリ支辨スヘキヤ又ハ代料給與ニ係ルモノハ臨時建築費ヨリ支辨シ現品給與ニ係ルモノハ經常部ヨリ支辨スヘキヤ

大正八年九月
監獄局長會計課長同答
官甲第一〇五四號

一八 建築場ニ於ケル歳入歳出外現金出納官吏、物品會計官吏、物

品出納命令ノ事務分掌及假設

大正五年四月
札幌監獄典獄長同答
官甲一〇二四號ノ二

一 旭川分監建築場ニ於テハ(分監開廳ニ至ルマテノ一間)在監者ノ出入事務ハ取扱ハサル見込ニ有之候得共同地ニ於テ工事材料購買入札執行ヲ便宜トスル場本合入札保證金等現金ノ出納ヲ取扱ハシムル爲出張所ト看做シ會計事務章程第三條第二項ニ依リ建築場勤務看守長ニ歳入歳出外現金出納官吏ヲ命シ度差支ナキヤ

二 同上建築工事中(分監開廳ニ至ルマテノ間)建築場勤務看守長ニ分任物品會計官吏ヲ命シ建築工事ノ材料器具並工事執行上拘禁スル在監者ノ獄用品等ノ保管出納事務ヲ取扱ハセ尙(會計事務章程第二條第三項)現行第二條第三項ノ例ニ倣ヒ命令ノ事務ヲ分掌セシメ度候處出張所ニハ以上ノ職員ヲ置カレザル同規程ナレトモ稟請セハ認可セラルヘキ御見込ナレヤ

三 工事ノ事務所及假監房其ノ他炊事場等假設建物ニ

一 電燈ヲ設備シ其ノ料金ヲ本工事費中ノ事務費ヨリ支出致度差支ナキヤ又個數並其ノ位置ハ工事ノ進行ニ當テ増減變更スルコトアルヘキハ小官限宜施行差支ナキヤ

大正五年四月
司法大臣官房會計課長同答
官甲第六八九號

第一第二ハ何レモ稟請相成候ハハ認可ノ見込ニ有之第三電燈料ハ(1)工事事務所ニ屬スル分ハ費見ノ通(2)假監房其ノ他炊事場等ノ假設建物ニ屬スル分ハ經常費ヨリ支出相成可然而シテ右(1)(2)トモ個數位置ノ増減變更ニ付テハ費見ノ通ト在候

一九 刑務所改築繼續工事中直營工

四治三十六年十一月
司法省會計課長通達
官甲第一一三號

監獄改築繼續工事中直營事業ニ專用スル器具機械類ノ

新調又は修繕ニ要スル費用ノ費途ハ從來區區ニ相成整理上宜シキヲ得サルニ付右ハ自今當該建築費ノ内ヨリ支辨スヘキコトニ決定致候條右様御取扱相成度
 追テ本文ニ該當スル物品ニシテ從來作業用器具機械下シテ整理セシ分ハ此際建築物品ニ組替整理相成可然

二〇 建築器具機械及材料ノ不用品
 取扱方ノ件

明治四十年十一月
 山形監獄長同答
 發第 一 二 六 號

本監建築工事ニ使用シタル一切ノ物品處置ニ關シ左記ノ各項爲念御意見承知致候
 一 器具機械普通作業ニ必要ノモノハ「獄用備品」へ組換へ使用シ殘餘ハ賣却スルモ差支ナキカ將又ハ當分保管シ追テ必要アル他監獄ノ所望ニ應スヘキカ
 二 材料素品及消耗品ノ過剩トナリタルモノハ賣却スルモ差支ナキカ將又應用消耗品へ組換へ置キ將來經常修繕費ヲ以テ建物ニ修繕チ加フル場合之カ材料トシテ使用スルモ妨ナキカ

三 備品ハ普通備品トシテ必要ノモノハ之ヲ應用備品へ組換へ不用ニ屬スルモノハ賣却スルモ差支ナキカ

明治四十一年一月
 司法省監獄局長同答
 監甲第 七 八 三 號

一 器具機械ハ「獄用品」へ組替使用シ殘餘ハ他日某監獄ニ於テ必要可有之ト存候ニ付當分保管相成度候
 二 第二第三項ハ御見込ノ通差支無之候得共可成利用シ到底使用ニ堪ヘサルモノニ限り賣却セラルル様致度候

二一 工事ニ要スル器具機械ノ修繕費ノ件

大正五年十一月
 名古屋監獄長同答
 發第 三 八 〇 六 號

當監監房其ノ他新營ニ要スル器具機械ハ新營費中器具機械費ヲ以テ購入致候外「安濃津」暨多摩兩監獄ニ建築ニ使用シ當時不用ニ屬シタルモノヲ保管轉換相受尙當監作業器具ノ一部ヲ組替主任物品會計官吏ノ管理ニ屬セシメ使用致居候處自然破損修理ヲ要スル場合ハ之ニ要スル素品消耗品ハ總テ新營器具機械費ヨリ購入ス

テ加工チ作業ニ托シ其ノ勞力賃ハ「在監人費」ノ項「就役費」ノ目ニ屬スル器具機械修繕ノ例ニ準シ無償ニテ整理候様取扱度被存候處御意見如何可有之候哉

大正五年十一月
 司法省監獄局長同答
 監甲第 二 〇 三 三 號

二二 新營二件ノ建築具ノ製作代ノ件

明治三十五年九月
 山形監獄長同答
 發第 八 八 二 號

監獄作業ニ依リ製作スル物品及單ニ囚人ノ勞力ヲ監獄ノ用ニ供スル場合之ニ對スル經費整理方ニ就テハ本年三月總務長官ヨリ通牒ノ次第モ有之候處左ノ點疑義相生候ニ付何分ノ御指示ヲ煩シ度
 本監ニ於テ目下病監ノ新營ニ著手中ニ有之該監ニ要スル建築具ノ類囚人ヲシテ製作セシムヘキ見込ニ候處右

ハ前記通牒第一項ニ依ルヘキカ將タ第二項ニ依ルヘキカ若シ前該科目ヨリ支出シ釘疊絲等ハ「就役費」ヨリ支出整理スヘキモノニ候哉後段ノ如ク解スルモノトスレハ作業名稱別標準ノ管轄ノ業目中ニ指物工疊工等ノ種目ヲ設ク作業ニ關スル諸表ヲ整理スヘキモノニ候哉

明治三十五年九月
 司法省監獄局長同答
 監丙第 九 九 八 號

二三 建築ノ爲取毀チタル古材整理方ノ件

大正七年十二月
 京都地方裁判所書記官同答
 會第 四 四 〇 三 號

當監舊監舍建物取毀請負契約成立シ來ル十五日ヨリ著手ノ筈ニ候處右取毀古材ノ登記ニ關シ左記ノ通疑義相生シ候モ右ハ新監舍工事中供用材トシテ拂出ヲ要スルチ以テ「中略」何分ノ御指示相成度

第二十六章 出納官吏

出納官吏

一 出納官吏事務規程

(大正十一年一月
大藏省令第二號)

改正 大正一五年第七號、昭和元年第二號、

第一章 總則

第一條 出納官吏ハ本令ノ定ムル所ニ依リ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ處理スヘシ

第二條 出納官吏法令ノ規定ニ依リ現金ニ代ヘ證券ヲ受領シタルトキハ現金ニ準シ之カ取扱ヲ爲スヘシ

第三條 出納官吏其ノ手許ニ保管スル現金ハ之ヲ堅牢ナル容器中ニ藏置スヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ郵便局若ハ確實ナル銀行ニ預入又ハ資産信用アル者ニ其ノ保管ヲ託シ其ノ他適當ノ方法ニ依リ之ヲ保管スルコトヲ得

第四條 出納官吏其ノ取扱ニ係ル現金ハ私金ト混同スルコトヲ得ス

第五條 出納官吏他ノ公金ノ出納保管ヲ兼掌スル場合ニ於テハ其ノ現金ハ官金ト区分シ同一容器中ニ之ヲ保管スルコトヲ得

第六條 出納官吏本令ノ定ムル所ニ依リ振出ス小切手ハ本令中別段ノ定アル場合ヲ除クノ外之ヲ記名式持參人携ト爲スヘシ

第七條 官廳、出納官吏又ハ日本銀行ヲ受取人トシテ振出ス小切手ハ之ヲ記名式トシ之ニ裏書禁止ノ旨ヲ記載スヘシ

第八條 現金出納簿ハ一人一冊トシ出納官吏ハ職務及所管廳ノ如何ヲ問ハス其ノ取扱ニ係ル現金ノ出納ヲ總テ之ニ記入スヘシ

第九條 外國ニ於ケル出納官吏ノ事務取扱ニシテ本令ニ依リ難キモノニ付テハ特別ヲ設クルコトヲ得

第十條 各省大臣ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外其ノ所屬出納官吏ノ事務取扱ニ付大藏大臣ト協議シ之カ必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ得

第十一條 本令ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出納員

ノ事務取扱ニ付之ヲ準用ス

第十二條 本令中各省大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝

鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ

樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島

ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ

第二章 收入官吏

第一節 收入金ノ領收

第十三條 收入官吏納人ヨリ納稅告知書、納入告知書

又ハ納付書ヲ添ヘ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ之ヲ

收納シ領收證書ヲ納人ニ交付シ其ノ報告書ヲ歳入徵

收官ニ送付スヘシ

第十四條 收入官吏納人ヨリ納稅告知書、納入告知書

又ハ納付書ヲ添付セシテ現金ノ納付ヲ受ケタルト

キ又ハ歳入徵收官ノ口頭告知ニ依リ現金ノ納付ヲ受

ケタルトキハ之ヲ收納シ領收證書ヲ納人ニ交付シ其

ノ報告書ヲ歳入徵收官ニ送付スヘシ

第十五條 收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ邦貨ヲ基礎ト

スル收入金ヲ外國貨幣ヲ以テ收納セムトスルトキハ

別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ算出シタル金額

ノ外國貨幣ヲ收納スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ歳入徵收官ニ送付スル報告書ニ

記載スヘキ邦貨額ニ外國貨幣額及外國貨幣換算價格

ヲ傍記スヘシ

第十六條 收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ外國貨幣ヲ基

礎トスル收入金ヲ邦貨ヲ以テ收納セムトスルトキハ

別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル金額

ノ邦貨ヲ收納スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ歳入徵收官ニ送付スル報告書ニ

邦貨額ヲ記載シ外國貨幣額及外國貨幣換算價格ヲ傍

記スヘシ

第十七條 收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ外國貨幣ヲ基

礎トスル收入金ヲ外國貨幣ヲ以テ收納シタルトキハ

別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル邦貨

額ヲ歳入徵收官ニ送付スル報告書ニ記載シ其ノ收納

シタル外國貨幣額ヲ傍記スヘシ

第十八條 日本銀行(本店、支店)又ハ代理店ヲ謂フ以下

同シノ所在地ニ在動スル收入官吏其ノ在動地ニ於テ

現金ヲ領收シタルトキハ第一號書式ノ現金拂込書ヲ

添ヘ現金領收ノ日又ハ其ノ翌日日本銀行ニ拂込ムヘ

シ但シ領收金額百圓未満ナルトキハ毎十日分ヲ取纏

メ日本銀行ニ拂込ムコトヲ得

第十九條 日本銀行所在地外ニ在動スル收入官吏其ノ

在動地ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ左記期限内ニ

現金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込ムヘシ但シ第二號

乃至第四號ノ場合ニ於テハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ

起算シテ十五日ヲ超ユルコトヲ得ス

一 領收金高百圓未満ナルトキハ最初ノ現金領收ノ

日ヨリ起算シテ十五日内

二 領收金高百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ

起算シテ十日内

三 領收金高五百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨ

リ起算シテ五日内

四 領收金高千圓以上ニ達シタルトキハ其ノ翌日限

内

第二十條 收入官吏其ノ在動地外ニ於テ現金ヲ領收シ

タルトキハ第十八條ノ規定ニ準シ拂込ヲ爲シ得ル場

合ヲ除クノ外前條ノ規定ニ準シ之ヲ拂込ノ手續ヲ爲

スヘシ

第二十一條 運輸交通ノ不便ナル地方ニ在動スル收入

官吏ニシテ第十九條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ

所管大臣大藏大臣ト協議シ之カ特例ヲ設クルコトヲ

得

第二十二條 收入官吏外國ニ於テ現金ヲ領收シタルト

キハ前四條ノ規定ニ準シ之ヲ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ外國貨幣ノ拂込ヲ爲サムトスルト

キハ現金拂込書ニ邦貨額ヲ記載シ外國貨幣額ヲ傍記

スヘシ

第二十三條 收入官吏外國ニ於テ領收シタル現金ニシ

テ前條ノ規定ニ依リ拂込ヲ爲スコト能ハサルモノニ

付テハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外一月分ヲ取纏メ

之ヲ爲替券ニ換ヘ現金拂込書ヲ添ヘ日本銀行本店ニ

拂込ムヘシ

前項ノ現金拂込書ニハ邦貨額ヲ記載シ爲替券面額ヲ

傍記スヘシ

第三節 現金拂込報告

第二十四條 收入官吏ハ現金出納簿ニ依リ毎月第二號

書式ノ現金拂込仕譯書ヲ調製シ翌月五日迄ニ之ヲ歳

入徵收官ニ送付スヘシ

分任收入官吏ノ調製シタル現金拂込仕譯書ハ主任收

入官吏ニ於テ之ヲ取纏メ歳入徵收官ニ送付スルモノ

トス但シ收入徵收官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ

分任收入官吏ヲシテ直接之ヲ送付ヲ爲サシムルコト

ヲ得

第三章 資金前渡官吏

第一節 總 則

第二十五條 資金前渡官吏日本銀行ニ資金ヲ預金スル場合ニ於テハ該資金前渡官吏ヲ任命シタル者雖メ其ノ資格氏名ヲ當該日本銀行ニ通知スヘシ

第二十六條 資金前渡官吏ハ前條ノ場合ニ於テ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ニ官職氏名ヲ記載シ之ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第二十七條 日本銀行所在地ニ在動スル資金前渡官吏ハ其ノ保管ニ屬スル現金ヲ其ノ地ノ日本銀行ニ預託スヘシ但シ常時小口ノ現金支拂ヲ要スル場合ニ於テ

支出官ノ定ムル所要金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 日本銀行所在地外ニ在動スル資金前渡官吏ハ其ノ在動地又ハ出張地最寄ノ日本銀行ニ其ノ保管ニ屬スル現金ヲ預託スルコトヲ得日本銀行所在地ニ在動スル資金前渡官吏在動地外ニ於テ現金ヲ保管

スルトキ亦同シ

第二十九條 資金前渡官吏前二條ノ規定ニ依リ其ノ現金ヲ日本銀行ニ預託セムトスルトキハ之ニ第三號書式ノ預託金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込ミ預託金額收證書及小切手用紙ノ交付ヲ受クヘシ

第三十條 資金前渡官吏日本銀行ニ預託シタル現金ヲ引出サムトスルトキハ自己ヲ受取人トスル小切手ヲ振出スヘシ

第三十一條 資金前渡官吏債主ヨリ支拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ請求ハ正當ナルカ、資金交付ヲ受ケタル目的ニ違フコトナキカヲ調査シ之カ支拂ヲ爲シ領收證書ヲ徴スヘシ

第三十二條 資金前渡官吏官判任以上ノ者ノ俸給ノ仕拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ俸給額ヨリ國庫納金額ヲ控除シタル殘額ノ支拂ヲ爲シ其ノ領收證書ヲ徴スヘシ

第三十三條 民法ノ規定ニ依リ政府ト私人トノ債務ノ相殺アリタルトキハ資金前渡官吏ハ相殺額ヲ控除シタル殘額ノ支拂ヲ爲シ其ノ領收證書ヲ徴スヘシ

第三十四條 資金前渡官吏日本銀行預託金中ヨリ支拂ヲ爲サムトスルトキハ現金ノ交付ニ代ヘ該預託金ニ對スル小切手ヲ振出スヘシ但シ受取人ニ於テ特ニ現金ノ交付ヲ求メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 資金前渡官吏ハ其ノ振出シタル小切手ニシテ振出日附後一年ヲ経過シ日本銀行ニ於テ未ダ支拂ヲ了セサルモノニ付テハ其ノ金額、年度、科目及債主名ヲ支出官ヲ經由シテ記入簿收官ニ報告スヘシ

第三十六條 資金前渡官吏前條ノ金額ニ付記入簿收官ヨリ納入ノ告知ヲ受ケタルトキハ該金額ヲ券面金額トシ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ該告知書ニ添ヘ日本銀行ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ニ依リ納入ノ告知ニシテ前任出納官吏ノ小切手振出ニ保ルモノナルトキハ前項ノ小切手表面餘白ニ「前任出納官吏何某振出ニ保ル分」ト記載スヘシ

第三十七條 第三十四條ノ小切手ニシテ其ノ振出日附ヨリ一年ヲ経過シ日本銀行ニ於テ支拂ヲ拒絶セラレ

タルカ爲其ノ所持人ヨリ償還ノ請求アリタルトキハ資金前渡官吏ハ之ヲ調査シ償還スヘキモノト認ムルトキハ事由ヲ詳ニシ證據書類ヲ添ヘ支出官ヲ經由シ之ヲ所管大臣ニ具申シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第三十八條 前二條ノ場合ニ於テ資金前渡官吏交替シタルトキハ後任官吏ニ於テ之カ手續ヲ爲スヘシ但シ後任官吏ナキ場合ニ於テハ其ノ職務ヲ引繼キタル官吏其ノ手續ヲ爲スモノトス

第三十九條 資金前渡官吏資金ヲ隔地ノ出納官吏ニ送付スル必要アル場合ニ於テハ日本銀行ニ之カ送金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 資金前渡官吏前條ノ送金ヲ請求セムトスルトキハ送金額ヲ券面金額トシ日本銀行ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ其ノ裏面ニ受取人ノ資格氏名、支拂店名及送金ヲ要スル旨ヲ記載シ之ヲ預託金取扱フ日本銀行ニ交付シ領收證書ヲ徴スヘシ

前項ノ場合ニ於テ資金前渡官吏ハ第四號書式ノ預託金支拂通知書ヲ受取人ニ送付スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ資金前渡官吏電信送金ヲ要スルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ其ノ旨ヲ記入スル

ト共ニ前項ノ通知書ニ代ヘ電信ヲ以テ受取人ニ通知スヘシ

第四十一條 支出官事務規程中歳出金支拂通知書所載ノ支拂場所ノ變更ニ關スル規定ハ前條ノ預託金支拂通知書ノ支拂店變更ニ付之ヲ準用ス

第四十二條 毎年度ニ屬スル歳出金ノ支拂ヲ爲シ得ルハ翌年度四月三十日限トス

第四節 拂込及返納

第四十三條 資金前渡官吏第三十二條ノ手續ヲ爲シタルトキハ國庫納金額ニ相當スル現金ニ第五號書式ノ國庫納金額表ヲ添ヘ歳入徴收官ノ指定シタル收入官吏ニ拂込ミ領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

第四十三條ノ二 前條ノ規定ハ資金前渡官吏第三十二條ノ二ノ手續ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ健康保險料被保險者負擔金表ハ第五號ノ二書式ニ依ル

第四十四條 資金前渡官吏第三十三條ノ手續ヲ爲シタルトキハ相殺金額ニ相當スル現金ニ第六號書式ノ相殺額表ヲ添ヘ歳入徴收官ノ指定シタル收入官吏ニ拂込ミ領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ政府ノ債權者資金前渡官吏所屬廳以外ノ官廳ニ對スル債務ヲ以テ相殺シタルトキハ該

官廳ノ歳入徴收官ヨリ納入告知書ヲ受ケ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十五條 政府ノ收納スヘキ金額カ相殺額ト同額ナルトキ又ハ之ヲ超過スル場合ニ於テハ資金前渡官吏相殺金額ニ付前條ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ收納金額ノ相殺額ヲ超過シタルモノニ付テハ資金前渡官吏ハ相殺額ヲ超過シタル金額及相殺ノ相手方ノ氏名ヲ歳入徴收官ニ報告スヘシ

第四十六條 資金前渡官吏其ノ前渡ヲ受ケタル資金ニ付支出官又ハ歳入徴收官ヨリ返納又ハ納入ノ告知書ヲ受ケタルトキハ現金ニ該告知書ヲ添ヘ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十七條 資金前渡官吏ハ前五條ノ場合ニ於テ日本銀行ニ預託シタル金額中ヨリ拂込ヲ爲サントスルトキハ拂込金額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出スヘシ

第四十八條 前條ノ規定ニ依リ振出ス小切手ハ當該官廳ヲ受取人トシ表面餘白ニ第四十三條ノ場合ニ於テハ「國庫納金第四十三條ノ二」ノ場合ニ於テハ「健康保險料被保險者負擔金」ノ印第四十四條及第四十五條ノ場合ニ於テハ相殺額ノ印ヲ押捺スヘシ

第五節 證明

第四十九條 資金前渡官吏日本銀行統轄店又ハ特扱代理店ヨリ預託金拂込書並支拂濟小切手ノ番號及金額ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ預託金月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日以内ニ之ヲ統轄店又ハ特扱代理店ニ送付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ返付スル場合ニ於テハ小切手ノ支拂店ヲ經由スヘシ

第四章 歳入歳出外現金出納官吏

第五十條 歳入歳出外現金出納官吏現金ヲ領收シタルトキハ領收證書ヲ交付シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スヘシ

第五十一條 歳入歳出外現金出納官吏ノ領收シタル現金ヲ大藏省預金部預金ニ拂込ヲ爲ス場合ニ於テハ保管金取扱規程及預金部預金取扱規程ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第五十二條 歳入歳出外現金出納官吏其ノ保管ニ係ル現金ヲ拂渡シタルトキハ受取人ヨリ領收證書ヲ徴シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スヘシ

第五章 繰替拂出納官吏

第五十三條 本令ニ於テ繰替拂出納官吏ト稱スルハ會

計規則第六十三條ノ規定ニ依リ其ノ取扱ニ係ル現金ノ繰替使用ヲ爲ス出納官吏ヲ謂フ

第五十四條 繰替拂出納官吏ハ其ノ取扱ニ係ル歳入金、歳出金及歳入歳出外現金ニ付交互振替及繰替計算ヲ以テ之カ受拂ヲ爲シ其ノ現金ハ之ヲ一團トシテ取扱フヘシ

第五十五條 繰替拂出納官吏ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ保管ニ係ル現金ヲ日本銀行ニ預託スヘシ

第五十六條 第三十九條乃至第四十一條ノ規定ハ帝國鐵道官署ニ於ケル繰替拂出納官吏隔地ノ債主又ハ出納官吏ニ送金ヲ爲スノ必要アル場合ニ付之ヲ準用ス但シ預託金支拂通知書ハ第七號書式ニ依ルモノトス

前項ノ場合ニ於テ運輸交通ノ不便ノ地ニ在ル債主又ハ出納官吏ヨリ其ノ住所又ハ居所ニ送金ヲ求メタルトキハ其ノ住所又ハ居所ヲ支拂場所ニ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ預託金支拂通知書ニ代ヘ適宜ノ通知書ヲ受取人ニ送付スヘシ

第五十七條 第十三條乃至第十七條、第二十五條、第二十六條、第二十六條ノ二、第二十九條、第三十條、第三十四條乃至第三十八條、第四十二條、第四十九條、第五十條及第五十二條ノ規定ハ繰替拂出納官吏

ニス之ヲ準用ス
 第五十八條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外繰替拂出納官吏ノ事務取扱ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ
 第六章 事務引繼手續
 第五十九條 出納官吏交替ノ場合ニ於テハ前任出納官吏ハ現金出納簿ニ締切ヲ爲シ引繼ノ年月日ヲ記入シ後任出納官吏ト共ニ記名捺印スヘシ
 第六十條 日本銀行ニ預託金チ有スル前任出納官吏ハ前條ノ締切ヲ爲シタル日ニ於ケル預託金現在高ノ證明チ日本銀行ニ對シ請求スヘシ
 第六十一條 前任出納官吏ハ第八號書式ノ現金現在高書又ハ現金及預託金現在高書並其ノ引繼クヘキ帳簿、證據其ノ他ノ書類ノ目錄各二通ヲ調製シ後任出納官吏立會ノ上現物ニ對照シ受授ヲ爲シタル後現在高書及目錄ニ年月日及受授ヲ了シタル旨ヲ記入シ兩出納官吏ニ於テ記名捺印シ各一通ヲ保存スヘシ
 第六十二條 前條ノ手續ヲ了シタルトキハ前任出納官吏ハ後任出納官吏ト共ニ記名捺印ノ上預託金現在高引繼通知書ヲ所屬官廳及日本銀行ニ送付スヘシ
 前項ノ通知書ニハ前任出納官吏ノ振出シタル小切手ニシテ日本銀行ニ於テ未タ支拂ヲ了セサル金額チ區

分記載スヘシ
 第六十三條 第二十四條ノ規定ニ依リ調製スヘキ現金拂込仕書ハ後任收入官吏ニ於テ之ヲ調製スヘシ
 第六十四條 前任出納官吏死亡又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引繼ヲ爲スコト能ハサルトキハ會計規則第四百四十六條ノ規定ニ依リ計算書ノ調製ヲ命セラレタル官吏本章ノ定ムル所ニ依リ之カ手續ヲ爲スヘシ
 第七章 雜 則
 第六十五條 出納官吏其ノ保管ニ係ル現金チ亡失シタルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ所屬官廳ニ報告スヘシ
 第六十六條 出納官吏領收濟報告書、現金拂込書又ハ預託金拂込書ノ記載事項中誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ歳入徵收官又ハ日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スヘシ
 第六十七條 出納官吏預託金支拂通知書ノ記載事項中金額以外ノモノニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ受取人チシテ該預託金支拂通知書ヲ提出セシメ之カ訂正ヲ爲シ其ノ事由ヲ記入シ之ヲ受取人ニ返付スヘシ
 第六十八條 出納官吏第四十條及第五十六條ニ規定ス

ル小切手ノ裏面記載事項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スヘシ
 第六十九條 出納官吏現金拂込ニ係ル領收證書又ハ預託金領收證書チ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於テハ日本銀行ヨリ其ノ拂込濟ノ證明ヲ受クヘシ
 第七十條 支出官事務規程中歳出金支拂通知書チ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱ニ關スル規定ハ第四十條第二項及第五十六條第一項ニ規定スル預託金支拂通知書チ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱ニ付之ヲ準用ス
 第七十一條 出納官吏預託金月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行統轄店又ハ取扱代理店ニ送付スヘシ
 前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ送付スル場合ニ於テハ小切手ノ支拂店ヲ經由スヘシ
 第七十二條 出納官吏第三十九條又ハ第五十六條ノ規定ニ依リ送金チ依頼シタル後其ノ必要ナキニ至リタルトキハ支拂未了ナル場合ニ限り日本銀行ニ對シ預託金ニ戻入ヲ請求スヘシ其ノ小切手振出日附後一年ヲ經過シ仍支拂ヲ了セサルモノニ付亦同シ

附 則
 第七十三條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第七十四條 左ノ大藏省令ハ之ヲ廢止ス
 出納官吏現金取扱規則
 明治三十年大藏省令第一號
 帝國鐵道會計所屬出納官吏雜部保管金取扱手續
 監隊經費ヲ取扱フ出納官吏雜部保管金取扱手續
 第七十五條 本令施行前金庫ニ寄託ヲ爲シタル現金ハ本令ニ依リ日本銀行ニ預託シタルモノト看做ス
 第七十六條 本令施行前發行シタル保管金引出符又ハ雜部保管金仕拂通知書ハ本令ニ依リ發行シタル小切手又ハ預託金支拂通知書ニ準シテ之ヲ取扱フヘシ

通 知 書

第「何」號 【大正】「何」年度

「經常(臨時)」	「何廳主任收入官吏官氏名」 拂込人又ハ「何廳主任收入官吏官氏名所屬」 「何廳分任收入官吏官氏名」
----------	--

金

上記ノ金額領收済ニ付通知候也

【大正】「何」年「何」月「何」日

日本銀行「何」店 團

「歳入徴收官官氏名」宛

領 收 證 書

第「何」號 【大正】「何」年度

「所管廳」	「歳入徴收官官氏名」
「經常(臨時)」	「何廳主任收入官吏官氏名」 拂込人又ハ「何廳主任收入官吏官氏名所屬」 「何廳分任收入官吏官氏名」

金

上記ノ金額領收候也

【大正】「何」年「何」月「何」日

日本銀行「何」店 團

備考

一 用紙寸法 横 三寸六分 縦 三寸八分

輪廓寸法 横 三寸五分 縦 三寸三分

ノモノ三枚接続トシ左方ニ一寸ノ緩代ヲ設クヘシ

二 金額、番號、年度、所管廳名、歳入徴收官官氏名及經常臨時部名ハ收入官吏ニ於テ記入スルモノトス

第二號書式

【大正】「何」年度

【大正】「何」年「何」月分現金拂込仕譯書

摘 要	金 額	備 考
前月迄拂込未済		
本月中現金領收高		
計		
本月中現金拂込高		
差引翌月へ越		

【大正】「何」年「何」月「何」日

「主任(又ハ分任)收入官吏官氏名」 宛

「歳入徴收官官氏名」 宛

備考 用紙ハ美濃判四分ノトス

第三號書式

預託金拂込書

第「何」號

金

上記ノ金額預託候也

【大正】「何」年「何」月「何」日

「何廳出納官吏官氏名」 宛

日本銀行「何」店宛

備考 用紙 適宜

用紙寸法 美濃判四分ノ一

原符ハ適宜之ヲ設ケルコトヲ得

第一號書式

現金拂込書

第「何」號 【大正】「何」年度

「所管廳」 「歳入徴收官官氏名」

「經常(臨時)」 「取扱廳」

金

上記ノ金額拂込候也

【大正】「何」年「何」月「何」日

「何廳主任收入官吏官氏名」 宛

又ハ「何廳主任收入官吏官氏名所屬」

「何廳分任收入官吏

官氏名」 宛

